

第三百九十九條ノ三

○商法第二百九十九條ノ三第二項ノ規定カ第三者ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者ト定メタル生命保險ニ準用セラルル場合ニ於テハ該條項ニ保險契約者トアルハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ニ該當スルモノトシテ解釋スヘキモノトス

第四百十六條

○商法第四百十六條第一項ノ規定ノ損害行為ヲ爲シタル第三者ト其行為ニ因リテ債務ヲ負擔シタル第三者ト同一人タル場合ニ限ラス彼此其人ヲ異ニスル場合ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

第二節 生命保險

第一百九十九條

○民法第一百九十九條但書ノ規定ハ商法及ヒ商慣習ニ牴觸スル所ナキヲ以テ生命保險契約ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

○生命保險契約ニ於テ保險業者カ一タヒ適法ニ定メタル普通保險約款ハ之カ變更ヲ爲シタル事跡ノ存セサル以上ハ其内容ニ差異ノ存スヘキモノニ非サレハ普通保險約款ニ依ル旨ヲ記載セル申込書ニ所謂普通保險約款ハ反證ナキ限り保險者カ保險契約者ニ交付スル保險證券記載ノ普通保險約款ト同一ニシテ保險契約者ハ其約款ニ據ルノ意思ヲ以テ契約

シタルモノト推定スルヲ相當トス

○改正前ノ商法中生命保險ニ關シ民法第五百三十七條ノ適用ヲ除外セル規定ナケレハ商法改正前ノ生命保險契約ニ於テ保險金受取人カ第三者ナルトキハ其者ノ權利ハ民法ノ通則ニ從ヒ利益享受ノ意思表示ヲ爲シタル時ニ發生シ及ヒ確定シタルモノトス

○如上ノ場合ニ於テハ第三者カ保險者ニ對シテ利益享受ノ意思表示ヲ爲ス迄ハ保險契約者ハ自由ニ保險金受取人ヲ變更シ又ハ指定スルコトヲ得ヘク敢テ第三者ノ承諾ヲ要セサリシモノトス

○保險契約ニ關スル規定ハ公益ニ關スルモノニ非サル限ハ任意法規ニシテ當事者間ノ契約ヲ以テ之ニ異ナリタル定ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

○保險契約カ當時ノ普通保險約款ニ依リ有效ニ締結セラレタル以上ハ後日保險者ニ於テ其普通保險約款ヲ改正スルモ其改正カ相手方ニ利益ナルト否トヲ問ハス當然改正前ニ締結セラレタル保險契約ニ及ホスヘキモノニ非ス

○保險契約ノ當事者ハ將來普通保險約款改正ノ場合ニ於テハ自己ニ利益ナル場合ト否トヲ問ハス常ニ改正約款ニ依ルヘキ意思ヲ有スルモノト推定スルヲ得ス

七四六

一三三六

一三三六

二二〇五

二二〇三

二二〇三

八三

二八七

二四一

二八二

第四百二十七條

○商法第四百二十七條ニ所謂生死トハ死亡ト生存トノ二者ヲ云フモノニシテ出生ヲ包含スルモノニ非ス又妊婦ハ其胎兒又ハ自己ノ身體ニ就キ金錢上ノ利益ヲ有スルモノト言フコトヲ得サレハ出生ヲ條件トシテ多數ノ契約者ヨリ報酬ヲ釀出セシメ會社ヨリハ之ニ對シテ保護料ヲ支拂ヒ其差額ヲ利得セントスル會社事業ハ生命保險ニモ非ス損害保險ニモ非サルナリ

第四百二十八條

○商法第四百二十八條第四項ノ規定ハ保險契約者カ被保險者ト別人ナル場合ハ勿論其同人ナル場合ニ於テモ亦之ヲ適用スヘキモノトス
○商法第四百二十八條第二項ノ規定ハ生命保險契約ニ定メタル生死ノ條件成就若クハ期限到來以前ニ係ル權利ノ讓渡ヲ制限シタルモノナレハ其條件既ニ成就シ又ハ期限既ニ到來セル場合ニハ之ヲ適用スヘキ限ニ在ラス
○生命保險契約ニ於テ第三者ヲ以テ保險金ヲ受取ルヘキ者ト定メタルトキト雖モ保險契約者ノ保險者ニ對スル權利義務ハ保險契約者死亡ノ場合ニハ其相續人ニ移轉スルモノニシテ保險金ヲ受取ルヘキ者ニ於テ之ヲ承繼スヘキモノニ非ス故ニ保險者カ商法第四百二十九條第一項ニ

第四百二十九條

從ヒテ爲ス契約解除ノ意思表示モ亦之ヲ保險契約者ノ相續人ニ對シテ爲スコトヲ要スルモノトス
○商法第四百二十九條ニ所謂重要ナル事實又ハ事項トハ被保險者ノ生命ニ關スル危險測定ノ爲メニ必要ナル事實又ハ事項ニシテ約定ノ條件又ハ其他契約ヲ締結スルヤ否ヤヲ決スルニ付キ影響ヲ及ボスヘキモノヲ指稱スルモノトス
○被保險者ノ血族殊ニ尊族親ニ遺傳的疾ノ存スルヤ否ヤ又ハ其健否死亡年齡死因ノ如何等ハ商法第四百二十九條ニ所謂重要ナル事實又一事項ニ該當スルモノトス
○告知義務者カ保險契約ノ當時重要ノ事實ヲ思ヒ浮ヘサリシトスルモ些少ノ注意ヲ用ユレハ之ヲ思ヒ浮ヘ得ヘカリシ場合ナランニハ重大ナル過失ニ因リテ重要事實ヲ告知セサリシモノト爲ヌヘキモノトス
○保險醫カ被保險者ノ健康診斷上爲シタル過失ハ保險業者ニ對シテ其效ヲ生シ醫師カ知り又ハ知り得ヘカリシ事項ハ本人タル保險業者自ラ知リ又ハ知り得ヘカリシ事項トシテ其責ニ任ヌヘキモノトス而シテ右ノ效果ヲ生スルニ付テハ其保險醫カ保險業者ノ使用人タルト受任者タル

1101

1101

1101

1101

1101

1101

八三

1101

1101

1101

1101

1101

トニ因リ差異ナキモノトス

○生命保險契約ニ於テ第三者ヲ以テ保險金ヲ受取ルヘキ者ト定メタルト

キト雖モ保險契約者ノ保險者ニ對スル權利義務ハ保險契約者死亡ノ場

合ニハ其相續人ニ移轉スルモノニシテ保險金額ヲ受取ルヘキ者ニ於テ

之ヲ承繼スハキモノニ非ス故ニ保險者カ商法第四百二十九條第一項ニ

從ヒテ爲ス契約解除ノ意思表示モ亦之ヲ保險契約者ノ相續人ニ對シテ

爲スコトヲ要スルモノトス

○被保險者ノ現在ノ病症ニシテ其生命ニ影響ヲ及ホササルヲ必シ難キモ

ノノ如キハ危險ノ測定ニ必要ナル事實ニ屬スルヲ以テ商法第四百二十

九條ニ所謂重要ナル事實ニ該當セルモノトス故ニ縱令保險契約者又ハ

被保險者カ生命ニ影響スル病症ニ非スト信シタル場合ト雖モ故意又ハ

重大ナル過失ニ因リ之ヲ告知セサリシトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ

爲スコトヲ得ルモノトス

○痔瘻ト肺結核トハ密接ノ關係ヲ有シ多數ノ場合ニ於テ互ニ併發スルヲ

常トスト雖モ其間主從ノ關係アル疾患ニ非ス

○肺結核ハ縱令被保險者ノ配偶者ニ於テ罹レルトキト雖モ被保險者ノ生

命ニ關シ危險測定ニ重要ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ單ニ保險契

約者及ヒ被保險者カ其夫ノ死因ニ關シ主タル疾患タル痔瘻ヲ告知シタ

ル以上ハ他ノ併發症タル肺結核ヲ告知スルニ及ハサルモノノ如ク判示

セル判決ハ失當タルヲ免レス

○保險會社ノ診查醫ハ會社ヨリ雇使セラルル者ナルト囑託セラルル者ナ

ルトヲ問ハス會社ハ機關トシテ申込人ノ健康状態ヲ調査スル任務ニ從

事スルモノナレハ申込人ノ身體狀況ニ關シ危險測定ニ重要ナル事實ノ

告知ヲ受クルコトヲ得ルハ勿論其實事ノ重要ナルヤ否ヤヲ判斷シ保險

契約者ヲシテ之ヲ保險申込書ニ記載セシムヘキヤ否ヤヲ決定スルコト

ヲ得ルモノトス

○保險契約當事者間ニ於テ保險契約者又ハ被保險者ノ告知スヘキ事項ハ

保險契約申込書ニ記載シタルニ非サレハ保險者ニ對抗スルコトヲ得サ

ル旨ノ特約アリトスルモ保險者カ現ニ告知ヲ受クヘキ事項ヲ了知シ居

ル以上ハ其效力ナキモノトス

○商法第四百二十九條ノ規定ニ「契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得」トアルハ

舊商法ニ於テ「其契約ハ無効トス」トアル部分ヲ改正シタルモノナレト

モ其改正ノ旨趣ハ専ラ當事者雙方ノ利益ヲ顧慮シタル便宜ニ出テタル

モノニシテ之ヲ以テ強制法規ト爲シタルモノト解スヘカラス

モノニシテ之ヲ以テ強制法規ト爲シタルモノト解スヘカラス

○商法第四百二十九條ノ規定ニ「契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得」トアルハ

舊商法ニ於テ「其契約ハ無効トス」トアル部分ヲ改正シタルモノナレト

モ其改正ノ旨趣ハ専ラ當事者雙方ノ利益ヲ顧慮シタル便宜ニ出テタル

モノニシテ之ヲ以テ強制法規ト爲シタルモノト解スヘカラス

一四七〇

一四七〇

一四七〇

一四七〇

一四七〇

一四七〇

一五〇一

一九五九

一九五九

二二〇五

○商法第四百二十九條ニ所謂惡意トハ告ケサリシ重要ナル事實ノ存在ヲ知リ又ハ告ケタル事ノ不實ナルヲ知リタルコトヲ謂フモノナレハ被保險者カ惡意ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタリト爲スニハ不告又ハ不實ノ告知カ故意ニ出テタルコトヲ要スルモノトス

○如上ノ惡意ヲ立證スルノ責任ハ保險者ニ在ルヲ原則ト爲スト雖モ保險契約者ハ被保險者カ自己ノ實子ニ非サルニ拘ハラズ己等夫婦ヲ被保險者ノ實父母ナリトシ又己等夫婦ノ父母ヲ被保險者ノ實祖父母ナリトシ其健否死亡年齢死亡原因ヲ告ケタル場合ニ於テハ不實ヲ告クルモノナルコトヲ知リタルモノト見ルヘキヲ以テ裁判所ハ反證ナキ限り保險契約者ハ惡意ヲ以テ不實ノ告知ヲ爲シタルモノト認メ保險契約者ニ惡意ニ非サル立證ヲ爲サシムルヲ相當トス

○軟性下疳胃腸病ハ患者ノ體質其他ノ事情ニ依リ病後ノ健康ニ影響スヘキ不良ノ結果ヲ遺スコトアリト雖モ斯ル結果ヲ遺ササルヲ普通トスルカ故ニ之ヲ以テ常ニ生命ノ危險ニ影響スヘキ重要ノ事實ナリト云フヲ得ス

○商法第四百二十九條ノ重要ナル事實又ハ事項ハ被保險者ノ生命ノ危險

五 三〇九
五 二〇九
五 一七二

ヲ測定スルニ必要ナル事實又ハ事項ヲ謂フモノナレハ被保險者ノ既往症ト雖モ危險ノ測定ニ必要ノ關係ヲ有セサルモノハ同條ニ所謂重要ナル事實又ハ事項ナリト謂フヲ得ス而シテ或既往症カ危險ノ測定ニ必要ノ關係ヲ有スルヤ否ヤハ事實上ノ判斷ニ屬スルモノトス

○商法第四百二十九條第一項ニ所謂重要ナル事實カ危險ノ測定ニ影響ヲ及ホスヘキモノナルヤ否ハ客觀的ニ決定スヘク保險契約者又ハ被保險者ノ主觀的判斷ニ依リテ定ムルモノニ非ス

○苟モ保險契約締結當時ニ於ケル被保險者ノ現在症カ生命ノ危險ヲ惹起スヘキ素質ヲ有シ而モ現ニ其症狀カ死ノ原因ト爲リタルモノナル以上ハ現在症カ未タ重大ナル症狀ヲ呈セサルトキト雖モ商法第四百二十九條ノ重要事實ト謂ハサルヘカラス

○保險者ハ被保險者ノ身體検査ヲ爲スニ際リ羞耻部ノ検査ハ之ヲ爲ササルヲ例トスルヲ以テ羞耻部ノ疾患ニ關シテハ保險契約者又ハ被保險者ニ於テ特ニ詳細ナル事實ヲ告知スルコトヲ要ス從テ或ハ自覺症狀ノ一端ノミヲ告ケ或ハ其疾患ニ付キ嘗テ醫師ハ診斷ヲ受ケタルコトヲ告ケサルカ如キハ孰レモ告知義務ノ違反ナリトス

○保險者ニ於テ被保險者カ他ノ保險者ヨリ保險契約ノ締結ヲ拒絕セラレ

六 一三九
六 一六二
六 一六二
六 一〇三

○キサルヲ通常トシ特ニ當事者カ之ヲ以テ意思表示ノ内容ヲ組成スヘキモノト爲シタル場合ノ外契約ノ要素ニ屬セサルモノト解スルヲ相當トス

(同主旨)

○保險契約ニ於ケル危險ノ測定ニ重要ナル事項ハ其契約ヲ締結スルノ緣由ニシテ其内容ヲ爲ササルヲ常トスルモ而モ通常意思表示ノ緣由ニ屬スヘキ事項ト雖モ當事者カ之ヲ以テ其意思表示ノ内容ト爲スコトヲ妨ケサレハ保險契約ニ於ケル危險ノ測定ニ重要ナル事項ニ關スル錯誤

○氣管支加答兒ハ患者ノ生命ヲ短縮スヘキ素因ト爲ルコトアリテ反證ナキ限り危險性ヲ帶有スル疾患ナリト認ムヘキモノトス

○被保險者カ曾テ氣管枝加答兒ニ罹リタル事實ハ保險契約締結ニ際シ被保險者ノ生命ノ危險ヲ測定スルニ重要ナル事項ナルヲ以テ被保險者カ之ヲ告知セサルトキハ其輕微ニシテ危險性ヲ有セサルコトノ反證ヲ提出セサル限り保險契約者ハ告知義務違背ノ責任ヲ負フヘキモノトス

○被保險者カ氣管枝加答兒ニ罹リタル事實アルトキハ同人ハ醫學上ノ病名如何ニ係ハラス保險契約締結當時疾患夫自體ヲ自覺シ居リタリト推定スヘク保險者ノ立證ヲ竣テ之ヲ決スヘキモノト非ス
○商法第四百二十九條ニ於テ保險契約者若クハ被保險者ノ告知スヘキ事

七 二五三
六 二二二
七 一八六
六 二二二
七 一八六

實カ重要ナルヤ否ヤハ客觀的觀察ニ依リ決定スヘク此等ノ者ノ主觀的判斷ニ依ルヘキモノト非ス

○苟モ被保險者ノ既往症ニシテ性質上生命ノ危險ヲ惹起スルニ足ルヘキモノナル以上ハ保險契約者又ハ被保險者ニ於テ斯ル重要ナル性質ヲ有スル病症タルコトヲ覺知セサルモ其覺知セル既往症狀ヲ告知セサルトキハ其不告知ニ重大ナル過失アリトシテ商法第四百二十九條ノ適用ヲ免レサルモノトス

○商法第三百九十九條ノ第三項ノ規定カ第三者ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者ト定メタル生命保險ニ準用セラレル場合ニ於テハ該條項ニ保險契約者トアルハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ニ該當スルモノトシテ解釋スヘキモノトス

○危險發生後ニ保險契約ノ解除ヲ爲シタル場合ト雖モ保險契約者ニ於テ危險ノ發生カ其告ケ又ハ告ケサリシ事實ニ基カサルコトヲ證明シタルトキハ保險者ニ損害填補ノ責任アルモノトス

(參照)

被保險者ノ病症ハ直接生命ニ危險ヲ及ホスヘキ惡性ノ原因ヨリ來ルモノト否トヲ論セス苟モ生命ノ危險ヲ測定スルニ多少ノ關係アルヘキヲ以テ其中ニ就キ緊要ノ關係ヲ有スルモノハ即チ重要事項トシテ契約ノ際ニ保險者ニ告知スヘキモノト不而シテ或事項カ果シテ生命ノ危

七 二五三
七 二二二
五 一八六
五 二二二
五 一八六

氣管支加答兒ハ其性質ニ於テ危險性ヲ帶有スル疾患ナリト推測シ得ヘキモノナレハ被保險人
 カ之ヲ隱蔽シタル場合ニ之ヲ以テ保險契約ノ締結ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキ疾患ニ非サリ
 シコトヲ主張スル者ハ其原因輕重豫後ニ付キ其事實ヲ立證セサルヘカラス
 改正前ノ商法第四百二十九條ニ所謂重要ナル事實又ハ重要ナル事項トハ專ラ被保險者ノ生命
 ニ關シ危險ヲ測定スルカ爲メニ必要ナル事實又ハ事項ヲ指シタルモノナルヲ以テ其以外ノ事
 實又ハ事項ハ如何ニ重大ナルモノナリトスルモ同條ノ適用ヲ受ケヘキ限ニ在ラス

〔第四百三十一條〕

○商法第四百三十一條第一項第一號ニ所謂自殺トハ被保險者カ故意ニ自
 己ノ生命ヲ斷チ死亡ノ結果ヲ生セシムル行爲ヲ指稱ス從テ死亡ノ結果
 カ過失行爲ニ基因シ若クハ精神病其他ノ原因ニ依リ精神障礙中ニ於ケ
 ル動作ニ基因スル場合ハ之ニ包含セサルモノトス

〔第四百三十二條ノ二〕

○會社ノ清算ハ時效中斷ノ原因ニ非サレハ會社カ清算中ナルノ一事ハ會
 社ニ對スル債權ノ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額拂戻ノ請求權ナル
 ト否トヲ問ハス時效ニ罹ルヲ妨クヘキモノニ非ス

第四編 手形

第一章 總則

四五	四九二
二	一八五
五	二三四
六	一八一

○東京又ハ大阪ト稱スルトキハ一團ヲ成ス所ノ地域ナル東京市又ハ大阪
 市ヲ指示セル固有ノ名稱ニシテ幾團ノ地域ヲ包括セル東京府又ハ大阪
 府ヲ指示セル名稱ニ非ス

三五	三	一
----	---	---

○手形ハ賣買取引ハ勿論金錢貸借其他種種ノ原因ニ基キ振出スコトヲ得
 ヘキモノナレハ金錢貸借ノ原因ニ基キ手形ヲ振出シタル事實アリトス
 ルモ直ニ外觀ノ爲メニノミ手形ヲ振出シタルモノト謂フコトヲ得サレ
 ハ其直接ノ當事者間ニ於テモ之カ爲メニ手形上ノ權利關係カ發生セサ
 ルモノト爲ササルヘカラサルノ理由ナシ

三五	六	一〇一
----	---	-----

○改正商法ハ從來慣用ノ捺印主義ヲ捨テ專ラ署名ノミニ重キヲ置クカ故
 ニ同法中署名ヲ以テ證券成立ノ條件ト爲シタル規定ニ於ケル署名トハ
 自署ノ義ニシテ單ニ記名ノミヲ以テ足レリトスルノ意義ニ非サル法意
 ナリト解釋セサルヘカラス

三五	九	一五九
----	---	-----

○手形上ノ權利ハ法律ニ特別ナル規定ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外手形券
 面ニ記載シタル事項ニ非サレハ之ヲ主張シ得サルモノニシテ別箇ノ證
 書ニ依リ之カ補足ヲ爲スコトヲ許サスト雖モ此等手形上ノ權利ヲ發生

三七	一九九
----	-----

セサル別箇ノ證書存在シタレハトテ之カ爲メニ其手形ヲシテ無効タラシムヘキモノニ非ス

三七

五七二

○取引所外ニ於ケル定期取引ハ其既ニ結了シタルト否トヲ問ハス又注文者カ之ヲ知ルト否トヲ論セス全ク不法ニシテ當然無効タルヘキモノトス故ニ斯ノ如キ取引ヲ原因トシテ手形ヲ授受スルモ其直接ノ當事者間ニ在リテハ手形上ノ權利關係ヲ生スルコトナシ

三七

七〇一

○法定ノ形式要件ヲ完全ニ記載セル手形ハ其記載事項ニ眞實ナラサルモノアルモ尙ホ形式完備ノ手形タルコトヲ失ハス故ニ振出人ハ善意ノ被裏書人ニ對シ其記載事項ノ眞實ナラサルコトヲ理由トシテ手形債務ヲ免ルルコトヲ得サルハ當然ナリ

三七

九三七

○手形ニ記載セラレタル事項ハ手形面ノ文言ニ從ヒテ之ヲ解釋スヘク他ノ證據方法ニ依リ當事者ノ意思ヲ推測シテ其意義ヲ定ムヘキモノニ非スト雖モ右ノ記載事項カ如何ナル意義ヲ有スルヤヲ手形面ノ文言ニ據リテ解釋スルコトハ一ニ裁判所ノ職權ニ屬ス因ニ其手形面ノ文言ニ據リテ手形ノ債權關係ハ一ニ其振出當時ノ文言ニ依リ定マルヘキモノニシテ後日ニ至リ其不足ヲ補充シ誤謬ヲ訂正スルモ之カ爲メニ既往ニ遡リテ手形ノ缺點ヲ追完シ得ヘキモノニ非スト雖モ其補正カ當事者間任意ニ

三七

一〇三

行ハレタル場合ニ於テハ補正ノ當時更ニ新ナル振出行爲アリシモノト認ムルニ妨ナシ

三七

二二二

○手形カ外觀上法定ノ要件ヲ具備スルトキハ手形トシテ形式上有效ナレトモ若シ其實質ニ於テ手形行爲ノ成立ヲ妨クヘキ瑕疵アルトキハ其手形行爲ハ無効ニ歸スヘキモノトス

三六

七〇六

○約束手形ノ振出人ハ被裏書人ニ對シ其裏書讓受ノ眞實ナラサルコトヲ爭ヒ得ヘキハ勿論ナレハ裁判所ハ手形裏書ノ眞正ナルヤ否ヤノ争點ヲ判斷セサルヘカラス

三九

九七五

○手形債務者ハ手形ノ眞實ナル所持人ニ對シテハミ債務ヲ辨濟スル責任ヲ負フモノナレハ手形金ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其請求者ノ眞實ナル所持人ニ非サルコトヲ爭ヒ得ヘキハ當然ナリ

三九

二四八

○手形ニ瑕疵アルモ既ニ其使用ヲ終リタルトキハ之カ無効ヲ主張スルコトヲ得ス

四〇

二二二

○手形上ノ債務ヲ負擔スル爲メ紙面ニ署名シ他人ニ手形ノ要件ヲ補充セシムル意思ヲ以テ之ヲ交付シタルトキハ署名者ノ行爲ハ其交付ノ當時既ニ完成シ手形行爲トシテ有效ナルモノトス從テ書面交付ノ後手形要件補充ノ當時ニ至ルマテノ間ニ於テ署名者死亡シ又ハ無能力ト爲ル等

ノ事故生スルモ原則トシテ其署名ノ効力ニ影響ヲ及ホスコトナシ

○手形振出人又ハ裏書人ノ記名捺印ハ他人ヲシテ之ヲ爲サシムルモ法律

上妨ナケレハ苟モ其記名捺印カ名義人ノ意思ニ出テタル以上ハ該名義

人ハ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

○手形上ノ權利義務ハ其證券ト分離シテ効力ヲ生スルモノニ非サレトモ

直接當事者間ニ在テハ合意上其効力ヲ變更シ若クハ他ノ債務ニ更改ス

ルコトヲ妨ケス

○手形用紙ニ裏書ヲ爲シタル者カ振出人タルヘキ者ニ手形要件ノ記載ヲ

一任スルニ當リ手形金額ニ付キ制限ヲ加ヘタル場合ニ於テ振出人カ其

補充權ヲ濫用シテ制限ヲ超過スル手形金額ヲ記載シタルトキト雖モ裏

書人ハ適法ニ手形ヲ取得シタル善意ノ第三者ニ對シテハ補充權ノ濫用

ヲ主張シ以テ其責任ヲ免ルルコトヲ得ス

○形式上ノ要件ヲ具備スル手形ノ占有者ハ反證ナキ限ハ適法ニ手形上ノ

權利ヲ取得シ其手形ヲ所持スル者ト推定スルコトヲ要シ其手形ノ占有

者ヲ以テ正當ノ所持人ニ非スト主張スル者ハ其事實ヲ立證スルノ責ア

ルモノトス

○振出人及ヒ裏書人ノ爲シタル手形行爲ノ効力ノ有無ハ被裏書人ノ裏書

行爲ノ効力ニ何等ノ影響ヲ及ホササレハ其振出行爲竝ニ裏書行爲カ當

然無効ナルト將タ取消ニ因リテ無効ナルトヲ問ハス其後ノ裏書人ハ被

裏書人及ヒ後者ニ對シテ手形上ノ義務ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

(同義)

振出人カ爲シタル手形行爲ノ効力ノ有無ハ受取人ノ裏書行爲ノ効力ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

從テ其振出行爲カ當然無効ナルト將タ取消ニ因リテ無効ニ歸シタルトヲ問ハス裏書人ハ被裏

書人ニ對シテ手形上ノ義務ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

(同義)

○手形上ニ使用セラレタル文言カ地方ノ慣習上如何ナル意義ヲ有スルヤ

ニ付テハ當事者ニ於テ鑑定又ハ其他ノ方法ニ依リ之ヲ釋明シ得ルモノ

トス

○手形上ノ責任ハ一ニ其手形ノ文言ニ從ヒ之ヲ定ムヘキモノニシテ他ノ

立證方法ニ依リ其文言ノ意義ヲ變更シ又ハ補充スルコトヲ許サス

(同義)

手形署名者ノ責任ハ手形ノ文言ニ從ヒ之ヲ定ムヘキモノニシテ他ノ立證方法ニ依リ其文言ノ

意義ヲ變更シ又ハ補充スルコトヲ許サス

○手形振出人ハ手形ノ振出ニ依リ現實自己ヲ利シタルト否トニ拘ハラズ

手形ノ文言ニ因リ券面記載ノ金額ヲ支拂フヘキ義務ヲ負擔スルモ此債

權

權

權

權

權

權

權

權

權

權

權

權

權

權

權

權

權

權

第四百三十五條

第四百三十五條

商法 手形 總則

四〇

四二

四三

四五

四五

四五

六〇六

一九六

八三五

四〇六

四〇六

四一四

五

四

三七

三六

三七

四一九

八四六

二七九

二五九

二七九

務ヲ免レタル振出人ハ常ニ手形面記載ノ金員ヲ利得シタルモノト速斷
スルコトヲ得ス

○手形上ノ責任ハ手形ノ文言ノミニ依リテ定ムヘキモノナリト雖モ手形
面ニ記載セララルル商號カ何人ノ商號トシテ記載セラレタルヤニ付キ爭
アルカ如キ場合ニ於テハ他ノ證據方法ニ依リテ之ヲ判定スルコトヲ得
ルモノトス

○手形ノ裏書人ハ其手形ノ振出行爲カ無効ナルトキト雖モ手形ノ形式ニ
缺クル所ナキ以上ハ被裏書人及ヒ其後者ニ對シ手形上ノ責任アルモノ
ニシテ振出行爲ノ無効及ヒ其無効ナルコトヲ知リテ裏書ヲ爲シタルコ
トノ如キハ裏書行爲ノ效力ニ影響スルモノニ非ス

第四百三
十六條

第四百三十六條

○代理人トシテ手形ニ署名スル者カ本人トノ代理關係ヲ表示スルニハ一
定ノ文字ヲ記載スヘキ特別ノ方式アルニ非サルヲ以テ本人ノ爲メニ手
形行爲ヲ爲スコトヲ認識シ得ル程度ニ記載スレハ足ルモノトス

○如上ノ場合ニ於テ代理人カ手形面ニ本人ヲ表示スルニハ其氏名又ハ商
號ヲ記載スヘキ旨ノ規定ナケレハ本人其人ヲ認識シ得ル程度ニ記載ス
ルヲ以テ足レリトス

三六	三七	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇																																								
三九二	三九三	三九四	三九五	三九六	三九七	三九八	三九九	四〇〇	四〇一	四〇二	四〇三	四〇四	四〇五	四〇六	四〇七	四〇八	四〇九	四一〇	四一一	四一二	四一三	四一四	四一五	四一六	四一七	四一八	四一九	四二〇	四二一	四二二	四二三	四二四	四二五	四二六	四二七	四二八	四二九	四三〇	四三一	四三二	四三三	四三四	四三五	四三六	四三七	四三八	四三九	四四〇	四四一	四四二	四四三	四四四	四四五	四四六	四四七	四四八	四四九	四五〇	四五二	四五三	四五四	四五五	四五六	五五七	五五八	五五九	五六〇	五六二	五六三	五六四	五六五	五六六	五六七	五六八	五六九	五七〇	五七二	五七三	五七四	五七五	五七六	五七七	五七八	五七九	五八〇	五八二	五八三	五八四	五八五	五八六	五八七	五八八	五八九	五九〇	五九二	五九三	五九四	五九五	五九六	五九七	五九八	五九九	六〇〇

○代理人カ振出引受等ノ手形行爲ヲ爲スニ當リ自己ノ名ヲ署セス又ハ之
ニ代ル記名捺印ヲ爲サスシテ直接ニ本人ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ル記名
捺印ヲ爲スモ其行爲ハ手形行爲トシテ有效ナルモノトス

(同主旨)

手形ハ他人ニ委任シ代理人ノ名義ヲ以テ振出サシムルコトヲ得ルノミナラス本人ノ名義ヲ以
テ振出サシムルコトヲ妨ケサルモノトス
代理人カ其代理權限内ニ於テ本人ノ署名若クハ記名捺印ヲ爲シテ本人ノ爲メニ小切手ヲ振出
シタルトキハ縱令代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ記載シ自己ノ署名若クハ記名捺印ヲ爲サ
サル場合ト雖モ其效力ハ本人ニ付テ生スルモノトス

○本人カ法人ニシテ代理人カ法人ノ機關タル取締役ヨリ特ニ取締役ノ名
ヲ署シ又ハ之ニ代ル記名捺印ヲ爲スコトヲ許サレ其權限内ニ於テ手形
行爲ヲ爲ス場合ニ於テモ前項ト同一ナリトス

第四百三
十七條

第四百三十七條

○手形ヲ偽造シタル者ハ善意ノ取得者ニ對シ手形上ノ責任ヲ免ルルコト
ヲ得ス故ニ偽造手形ヲ受領シタルトテ未タ損害ヲ被ムリタルモノト云
フヘカラス

○手形ノ變造ニシテ單ニ或文言ヲ添加シタルニ止マリ既存ノ文言ヲ變改
シタルモノニ非サル場合ニハ變造ニ係ル部分ヲ除却セハ變造前ノ文言

商法 手形 總則

三七	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇																																										
三九二	三九三	三九四	三九五	三九六	三九七	三九八	三九九	四〇〇	四〇一	四〇二	四〇三	四〇四	四〇五	四〇六	四〇七	四〇八	四〇九	四一〇	四一一	四一二	四一三	四一四	四一五	四一六	四一七	四一八	四一九	四二〇	四二一	四二二	四二三	四二四	四二五	四二六	四二七	四二八	四二九	四三〇	四三一	四三二	四三三	四三四	四三五	四三六	四三七	四三八	四三九	四四〇	四四一	四四二	四四三	四四四	四四五	四四六	四四七	四四八	四四九	四五〇	四五二	四五三	四五四	四五五	四五六	五五七	五五八	五五九	五六〇	五六二	五六三	五六四	五六五	五六六	五六七	五六八	五六九	五七〇	五七二	五七三	五七四	五七五	五七六	五七七	五七八	五七九	五八〇	五八二	五八三	五八四	五八五	五八六	五八七	五八八	五八九	五九〇	五九二	五九三	五九四	五九五	五九六	五九七	五九八	五九九	六〇〇

人ニ對シ直接ニ對抗シ得ヘキモノトス
 ○手形ノ記載事項カ虛偽ニシテ真正ナル事實ヲ立證スルトキハ之カ爲メ
 實質上當事者ノ權利義務ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ニ在リテハ手形上ノ
 請求ニ對スル實質上ノ抗辯トシテ其無効ヲ主張シ得ルモノトス
 ○手形債務者カ裏書人ニ對シ相殺ニ適シタル債權ヲ有スル事實ハ裏書人
 ニ對抗シ得ヘキ事由ニシテ之ヲ被裏書人ニ對抗シ得ルニハ必スシモ裏
 書人ニ對シテ相殺ノ意思表示ヲ爲シタルコトヲ要セス
 ○振出人カ額面ノ金員ヲ受取ルコトヲ條件トシテ手形ヲ振出シタルトキ
 ハ手形金請求者ニ對シ未タ其金員ヲ受取ラサルコトヲ爭ヒ得ルモノト
 ○ス
 ○約束手形ノ振出人ヨリ受取人ニ對シテ存シタル對抗事由ハ其後受取人
 カ其手形ヲ第三者ニ裏書シ更ニ第三者ヨリ戻裏書ヲ受ケタルコトニ因
 リ消滅スルモノニ非ス
 ○約束手形ノ所持人ニ對スル裏書讓渡ハ強迫ニ基クモノニシテ裏書人ニ
 於テ適法ニ之ヲ取消シタルカ故ニ該手形ノ現存者ハ其正當ノ所持人ニ
 非ストノ抗辯ハ商法第四百四十條但書ノ所謂直接ニ手形上ノ請求ヲ爲
 ス者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ニ屬ス而シテ振出人自ラ其取消行爲

三六	八〇〇
三七	一〇三
三八	七〇
三九	一四八
四〇	二〇八
四一	二六

第四百四十一條

ニ直接關與シタルト否トハ問フ所ニ非ス
 ○如上ノ事由ハ共同振出人ノ何人ヨリモ更改ノ當事者ニ對抗シ得ヘキハ
 勿論満期日後其當事者ヨリ舊手形ヲ取得シタル所持人ニ直接ニ對抗シ
 得ヘキモノナレハ舊手形カ振出人ノ手裡ニ復歸セサル限ハ其手形ヲ有
 效ナリト論スルコトヲ得ス(商法第二百七十二條五年三三七四員參照)
 ○商法第四編ニハ民法第九十三條ノ如キ事由ヲ以テ對抗スルコトヲ得ヘ
 キ旨ノ規定ナケレハ裏書人ハ斯ル事由ヲ以テ直接ノ後者ニ非サル手形
 所持人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス
 ○甲カ乙ヨリ約束手形ノ割引ヲ爲ス旨ノ委任ヲ受ケ其目的ヲ爲メニ手形
 ノ振出又ハ裏書ヲ受ケ右委任ノ旨趣ニ基キ手形ノ割引ヲ爲シタルニ拘
 ハラス之ニ依リテ得タル金額ヲ乙ニ交付セサルトキハ縱令甲カ後日該
 手形ノ所持人ト爲リタリトスルモ其手形金額支拂請求ニ付キ乙ハ甲ニ
 對シ商法第四百四十條但書ニ所謂直接ニ對抗シ得ヘキ事由ヲ有スルモ
 ノトス

三七	一四九
三八	二二五
三九	三
四〇	二三四
四一	二二九

十四百四

○スシテ手形法ノ認ムル非手形上ノ償還請求權ナリトス
 ○商法第四百四十四條ノ請求權ハ手形行爲ニ因リテ生スルモノニ非サル
 ハ勿論其他何等ノ商行爲ニ因リテ生スルモノニモ非サルヲ以テ普通債
 權ニ對スル時効ヲ適用シ其權利ヲ行使シ得ヘキ時ヨリ十年ヲ經過スル
 ニ因リテ消滅スルモノトス

○手形ヨリ生シタル債權カ時効ニ因リ消滅シタル場合ニ於テ商法第四百
 四十四條ニ依リ振出人又ハ引受人ニ對シ償還請求權ヲ有スルニハ其當
 時ニ於テ手形上ノ正當債權者タルヲ以テ足り最後ノ裏書ニ因リテ手形
 ヲ取得シタル所持人タルト被裏書人ニ對シ償還義務ヲ履行シタル裏書
 人タルトヲ問フノ要ナシ

○商法第四百四十四條ノ請求權ハ手續ノ欠缺等ニ因リテ手形上ノ權利ヲ
 喪失シタル所持人ノ爲メ利益ヲ受ケタル振出人等ニ對シテ特別ニ付與
 セル權利ニシテ所持人カ前主ノ權利ヲ承繼スルモノニ非ス從テ振出人
 ハ前主トノ間ニ相殺スヘキモノアルモ所持人ニ對シ相殺ヲ主張スルヲ
 得ス

○手形ヨリ生シタル債權カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ
 ハ手形モ亦手形トシテノ法律上ノ存在ヲ失フモノトス

四五	四五	四五	四五	四五
三九七	三九七	三九七	三九七	三九七
二	二	二	二	二
九〇	九〇	九〇	九〇	九〇
二二六	二二六	二二六	二二六	二二六
一六七九	一六七九	一六七九	一六七九	一六七九

○商法第四百四十四條ノ利益償還請求權ハ法律ノ直接規定ニ依リテ手形
 ノ效力消滅當時ノ所持人ニ付與セラレタル指名債權ニシテ手形上ノ請
 求權ニ非サレハ其讓渡ハ指名債權讓渡ノ手續ニ依ルヘク手形裏書ノ方
 法ニ依ルヘキモノニ非ス

○手形債務者ハ延期手形ノ交付ニ對シ對價ヲ得ルモノニ非サルヲ以テ延
 期手形ノ債權カ時効ニ因リ消滅スルモ利益ヲ受クルモノニ非ス其利益
 ヲ受ケタルヤ否ヤハ舊手形ノ發行ニ對シ對價ヲ得タルヤ否ヤニ依リ之
 ヲ決スヘキモノトス

○手形ノ振出人又ハ引受人カ振出又ハ引受行爲ヲ爲スニ付キ何等ノ對價
 ヲ受ケサリシ場合ニ於テハ縱令其手形債權カ時効若クハ手續ノ欠缺ニ
 因リテ消滅スルモ所持人ハ商法第四百四十四條ニ依リ償還ノ請求ヲ爲
 スコトヲ得ス

○切替ヘタル約束手形上ノ權利カ時効ニ因リ消滅シタル場合ニ於テ其所
 持人カ商法第四百四十四條ニ從ヒ振出人ニ對シ償還ヲ請求シ得ヘキ利
 得ノ有無ハ振出人カ切替前ノ手形ニ因リ現實ニ利得シタル事實ノ有無
 ニヨリ之ヲ定ムヘキモノトス

○切替ヘタル手形ノ振出人自身カ前手形ヲ發行シタルモノニ非スシテ他

四	四	四	四	四
一六七	一六七	一六七	一六七	一六七
四	四	四	四	四
一七七	一七七	一七七	一七七	一七七
五	五	五	五	五
一九九	一九九	一九九	一九九	一九九

ノ振出人ノ手形債務ヲ引受ケタル場合ノ如キハ縱令切替ニヨリ前手形ノ支拂義務カ消滅シタレハトテ振出人ニ於テ常ニ必スシモ利益ヲ受ケタリト謂フコトヲ得ス其利益ノ有無ハ振出人カ前手形ノ債務ヲ引受クルニ至リタル事由ノ如何ニ依リ判定スヘキモノトス

○商法第四百四十四條ニ所謂其受ケタル利益ノ限度トハ約束手形ニ在リテハ振出人カ手形ノ基本關係ニ付キ振出ノ對價トシテ受ケタル利益ヲ指稱スルモノニシテ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ手形上ノ債務ヲ免レタル利益ヲ謂フモノニ非ス而シテ振出人カ如何ナル限度ニ於テ利益ヲ受ケタリヤハ償還ノ請求ヲ爲ス原告ニ於テ證明ヲ爲スヘキ責ヲ有スルモノトス

(同主旨)

商法第四百四十四條ニ所謂其受ケタル利益トハ約束手形ニ在リテハ振出人カ手形ノ基本關係ニ付キ振出ノ對價トシテ現實ニ利益ヲ受ケタル場合ヲ指稱スルモノニシテ其對價タルヤ積極的ニ金員ノ交付ヲ受ケタル場合ノミナラス消極的ニ既存債務ノ支拂ヲ免レタルトキチモ包含スルモノトス

(反對)

商法第四百四十四條ノ請求權ハ純然タル民法上ノ不當利得返還ノ請求權ニ非スシテ手形法ニ規定セル非手形上ノ償還請求權ニ過キサレハ同條ノ請求權ヲ行使スルニハ振出人カ手續ノ欠缺等ニ因リ手形上ノ債務ヲ免レ利益ヲ受ケタルヲ以テ足レリトシ所持人ニ於テ手形取得ニ付キ對價ヲ供シ及ヒ損失ヲ蒙リタルコトヲ必要トセス

第二章 爲替手形

○荷爲替契約ハ荷送人ト銀行トノ間ニ於テ一種ノ消費貸借關係ヲ生スルモノニシテ商法施行以前ヨリ存在シタル行爲ナリトス從テ荷爲替手形ハ必スシモ商法所定ノ爲替手形タルコトヲ要セス
○商法施行以後當事者カ爲替手形ノ名稱ヲ以テ發行シタル證券ハ縱令荷爲替ノ方法ニ供セラレタル場合ト雖モ其手形關係ニ付テハ同法ニ規定セル手形ノ法則ヲ適用スルコトヲ要ス

第一節 振出

○商法ハ二人以上共同シテ手形行爲ヲ爲スコトヲ禁止セス故ニ數人カ一ノ手形ヲ振出スモ其效力ノ妨ト爲ルコトナシ

(同主旨)

○手形ニ振出人數名アルモ其效力ノ妨ト爲ラス

○爲替手形ノ振出力既存債權取立ノ目的ニ出テタルトキハ當事者間別段ノ意思表示ナキ限り債權者ハ先ツ手形ニ因ル請求權ヲ行使シ其效ナキ

商法 手形 爲替手形 振出

二	三六
三	九二
三六	三五〇
三七	一五九七
三四	一三
三五	一〇一

ノ振出人ノ手形債務ヲ引受ケタル場合ノ如キハ縱令切替ニヨリ前手形ノ支拂義務カ消滅シタレハトテ振出人ニ於テ常ニ必スシモ利益ヲ受ケタリト謂フコトヲ得ス其利益ノ有無ハ振出人カ前手形ノ債務ヲ引受クルニ至リタル事由ノ如何ニ依リ判定スヘキモノトス

○商法第四百四十四條ニ所謂其受ケタル利益ノ限度トハ約束手形ニ在リテハ振出人カ手形ノ基本關係ニ付キ振出ノ對價トシテ受ケタル利益ヲ指稱スルモノニシテ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ手形上ノ債務ヲ免レタル利益ヲ謂フモノニ非ス而シテ振出人カ如何ナル限度ニ於テ利益ヲ受ケタリヤハ償還ノ請求ヲ爲ス原告ニ於テ證明ヲ爲スヘキ責ヲ有スルモノトス

(同主旨)

商法第四百四十四條ニ所謂其受ケタル利益トハ約束手形ニ在リテハ振出人カ手形ノ基本關係ニ付キ振出ノ對價トシテ現實ニ利益ヲ受ケタル場合ヲ指稱スルモノニシテ其對價タルヤ積極的ニ金員ノ交付ヲ受ケタル場合ノミナラス消極的ニ既存債務ノ支拂ヲ免レタルトキチモ包含スルモノトス

(反對)

商法第四百四十四條ノ請求權ハ純然タル民法上ノ不當利得返還ノ請求權ニ非スシテ手形法ニ規定セル非手形上ノ償還請求權ニ過キサレハ同條ノ請求權ヲ行使スルニハ振出人カ手續ノ欠缺等ニ因リ手形上ノ債務ヲ免レ利益ヲ受ケタルヲ以テ足レリトシ所持人ニ於テ手形取得ニ付キ對價ヲ供シ及ヒ損失ヲ蒙リタルコトヲ必要トセス

第二章 爲替手形

○荷爲替契約ハ荷送人ト銀行トノ間ニ於テ一種ノ消費貸借關係ヲ生スルモノニシテ商法施行以前ヨリ存在シタル行爲ナリトス從テ荷爲替手形ハ必スシモ商法所定ノ爲替手形タルコトヲ要セス
○商法施行以後當事者カ爲替手形ノ名稱ヲ以テ發行シタル證券ハ縱令荷爲替ノ方法ニ供セラレタル場合ト雖モ其手形關係ニ付テハ同法ニ規定セル手形ノ法則ヲ適用スルコトヲ要ス

第一節 振出

○商法ハ二人以上共同シテ手形行爲ヲ爲スコトヲ禁止セス故ニ數人カ一ノ手形ヲ振出スモ其效力ノ妨ト爲ルコトナシ

(同主旨)

○手形ニ振出人數名アルモ其效力ノ妨ト爲ラス

○爲替手形ノ振出力既存債權取立ノ目的ニ出テタルトキハ當事者間別段ノ意思表示ナキ限り債權者ハ先ツ手形ニ因ル請求權ヲ行使シ其效ナキ

商法 手形 爲替手形 振出

二	三六
三	九二
三六	三五〇
三七	一五九七
三四	一三
三五	一〇一

第四百四十五條

場合ニ於テ既存債權ニ基キ之カ辨濟ヲ請求スルヲ相當トス

第四百四十五條

○商法ハ手形ノ裏書又ハ手形債務ノ保證ヲ爲ス場合ニ補箋ヲ使用スルコトヲ認許シタルモ支拂地又ハ支拂場所ヲ記載スル爲メニハ之ヲ使用スルコトヲ認許セス

○商法カ補箋ヲ使用スルコトヲ認許セサル場合ニ補箋ニ記載シタル事項ハ手形上ノ效力ヲ生セス

○株式會社ノ取締役カ會社ノ爲メニ手形振出ノ意思ヲ表示スルニ當リテハ會社ノ爲メニスルノ意ヲ明カニシ其手形ニ取締役自身ノ名ヲ署セサルヘカラス

○會社ノ定款上業務擔當社員ニ於テ代表社員事故アリテ其任ニ當ル能ハサルトキハ會社ヲ代表シテ事務ヲ處理スルノ權限アル以上ハ手形振出人ノ署名ニ冠スルニ合名會社業務擔當社員ナル文字ヲ以テシタルハ會社ノ代表者トシテ署名シタルモノト解スルヲ相當トス

第四百五十一條

○手形中満期日ヲ表示スヘキ場所ニ年號ノミヲ記載シ月日ノ記載ナキトキハ一覽拂ノモノト認ムルヲ相當トス

第四百五十一條

第四百五十三條

支拂擔當者ナルモノハ支拂地カ支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於テノミ定ムヘキモノトス

第四百五十四條

○支拂場所ノ指定ハ支拂行爲ヲ爲スヘキ一定ノ場所ヲ表示セサルヘカラスト雖モ爲替手形ニ於ケル支拂地又ハ約束手形ニ於ケル振出地ノ記載ノ如ク之ヲ手形ニ表示スヘキ文字ニ付キ法律上一定シタル標準ナシ

支拂場所ノ記載ハ手形ノ必要事項ニ非サルヲ以テ爲替手形ニ於ケル支拂地又ハ約束手形ニ於ケル振出地ノ記載ノ如ク之ヲ表示スヘキ文字ニ付キ法律上一定シタル標準ナシ

○手形ノ支拂場所ノ表示方法ニ付テハ商法中別段ノ規定ナケレハ苟モ普通ノ方法タル以上ハ如何ナル名稱ヲ以テ之ヲ表示スルモ妨ナシ

○株式會社某銀行ト云フカ如キ名稱ハ一定ノ法人ヲ表示スル爲メニ用キラレ又其營業所ノ表示トシテ用キラルルヲ通常トス故ニ振出人ハ斯ル名稱ヲ以テ手形ノ支拂場所ヲ表示スルコトヲ得ヘシ

○手形ノ所持人ニ於テ擅ニ裏書讓渡ヲ抹消シタル上之ヲ償還義務者ニ返還スルモ法律上償還ノ義務ヲ盡シタル效力ヲ生セス隨テ償還義務者カ

一〇一九

一〇一

一〇一

一三五

二八一

一五七八

三四二

三七九

一〇八一

一〇八一

一〇八一

一〇八一

一〇八一

其手形ヲ握手スルモ爲替法上所持人ノ地位ヲ有セサルモノトス

○差押債權者カ轉付命令ノ效力ニ因リ取得シタル手形ニ基キ振出人ニ對シテ支拂ヲ請求スル場合ニ在リテハ裏書ヲ要スルモノニ非ス

(刑)

○裏書ハ獨立ナル手形行爲ニシテ他ノ手形行爲ト分離シ有效ニ成立スルコトヲ得從テ一旦有效ニ成立セル裏書ハ原手形ノ振出人ノ署名偽造ナルカ爲メニ其效力ヲ失フヘキモノニ非ス

○銀行取締役カ其權限内ニ於テ銀行ノ爲メニスルコトヲ表示シ署名ノ上手形ノ裏書ヲ爲シタルトキハ該手形行爲ハ直接ニ銀行ニ對シテ其效力ヲ生スルモノトス而シテ取締役ノ眞意カ果シテ銀行ノ利益ヲ計ルニ在リシヤ將タ其地位ヲ濫用シテ不正ニ自己ノ利益ヲ圖ラントスルニ在リシヤハ之ヲ問フノ要ナシ

○銀行取締役カ其地位ヲ濫用シ不正ニ利益ヲ獲得セント企テ手形ニ裏書シタル所爲ニ付キ文書偽造罪トシテ處罰ヲ受ケ其裏書ノ部分ヲ沒收セラレタル場合ト雖モ該處分ハ手形所持人ノ權利ニ何等ノ消長ヲ來スコトナシ

『第四百五十五條』

○手形ハ裏書禁止ノ記載アル場合ヲ除ク外當然裏書ニ依リテ讓渡シ得ヘ

第四百五十五條

○キモノナレハ手形金請求訴訟ノ提起ハ毫モ裏書ノ妨ト爲ルモノニ非ス
○手形上ノ權利ハ證券ト離レテ成立スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ手形ノ裏書讓渡ヲ爲スニハ裏書人カ讓渡ノ意思ヲ以テ裏書記載ヲ爲スコトヲ要スルハ勿論尙ホ讓渡ノ意思ヲ以テ手形ヲ他人ニ交付スルコトヲ要スルモノトス

(同義語)

裏書ニ因ル手形債權ノ讓渡ハ當事者カ裏書ノ記載ヲ爲スノミヲ以テ足レリトセス其手形ヲ被裏書人ニ交付シテ始メテ完成スルモノトス

○手形ヲ裏書讓渡スル權利ハ手形行爲ニ因リ手形ヲ取得シタル者ノミニ專屬スルモノニ非スシテ相續ニ因リ手形ヲ取得シタル者モ亦此權利ヲ有スルモノトス

第四百五十六條

『第四百五十六條』

○爲替手形ニ於テ他人ヲ受取人ト爲シタルトキハ縱令該手形取立ノ爲メニ振出サレタルモノニシテ受取人カ不渡ノ故ヲ以テ之ヲ振出人ニ返却スル場合ト雖モ裏書ニ依リ讓渡ノ手續ヲ爲スヘキモノナレハ斯ル裏書ナキ限り返却ヲ受ケタル振出人ヲ以テ手形ノ正當ナル所持人ト謂フヲ得サルモノトス

商法 手形 爲替手形 裏書

九五五

三七	二二八
四	九〇四
三六	七五四
四	八二一
七	四一〇

三	一
三	五九八
六	八六
六	八五二
六	八六
六	八六
三九	四七五
三九	四七五
六	二〇八一
六	二〇八一
六	二〇八一

第四百五十七條

『第四百五十七條』

○手形ニ裏書人又ハ被裏書人トシテ商事會社ノ支店ヲ記載シタルモノハ該支店ニ於テ商行爲ヲ爲ス所ノ法人ヲ指示シタルニ外ナラサルモノトス

(同旨)

○商事會社ハ其本店若クハ支店ニ於ケル商行爲ノ人格ナルヲ以テ手形ノ裏書ヲ會社支店宛ト爲シタル場合ニ於テ其裏書讓受人ハ法人タル會社ナリトス

○手形ノ裏書ニ某株式會社支店ヲ裏書讓受人ト爲シタル場合ニハ某株式會社ヲ以テ裏書讓受人ト爲シタルモノト看做スヘキモノトス

○本店ト支店トノ間ニ於ケル手形ノ裏書ハ同一人間ニ爲シタル裏書ニシテ手形上何等ノ效力ナク其裏書ハ始メヨリ記載ナキモノト同一ナリトス

○手形ノ裏書ヲ爲スニ付キ之ニ附箋シテ裏書人カ署名シタルハ商法第四百五十七條ニ所謂補箋ニ外ナラサレハ裏書ノ方式ニ背反スル所ナシ

○商法第四百五十七條ニ規定セル二種ノ裏書ハ孰レモ指圖式手形ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論記名式ノ手形ニ付キテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ商法ノ解釋上毫モ疑ヲ容レズ

○手形券面ヲ補フ紙片即チ補箋ヲ使用スルコトヲ得ヘキ場合ハ商法カ手

三四	三四	三四	三四	三四	三四
二	八	七	五	四	七
一〇八	一四	二五	七	五	二五

形券面ニ記載セシムルコトノ事實上困難ナル場合ヲ豫想シ特ニ之ヲ使用スルコトヲ認許シタル場合ニ限ルモノトス

○商法ハ手形ノ裏書又ハ手形債務ノ保證ヲ爲ス場合ニ補箋ヲ使用スルコトヲ認許シタルモ支拂地又ハ支拂場所ヲ記載スル爲メニハ之ヲ使用スルコトヲ認許セズ

○手形行爲ヲ爲ス者カ其手形ニ記載スル氏名又ハ商號ハ必ス公簿上ノモノニ限ルヘキ理由ナケレハ氏名若クハ商號ノ形體ヲ具フルモノニシテ本人ノ慣用ニ依リ知人又ハ隣佑間其稱呼ナルコトヲ知了セル場合ニハ所謂通稱ハ勿論雅號ト雖モ亦手形方式上ノ氏名若クハ商號タルニ妨ナキモノトス

○手形裏書人カ裏書ノ日附ヲ遡記シタル場合ト雖モ仍ホ其日附ノ存在タルコトヲ失ハサルカ故ニ此一事ヲ以テ裏書ノ形式不適法ナリト云フヲ得ス(第五百二十九條三六年一四四頁參照)

○署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタル手形ノ所持人カ之ヲ他人ニ交付シタルトキハ即チ讓渡ノ效力ヲ發生セシムルノ意思ヲ表示シタルモノナレハ其實取立委任ノ目的ニ出テタリトスルモ唯當事者間ニ或種ノ關係ヲ生スルニ止マリ法律上有效ナル讓渡ノ成立ヲ妨クヘキモノニ非ス從テ第

三五	三五	三九	一〇二
四	四	八六	
三九	一〇二		

三者ハ其讓渡ヲ否認シ得サルモノトス
○手形ノ裏書ヲ爲スニ當リ被裏書人ヲ指定セサル以上ハ偶其裏書ノ年月日ヲ記入スルモ白地裏書トシテ有效ナリトス

(同主旨)

手形ノ裏書ニシテ被裏書人ノ指定ナキ場合ニ於テハ苟モ裏書人ノ署名アルトキハ年月日ノ記載アルト否トニ拘ハラズ適法ノ裏書ナリトス

○手形ノ成立前豫メ手形用紙ニ裏書ヲ爲シタル場合ト雖モ後日振出人カ振出ノ要件ヲ記載スル所ニ從ヒ手形上ノ債務ヲ負擔スル意思ヲ以テ其用紙ヲ交付シタルトキハ爾後振出人ニ於テ該手形成立ニ必要ナル事項ノ記入及ヒ手形ノ交付ヲ爲シ振出行爲完成スルト同時ニ右ノ裏書モ亦其效力ヲ生スルモノトス

(同主旨)

手形ノ成立前其受取人タルヘキ者カ豫メ手形用紙ニ裏書ヲ爲シタル場合ト雖モ爾後振出人ニ於テ該手形成立ニ必要ナル事項ノ記入及ヒ手形ノ交付ヲ爲シ振出行爲完成スルトキハ其裏書ハ之ト同時ニ效力ヲ發生スルモノトス

手形要件ノ記載ナキ手形用紙ニ豫メ裏書ヲ爲シタル者カ振出人タルヘキ者ニ之ヲ交付シ手形要件ヲ完備シテ之ヲ他人ニ交付シタルトキハ茲ニ其振出行爲完成シ之ト同時ニ右裏書行爲モ完全ニ其效力ヲ發生スルモノトス

○無記名裏書ノ儘ナル手形ノ所持人ハ反對ノ證據アラサル限り正當ニ其手形ヲ讓受ケタルモノト推定スルヲ當然トス

第四百六十一條

○無記名裏書アル手形ノ所持人カ商法第四百六十一條ニ從ヒ自己ヲ被裏書人ト爲スニ付テハ年月日ヲ記載スルコトヲ要セス

第四百六十二條

第四百六十二條

○手形ノ所持人カ支拂拒絕證書作成期間經過ノ後裏書ヲ爲シタルトキハ手形債務者ハ手形ニ記載ナキ事項ト雖モ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ハ總テ之ヲ被裏書人ニ對抗シ得ルモノトス

○商法第四百六十二條ハ支拂拒絕證書作成期間經過ノ後手形ノ裏書讓渡ヲ受ケタル者ハ手形債務者カ裏書人ニ對抗シ得ヘキ事由ノ隨伴シタル權利ニ非サレハ之ヲ取得スルコト能ハサル趣意ヲ明カニシタルモノニシテ即チ如上ノ被裏書人ニ對シテハ同第四百四十條ノ適用アラサルコトヲ示シタルニ外ナラス

○商法第四百六十二條ハ民法第九十四條第二項ノ適用ヲ除外シタル規定ナリトス

第四百六十三條

第四百六十三條

商法 手形 爲替手形 裏書

七五七

四二	二五四
四三	九五
四四	八六
四五	一〇七一
四六	一〇七二
四七	一〇七三
四八	一〇七四
四九	一〇七五
五〇	一〇七六
五一	一〇七七
五二	一〇七八
五三	一〇七九
五四	一〇八〇
五五	一〇八一
五六	一〇八二
五七	一〇八三
五八	一〇八四
五九	一〇八五
六〇	一〇八六
六一	一〇八七
六二	一〇八八
六三	一〇八九
六四	一〇九〇
六五	一〇九一
六六	一〇九二
六七	一〇九三
六八	一〇九四
六九	一〇九五
七〇	一〇九六
七一	一〇九七
七二	一〇九八
七三	一〇九九
七四	一〇一〇
七五	一〇一一
七六	一〇一二
七七	一〇一三
七八	一〇一四
七九	一〇一五
八〇	一〇一六
八一	一〇一七
八二	一〇一八
八三	一〇一九
八四	一〇二〇
八五	一〇二一
八六	一〇二二
八七	一〇二三
八八	一〇二四
八九	一〇二五
九〇	一〇二六
九一	一〇二七
九二	一〇二八
九三	一〇二九
九四	一〇三〇
九五	一〇三一
九六	一〇三二
九七	一〇三三
九八	一〇三四
九九	一〇三五
一〇〇	一〇三六
一〇一	一〇三七
一〇二	一〇三八
一〇三	一〇三九
一〇四	一〇四〇
一〇五	一〇四一
一〇六	一〇四二
一〇七	一〇四三
一〇八	一〇四四
一〇九	一〇四五
一一〇	一〇四六
一一一	一〇四七
一一二	一〇四八
一一三	一〇四九
一一四	一〇五〇
一一五	一〇五一
一一六	一〇五二
一一七	一〇五三
一一八	一〇五四
一一九	一〇五五
一二〇	一〇五六
一二一	一〇五七
一二二	一〇五八
一二三	一〇五九
一二四	一〇六〇
一二五	一〇六一
一二六	一〇六二
一二七	一〇六三
一二八	一〇六四
一二九	一〇六五
一三〇	一〇六六
一三一	一〇六七
一三二	一〇六八
一三三	一〇六九
一三四	一〇七〇
一三五	一〇七一
一三六	一〇七二
一三七	一〇七三
一三八	一〇七四
一三九	一〇七五
一四〇	一〇七六
一四一	一〇七七
一四二	一〇七八
一四三	一〇七九
一四四	一〇八〇
一四五	一〇八一
一四六	一〇八二
一四七	一〇八三
一四八	一〇八四
一四九	一〇八五
一五〇	一〇八六
一五一	一〇八七
一五二	一〇八八
一五三	一〇八九
一五四	一〇九〇
一五五	一〇九一
一五六	一〇九二
一五七	一〇九三
一五八	一〇九四
一五九	一〇九五
一六〇	一〇九六
一六一	一〇九七
一六二	一〇九八
一六三	一〇九九
一六四	一〇一〇
一六五	一〇一一
一六六	一〇一二
一六七	一〇一三
一六八	一〇一四
一六九	一〇一五
一七〇	一〇一六
一七一	一〇一七
一七二	一〇一八
一七三	一〇一九
一七四	一〇二〇
一七五	一〇二一
一七六	一〇二二
一七七	一〇二三
一七八	一〇二四
一七九	一〇二五
一八〇	一〇二六
一八一	一〇二七
一八二	一〇二八
一八三	一〇二九
一八四	一〇三〇
一八五	一〇三一
一八六	一〇三二
一八七	一〇三三
一八八	一〇三四
一八九	一〇三五
一九〇	一〇三六
一九一	一〇三七
一九二	一〇三八
一九三	一〇三九
一九四	一〇四〇
一九五	一〇四一
一九六	一〇四二
一九七	一〇四三
一九八	一〇四四
一九九	一〇四五
二〇〇	一〇四六

四二	二五四
四三	九五
四四	八六
四五	一〇七一
四六	一〇七二
四七	一〇七三
四八	一〇七四
四九	一〇七五
五〇	一〇七六
五一	一〇七七
五二	一〇七八
五三	一〇七九
五四	一〇八〇
五五	一〇八一
五六	一〇八二
五七	一〇八三
五八	一〇八四
五九	一〇八五
六〇	一〇八六
六一	一〇八七
六二	一〇八八
六三	一〇八九
六四	一〇九〇
六五	一〇九一
六六	一〇九二
六七	一〇九三
六八	一〇九四
六九	一〇九五
七〇	一〇九六
七一	一〇九七
七二	一〇九八
七三	一〇九九
七四	一〇一〇
七五	一〇一一
七六	一〇一二
七七	一〇一三
七八	一〇一四
七九	一〇一五
八〇	一〇一六
八一	一〇一七
八二	一〇一八
八三	一〇一九
八四	一〇二〇
八五	一〇二一
八六	一〇二二
八七	一〇二三
八八	一〇二四
八九	一〇二五
九〇	一〇二六
九一	一〇二七
九二	一〇二八
九三	一〇二九
九四	一〇三〇
九五	一〇三一
九六	一〇三二
九七	一〇三三
九八	一〇三四
九九	一〇三五
一〇〇	一〇三六
一〇一	一〇三七
一〇二	一〇三八
一〇三	一〇三九
一〇四	一〇四〇
一〇五	一〇四一
一〇六	一〇四二
一〇七	一〇四三
一〇八	一〇四四
一〇九	一〇四五
一〇一〇	一〇四六
一〇一一	一〇四七
一〇一二	一〇四八
一〇一三	一〇四九
一〇一四	一〇五〇
一〇一五	一〇五一
一〇一六	一〇五二
一〇一七	一〇五三
一〇一八	一〇五四
一〇一九	一〇五五
一〇二〇	一〇五六
一〇二一	一〇五七
一〇二二	一〇五八
一〇二三	一〇五九
一〇二四	一〇六〇
一〇二五	一〇六一
一〇二六	一〇六二
一〇二七	一〇六三
一〇二八	一〇六四
一〇二九	一〇六五
一〇三〇	一〇六六
一〇三一	一〇六七
一〇三二	一〇六八
一〇三三	一〇六九
一〇三四	一〇七〇
一〇三五	一〇七一
一〇三六	一〇七二
一〇三七	一〇七三
一〇三八	一〇七四
一〇三九	一〇七五
一〇四〇	一〇七六
一〇四一	一〇七七
一〇四二	一〇七八
一〇四三	一〇七九
一〇四四	一〇八〇
一〇四五	一〇八一
一〇四六	一〇八二
一〇四七	一〇八三
一〇四八	一〇八四
一〇四九	一〇八五
一〇五〇	一〇八六
一〇五一	一〇八七
一〇五二	一〇八八
一〇五三	一〇八九
一〇五四	一〇九〇
一〇五五	一〇九一
一〇五六	一〇九二
一〇五七	一〇九三
一〇五八	一〇九四
一〇五九	一〇九五
一〇六〇	一〇九六
一〇六一	一〇九七
一〇六二	一〇九八
一〇六三	一〇九九
一〇六四	一〇一〇
一〇六五	一〇一一
一〇六六	一〇一二
一〇六七	一〇一三
一〇六八	一〇一四
一〇六九	一〇一五
一〇七〇	一〇一六
一〇七一	一〇一七
一〇七二	一〇一八
一〇七三	一〇一九
一〇七四	一〇二〇
一〇七五	一〇二一
一〇七六	一〇二二
一〇七七	一〇二三
一〇七八	一〇二四
一〇七九	一〇二五
一〇八〇	一〇二六
一〇八一	一〇二七
一〇八二	一〇二八
一〇八三	一〇二九
一〇八四	一〇三〇
一〇八五	一〇三一
一〇八六	一〇三二
一〇八七	一〇三三
一〇八八	一〇三四
一〇八九	一〇三五
一〇九〇	一〇三六
一〇九一	一〇三七
一〇九二	一〇三八
一〇九三	一〇三九
一〇九四	一〇四〇
一〇九五	一〇四一
一〇九六	一〇四二
一〇九七	一〇四三
一〇九八	一〇四四
一〇九九	一〇四五
一一〇〇	一〇四六

○手形ノ所持人カ取立委任ノ裏書ヲ爲シタル場合ニ於テ手形ニ其目的ヲ附記セサルトキハ當事者間ニ於テ取立委任ノ效力ヲ生スルト同時ニ第三者ニ對スル關係ニ於テハ手形權利移轉ノ效力ヲ生シ被裏書人カ手形上ノ權利者ト爲ルモノナルヲ以テ裏書人ハ第三者ニ對シテ其權利ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

(參照)

○荷爲替ニ於ケル爲替手形ハ流通證券トシテ發行スルモノニ非ス從テ受取人ナル銀行カ他ノ銀行ニ裏書ヲ爲スコトアルモ其旨趣タル手形記載ノ金額取立ヲ委任スルヲ以テ通例トシ權利ノ移轉ヲ目的トスルモノニ非ス

○手形債權ノ讓渡ノ爲メニスル裏書ト取立ノ爲メニスル裏書トハ其目的ヲ同ウセス從テ取立ノ爲メニスル裏書ヲ表面上讓渡ノ爲メニスルカ如ク假裝スルコトハ事實上必スシモ之ヲ爲シ得サルモノニ非ス

○取立委任ノ裏書ハ手形ノ讓渡ニ非サレハ被裏書人ハ取立委任ノ裏書ヲ除ク外他ノ裏書ヲ爲スコトヲ得ス故ニ其裏書人ハ依然手形債權者ニシテ毫モ權利ヲ減損セラレサルヲ以テ何時ニテモ其手形ヲ回收シ裏書讓渡ヲ爲シ得ヘキ地位ニ在ルモノトス

第四百六十四條

○署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタル手形ノ所持人甲若カ同シク署名ノミニ依ル裏書ヲ以テ之ヲ乙者ニ讓渡シ乙者ハ更ニ之ヲ丙者ニ裏書シタルモ其不適式ニシテ無効ナルトキハ空白ト異ナラス故ニ丙者カ自己ヲ被裏

三	三五九
三六	七六
三元	二四八
三元	一六三

○書人ト爲シタル場合ニ在テハ甲者直接ノ前者タルヘキコト當然ニシテ其間裏書連續ノ問題ヲ生スヘキモノニ非ス

○商法第四百六十四條但書ハ白地裏書ニ於テ裏書ヲ抹消セラレヌシテ其效力又有スル場合ニ適用スヘキ規定ニシテ次ノ裏書カ抹消セラレヌル場合ニハ其適用ナキニトス

○商法第四百六十四條末項ノ規定ハ抹消シタル裏書ハ裏書ノ連續ニ付キ其記載ナキモノト看做シタルニ過キヌシテ裏書ハ抹消セラレサル限り適法ニ手形ノ所有權ヲ移轉スルノ旨趣ニ非ス

第三節 引受

○爲替手形ノ支拂人ハ單ニ資金ノ送付ヲ受ケタルカ爲メ手形ノ引受ヲ爲ササルヘカテサレハ義務ヲ負擔スルモノニ非スシテ引受ノ諾否ハ一ニ其意思如何ニ因リ定マルモノトス

○荷爲替契約ニ於テ荷受人タル支拂人カ手形ノ引受ヲ爲シタルニ止マリ未タ手形金ヲ支拂テサレハ間ハ支拂人ハ所持人ニ對シ手形金支拂ハ債務ヲ負擔スルニ過キサルヲ以テ縱令荷主カ手形ノ割引金ヲ受取人ヨ

リ受領シタルハトテ支拂人カ荷主ニ對スル賣買代金支拂ハ債務ヲ免ルルモノト云フヲ得ス

二	四二
三六	一四八
三五	二一八
四	一五〇
五	二二九
三〇	九七
三	二四八

（參照）第四百八十六條

拒絕證書作成ノ義務ノ免除ハ單ニ拒絕證書ノミニ依ル立證方法ノ制限ヲ解キタルニ過キスシテ立證責任ヲ免除スルモノニ非サレハ手形所持人ハ呈示ノ事實ヲ立證スル責任アルモノトス

第四百九十二條

○償還ノ請求ヲ受ケタル手形裏書人ハ其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息ヲ付キ前者ニ對シテ更ニ償還ヲ請求シ得ルモ其支出セザルシ金額ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百九十七條

○商法第四百九十七條ハ手形ヨリ生スル債務ハ其手形、謄本又ハ補箋ニ署名スルニ非サレハ手形法上之ヲ保證シ得サル旨ヲ規定シタルニ過キスシテ別箇ノ書面ニ依リテ民事上ノ保證ヲ爲スコトヲ禁シタルモノニ非ス

第四百九十四條

第九節 拒絕證書

第四百九十五條

○執達吏カ手形所持人ヨリ支拂拒絕證書作成ノ委任ヲ受ケタル以上ハ委任者ノ爲メニ支拂人ニ對シテ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ請求スルノ權能ヲ有ス

第四百九十五條

○商法第五百十五條第二號所定ノ請求ニ關シテ執達吏カ干與シタル以上ハ請求者カ委任ヲ受ケタル執達吏自身ナルト所持人又ハ其代理人ナルトヲ問フテ要セサルモノトス

第四百九十五條

○支拂拒絕證書ニ支拂場所ヲ記載スルコトハ拒絕證書ノ要件ニ非サルヲ以テ其記載ナキ拒絕證書モ猶ホ拒絕證書タル效力ヲ有スルモノトス

第四百九十五條

○商法第五百十五條ノ規定ハ唯手形其謄本及ヒ補箋ニ記載シタル事項ヲ拒絕證書ニ記載スルハキ

第四百九十五條

○手形上ノ債務ヲ保證スル者ハ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フモノナルヲ以テ手形ノ所持人カ右保證人ニ對シテ其債務ノ履行ヲ求ムルニハ豫

四五	四九
四六	五七
四七	五八
四八	五九
四九	六〇
五〇	六一
五一	六二
五二	六三
五三	六四
五四	六五
五五	六六
五六	六七
五七	六八
五八	六九
五九	七〇
六〇	七一
六一	七二
六二	七三
六三	七四
六四	七五
六五	七六
六六	七七
六七	七八
六八	七九
六九	八〇
七〇	八一
七一	八二
七二	八三
七三	八四
七四	八五
七五	八六
七六	八七
七七	八八
七八	八九
七九	九〇
八〇	九一
八一	九二
八二	九三
八三	九四
八四	九五
八五	九六
八六	九七
八七	九八
八八	九九
八九	一〇〇

コトヲ命シタルニ止マリ手形ヲ原狀ノ如クニ贈還スヘキコトヲ命シタル規定ニ非ス
 商法第五百十五條第四號ハ前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地ノ記載方ニ付キ
 一定ノ方式ヲ規定シタルモノニ非サルヲ以テ拒絕證書ハ之ニ記載セル他ノ事項ト對照シテ前
 號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地タルコトヲ知リ得ヘキ記載アレハ足レリトス
 拒絕者ニ面會スルコト能ハサル場合ニ於テハ拒絕證書ニ拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシ理
 由ヲ記載スレハ足ルモノニシテ請求ノ旨趣ノ如キハ之ヲ記載スルノ要ナシ
 拒絕證書ニ法定ノ要件ヲ記載スルニハ必スシモ一定ノ方式ニ從フコトヲ要セス唯證書ノ全體
 ナ通覽シテ其要件ヲ具備スルヲ以テ足ル
 執達吏カ委任ヲ受ケテ拒絕證書ヲ作成スル場合ニ在テハ商法第五百十五條第三號ノ事項ハ執
 達吏自ラ干與シタル事項ヲ記載スヘキモノニシテ委任者ト拒絕者トノ間ニ於ケル過去ノ行爲
 ニ付キ單ニ委任者ノ陳述ニ因リテ之ヲ記載スヘキモノニ非ス
 拒絕證書ヲ作成スル場合ニ於テ拒絕者ニ面會スルコト能ハサルトキハ之ニ對シテ請求ノ旨趣
 ナ告クルニ由ナケレハ單ニ其面會スルコト能ハサリシ理由ヲ記載スルヲ以テ足レリトス
 手形ニ記載シアル事項ヲ拒絕證書ニ記載スルニハ拒絕セラレタル手形ノ如何ナルモノナルヤ
 ナ明カニ知了シ得ヘキ程度ニ於テスルヲ以テ足リ必スシモ手形面ノ文字ヲ悉ク其儘ニ記載ス
 ルコトヲ要セス

第三章 約束手形

○受取人ト爲ル行爲ト被裏書人ト爲ル行爲トハ互ニ獨立シテ成立スル事
 實ナルヲ以テ受取人トシテ手形ヲ所持スル事實ヲ請求ノ原因トスルト

○被裏書人トシテ之ヲ所持スル事實ヲ請求ノ原因トスルトハ之ヲ同一視
 スヘキモノニ非ス

○合資會社ノ業務擔當社員カ其資格ヲ冒シテ約束手形ニ署名シ自己ニ宛
 テ之ヲ振出シタル場合ト雖モ善意且過失ナキ被裏書人ニ對シテハ其手
 形振出行爲ノ無効ナル事由ヲ以テ對抗シ得サルモノトス故ニ裁判所カ
 其無効ナル事由ヲ以テ被裏書人ノ請求ヲ排斥センニハ被裏書人カ惡意
 又ハ重過失ニ因リ其手形ヲ讓受ケタルコトヲ判示セサルヘカラス

○甲者カ乙者ノ爲メ金融ヲ得セシムル方法トシテ丙者ニ宛テ約束手形ヲ
 振出シ丙者ハ之ヲ裏書讓渡シ若干ノ金員ヲ得テ乙者ノ使用ニ供シタル
 場合ニ丙者ヨリ甲者ニ對シ一定ノ期間内ニ相當ノ擔保ヲ供スヘク若シ
 之ヲ供セサレハ手形面ノ金額ヲ直ニ辨償スヘキ旨ヲ契約シタルトキハ
 縱令甲者ニ於テ後日其手形ヲ書替ヘ更ニ新手形ヲ振出スモ此一事ニ因
 リ該契約ハ當然消滅ニ歸スルモノト云フヲ得ス

○甲者カ乙者ニ對シ手形ヲ振出スニ當リ單ニ其手形ニ記載スヘキ振出ノ
 年月日若クハ受取人ノ氏名商號ノ記入ヲ乙者ニ依頼シ又ハ乙者カ其手
 形ノ交付ヲ受クル行爲ヲ甲者ニ依頼スルカ如キハ民法第百八條ニ所謂
 法律行爲ニ付キ其相手方ヲシテ代理セシメタルモノト云フヲ得ス

三五 六 一四六

三六 一〇七

三七 二〇九

三八 二五八

三九 一六五

四〇 六

三五 二 八九

三六 一三五

三七 三三

三八 一三〇

三九 二四

四〇 二四

四一 二四

- 約束手形ハ時効ニ因リ其債權消滅シタル後ト雖モ約束手形タルノ性質ニ依然之ヲ保有スルカ故ニ振出人ニ於テ手形カ時効ニ因リ其効力ヲ失セタルコトヲ條件トシテ之ニ他ノ指圖債權證券タル性質及ヒ効力ヲ有セシムルノ意思ヲ手形面ニ表示スルモ其意思表示ハ約束手形ヲシテ他ノ債權證券タラシムルノ効力ナシ
- 手形上ノ請求權ハ手形行爲ノ完了ニ因リテ發生スルモノナレハ手形授受ニ際シ一定ノ事實到來セザルトキハ之カ請求ヲ爲サズ且手形ヲ返還スヘキ旨ノ特約アルモ該特約ニ單ニ請求權ノ實行ヲ阻止スルニ止マリ其發生ヲ阻止スル効力ヲ有セザルモノトス
- 甲『第五百二十五條』
株式會社ノ取締役カ會社ノ爲メニ手形振出人意思ヲ表示スルニ當リテ該會社ノ爲メニスルノ意ヲ明カニシ其手形ニ取締役自身ノ名ヲ署セザルハカラズ
- 商法第五百二十五條ノ約束手形ニ振出人署名スルコトヲ要スル旨ノ規定ハ必スシモ其氏名ノ自署ヲ要スルモノト解スヘカラス其商號ヲ自署スルモ亦手形ノ要件ヲ具備スルモノトス
- 約束手形ニシテ偽造若クハ變造ノ點ナク且形式上商法第五百二十五條ノ成立要件ヲ具備スル以上ハ單ニ振出人日附ト振出地ノ記載カ眞ノ事實ニ適セザルハ一事ヲ以テ當然無効ト爲ルモノニ非ス從テ重大ナル過失ナキ善意ノ取得者ハ其手形上ノ權利ヲ取得保有シ得ルモノトス
- 約束手形ニシテ商法第五百二十五條ニ列記シタル形式上ノ要件ヲ具備スル以上ハ縱令其記載事項中事實ニ適合セザルモノアルモ手形ノ成立ニ何等ノ瑕疵ヲ生スルコトナシ而シテ此法理ハ手形ヲ授受セシ直接ノ當事者ナルト否ト將テ手形取得者ノ善意又ハ惡意ナルトニ依リテ其適用ヲ異ニスヘキモノニ非ス
- 約束手形ハ法律ノ特定セル形式の要件ヲ具備スルニ因リテ成立シ證券ニシテ右ノ要件ヲ具備スルモノハ約束手形タルノ性質及ヒ効力ヲ有シ其證券ニ指圖文句ノ記載アルモ之ニ他ノ指圖證券タルノ性質及ヒ効力ヲ付與スルヲ得ス
- 手形受取人ノ氏名ヲ手形ニ記入スルカ如キハ振出人ヨリ受取人ニ依頼シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
- 振出人カ受取人ノ氏名ノ記載ヲ缺キタル手形ヲ受取人ニ交付シ受取人ヲシテ其氏名ヲ記入セシメタルトキハ手形ハ其記入ノ時ヨリ効力ヲ生

天	四	六	三
二二〇	二〇八	一五〇	九三

- ノ成立要件ヲ具備スル以上ハ單ニ振出人日附ト振出地ノ記載カ眞ノ事實ニ適セザルハ一事ヲ以テ當然無効ト爲ルモノニ非ス從テ重大ナル過失ナキ善意ノ取得者ハ其手形上ノ權利ヲ取得保有シ得ルモノトス
- 約束手形ニシテ商法第五百二十五條ニ列記シタル形式上ノ要件ヲ具備スル以上ハ縱令其記載事項中事實ニ適合セザルモノアルモ手形ノ成立ニ何等ノ瑕疵ヲ生スルコトナシ而シテ此法理ハ手形ヲ授受セシ直接ノ當事者ナルト否ト將テ手形取得者ノ善意又ハ惡意ナルトニ依リテ其適用ヲ異ニスヘキモノニ非ス
- 約束手形ハ法律ノ特定セル形式の要件ヲ具備スルニ因リテ成立シ證券ニシテ右ノ要件ヲ具備スルモノハ約束手形タルノ性質及ヒ効力ヲ有シ其證券ニ指圖文句ノ記載アルモ之ニ他ノ指圖證券タルノ性質及ヒ効力ヲ付與スルヲ得ス
- 手形受取人ノ氏名ヲ手形ニ記入スルカ如キハ振出人ヨリ受取人ニ依頼シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
- 振出人カ受取人ノ氏名ノ記載ヲ缺キタル手形ヲ受取人ニ交付シ受取人ヲシテ其氏名ヲ記入セシメタルトキハ手形ハ其記入ノ時ヨリ効力ヲ生

三	七	三	三
九三	四七	一〇三	二〇八

○手形カ振出地ノ記載ヲ缺キタル爲メ無効ト爲ルトキハ振出人ハ善意ノ被裏書人ニ對シテモ亦之ヲ以テ防禦方法ト爲スコトヲ得ヘシ

○約束手形ノ振出地トシテ最小獨立ノ行政區畫タル地域ヲ記載シタルトキハ偶々其地域ト同一ノ名稱ヲ有スル行政區畫二箇以上アリテ其指定ノ精確ナラサルカ如キ場合ニ於テモ形式ノ瑕疵ト爲ルヘキモノニ非ス

(同主旨)

○二三ノ縣下ニ同一名稱ノ市町村アル場合ニ於テ其市町村ヲ振出地トシテ記載スルトキハ果シテ何レノ縣下ノ市町村ヲ指示スルヤ手形面ニ於テハ知ルコト能ハサルモ之ヲ以テ手形ノ要件タル振出地ノ記載ヲキモコトヲ爲スコトヲ得ス

○手形ノ成立要件タル振出地ニ付キテハ相當ノ文言ヲ以テ振出地ナルコトヲ認識スルニ足ルヘキ一定ノ場所ヲ手形面ニ記載スルヲ以テ足り必スシモ振出地タルコトヲ表示シテ之ヲ記載ヲ爲スコトヲ必要トセサルヲミナラズ手形面ノ孰レノ部分ニ於テ之ヲ爲スモ妨サザルヘキモノトス

○商法第五百二十五條ニ所謂振出地ノ記載トハ振出地ヲ推知セシムルニ足ル文字ノ記載アレハ可キトトノ旨趣ニ非スシテ必ス振出地ヲ表示スル文字ノ記載アルコトヲ要スル意義ナリトス

(同主旨)

振出地ハ約束手形ニ記載スヘキ要件ナレハ總令之ヲ推測シ得ヘキ事項ヲ記載スルモ振出地ト

三六 二〇一

三七

二〇一

第五百二十六條ノ二

二

○約束手形ノ振出地ハ特ニ其旨ヲ手形ニ明記スルヲ要セシテ振出人ノ肩書ニ振出地タルコトヲ得ヘキ地域ノ記載アル以上ハ振出地ノ記載ヲ欠缺セル無効ノ手形ト謂フヲ得ス

第五百二十六條ノ二

○商法第五百二十六條ノ二ニ於ケル振出地ハ之ヲ振出人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ストノ規定ハ手形ノ他地拂ナルト否トノ區別ノ標準ニ關スル規定タルニ止マリ之ヲ顛倒シテ振出人ノ營業所又ハ住所ハ之ヲ振出地ト看做スト解釋スルヲ得ス

第五百二十九條

刑

○手形債務ノ支拂ヲ保證スル爲メ振出シタル約束手形ハ從タル手形債務ナルヲ以テ債權者ニ於テ主タル手形債務ノ支拂ヲ受ケタルトキハ右保證手形ハ無効ト歸スヘキモノトス

(聯)

○約束手形ノ振出人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル後ト雖モ其以前ヨリ存スル手形債權ハ裏書讓渡スルコトヲ禁スルモノニ非サルヲ以テ宣告後ノ裏書讓渡ハ破産財團ニ對シテ當然其效ヲ有セサルモノニ非ス

(聯)

○一覽拂ノ約束手形ハ原則トシテ所持人カ支拂要求ノ呈示ヲ爲シタル日

二

二〇一

四四

一〇三

四五

一〇三

四五

一〇三

○ヲ以テ満期日ト爲スヘシト雖モ破産手續ニ於テ其手形ニ基キ債權ノ届出ヲ爲シタルトキハ届出ノ日ヲ以テ満期日ト爲スヘキモノトス

○手形ノ所持人カ満期日ニ於テ支拂ノ呈示ヲ爲シ其翌日受取人ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ爲シタルトキハ該手形ノ讓受ハ拒絕證書作成ノ期間經過後ニ在リト雖モ讓受人ハ受取人ニ對シテ償還請求權ヲ有スルコト論ヲ竣タヌ

十次制
修正百二

○満期日ニ於ケル所持人カ手形受取人ニ對スル償還請求權ハ保全ヲ履踐シタル事實アル以上ハ其所持人ノ甲ナルヲ乙ナリト主張スルモ之カ爲メ償還請求ヲ是認スルコトヲ妨ケス

○手形上現ニ裏書ノ存スル以上ハ縱令偽造ニ係ルモノナレバトテ裏書チキモノト謂フヲ得ス

十六次制
修正百二

○約束手形ノ通常裏書ノ場合ニ於テ裏書ノ年月日ヲ記載セサルトキハ其裏書ノ不適法ニシテ無効ナルハ勿論手形ノ振出日以前ノ日ヲ裏書ノ年月日トシテ記載シタルトキモ亦其裏書ハ無効ナリトス

○如上ノ場合ニ於テ手形ノ第一裏書カ無効ナル爲メ裏書ノ連續又缺キ第二ノ裏書モ亦無効ト爲リタルトキハ縱令第一ノ裏書人甲者カ後日第二ノ被裏書人乙者ノ請求ニ因リ裏書ノ日附ヲ訂正スルモ之ニ依リ第一及

ヒ第二ノ裏書ヲ最初ヨリ全部有效ト爲シ乙者ヲシテ適法ナル手形ノ所持人タラシムルコトヲ得ヘキモノニ非ス

○約束手形ノ所持人カ適法ニ償還請求權ヲ保全シタル以上ハ裏書人ニ遲滞ノ責任アルト否トヲ問ハス満期日以後ノ法定利息ヲ請求シ得ルモノトス

○約束手形ニ支拂場所株式会社甲銀行濱松支店ト記載シタルトキハ即チ濱松ニ在ル甲銀行支店ヲ以テ支拂場所トスルコトヲ言明シタルモノニ外ナラサレハ其手形面ニハ濱松市ヲ以テ支拂地トスル旨ノ記載アルモノト爲スヲ相當トス

○約束手形ノ記名式裏書カ商法第五百二十九條第四百五十七條第一項所掲ノ要件ヲ具備スルヤ否ヤハ一ニ手形其モノニ依リ觀察スヘキモノニシテ苟モ手形面上ニ於テ之ヲ具備スル以上ハ其記載事項カ實際ノ事實ト符合スルヤ否ヤヲ問ハサルモノトス從テ裏書人カ實際ノ事實ニ反シテ日附ヲ遡記スルモ其裏書ノ無効ヲ惹起スルモノニ非ス

○手形行爲ノ效力ハ一ニ手形面ニ記載セラレタル事項ヲ基礎トシテ之ヲ決スヘキモノナレハ拒絕證書作成期間經過後ノ裏書ナルヤ否ヤモ亦手形其モノニ於ケル記載ニ依リテ之ヲ判斷セサルヘカラス

五	五	五	六	五	五
二二〇八	二二〇八	二二九九	二二〇〇	九八三	四九六

四五	元	元	二	五	六
五三〇	一〇五三	一〇五三	七四三	一〇五三	四九六

○約束手形ノ振出人カ支拂期日ニ支拂場所タル或銀行支店ニ出頭シ手形金ノ支拂ヲ爲スヘキ場合ニ於テ右銀行ノ同日同所ニ於ケル該手形ノ所持ハ手形ノ呈示トシテ有效ナリ從テ振出人ハ同日以後ノ損害利子ヲ支拂フヘキモノトス

○満期日到來スルモ手形ノ支拂ヲ爲ササル旨ノ特約ハ満期日ヲ變更スルモノニ非サレハ約束手形ノ所持人カ其請求權ヲ保全スルニハ満期日ニ手形ヲ呈示シ支拂ヲ求ムヘク且振出人カ特約ヲ主張シ支拂ヲ拒絶シタル場合ト雖モ支拂拒絶證書ノ作成ヲ要スルモノトス從テ縱令特約アルカ爲メ支拂又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ストスルモ斯ル手續ノ無効ヲ來スモノニ非ス

○支拂拒絶證書ニ支拂場所ヲ記載スルコトハ拒絶證書ノ要件ニ非サルヲ以テ其記載ナキ拒絶證書モ猶ホ拒絶證書タル效力ヲ有スルモノトス

(參照)

約束手形ニ被裏書人トシテ某銀行何何出張所殿ト記載シアルハ某銀行カ被裏書人ナルコトヲ示スモノニシテ何何出張所ナル記載ハ無用ノ文字ナルコト文面上自ラ明カナリトス
 約束手形ノ裏書讓渡ニ關シテハ商法第五百二十九條第四百五十五條乃至第四百五十七條及第四百六十四條ノ特別規定アルヲ以テ民法第四百六十九條ハ之ニ適用スヘキモノニ非ス
 有效ノ裏書ニ因リテ約束手形ヲ讓受ケタル者ハ有效ノ裏書ニ因リタルニ非スシテ其占有ヲ失

三五	三六	三六	三六	三五	三五
八	九	一〇	一一	一二	一三
一四	一五	一六	一七	一八	一九
二〇	二一	二二	二三	二四	二五
二六	二七	二八	二九	三〇	三一
三二	三三	三四	三五	三六	三七
三八	三九	四〇	四一	四二	四三
四四	四五	四六	四七	四八	四九
五〇	五一	五二	五三	五四	五五
五六	五七	五八	五九	六〇	六一
六二	六三	六四	六五	六六	六七
六八	六九	七〇	七一	七二	七三
七四	七五	七六	七七	七八	七九
八〇	八一	八二	八三	八四	八五
八六	八七	八八	八九	九〇	九一
九二	九三	九四	九五	九六	九七
九八	九九	一〇〇	一〇一	一〇二	一〇三
一〇四	一〇五	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九
一一〇	一一一	一一二	一一三	一一四	一一五
一一六	一一七	一一八	一一九	一二〇	一二一
一二二	一二三	一二四	一二五	一二六	一二七
一二八	一二九	一三〇	一三一	一三二	一三三
一三四	一三五	一三六	一三七	一三八	一三九
一四〇	一四一	一四二	一四三	一四四	一四五
一四七	一四八	一四九	一五〇	一五一	一五二
一五三	一五四	一五五	一五六	一五七	一五八
一六〇	一六一	一六二	一六三	一六四	一六五
一六七	一六八	一六九	一七〇	一七一	一七二
一七四	一七五	一七六	一七七	一七八	一七九
一八〇	一八一	一八二	一八三	一八四	一八五
一八七	一八八	一八九	一九〇	一九一	一九二
一九四	一九五	一九六	一九七	一九八	一九九
二〇〇	二〇一	二〇二	二〇三	二〇四	二〇五
二〇七	二〇八	二〇九	二一〇	二一一	二一二
二一四	二一五	二一六	二一七	二一八	二一九
二二〇	二二一	二二二	二二三	二二四	二二五
二二七	二二八	二二九	二三〇	二三一	二三二
二三四	二三五	二三六	二三七	二三八	二三九
二四〇	二四一	二四二	二四三	二四四	二四五
二四七	二四八	二四九	二五〇	二五一	二五二
二五三	二五四	二五五	二五六	二五七	二五八
二六〇	二六一	二六二	二六三	二六四	二六五
二六七	二六八	二六九	二七〇	二七一	二七二
二七四	二七五	二七六	二七七	二七八	二七九
二八〇	二八一	二八二	二八三	二八四	二八五
二八七	二八八	二八九	二九〇	二九一	二九二
二九四	二九五	二九六	二九七	二九八	二九九
三〇〇	三〇一	三〇二	三〇三	三〇四	三〇五
三〇七	三〇八	三〇九	三一〇	三一〇	三一〇

フモ其後更ニ無効ノ裏書ニ因リテ其手形ヲ所持スルニ至リタルトキハ二且裏失シタル手形ノ占有ヲ回復シタルニ外ナラサレハ手形上ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘシ

約束手形ヲ關取シタル者カ支拂拒絶證書作成ノ期間經過後ニ於テ裏書シタルトキハ被裏書人ハ商法第四百六十二條ノ規定ニ依リ前者ノ有セシ權利ノミヲ取得スルニ過キサルモノトス

約束手形ノ裏書人カ裏書ノ年月日ヲ週記シタルトキハ其記載ハ無効ニシテ裏書行爲モ亦無効ニ屬スルモノトス從テ裏書人カ裏書ニ因リテ得タル利益ハ法律上ノ原因ナクシテ享受シタルモノナリ(第四百五十七條四一年八二六頁參照)

約束手形ノ振出人ハ自己ヲ受取人ト爲スコトヲ得サルモ其振出シタル手形ヲ更ニ他人ヨリ讓受ケ又ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトハ約束手形ノ性質上毫モ妨ナシ

約束手形ノ振出人カ他人ヨリ自己ノ振出シタル手形ヲ讓受ケルモ民法上混同ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

拒絶證書作成ノ期間經過後ニ於ケル約束手形ノ被裏書人ハ第一ノ被裏書人タルト否トヲ問ハズ其裏書人ノ有セシヨリ以上ノ權利ヲ取得スルヲ得サルカ故ニ手形債務者ハ満期後ノ裏書人ニ對抗シ得ヘキ抗辯ヲ以テ其被裏書人ニ對抗スルコトヲ得

約束手形ノ所持人カ償還請求ノ爲メニ必要ナル手形ノ呈示ヲ爲サンニハ振出地ヲ以テ其支拂地トスヘキ場合ニ於テハ振出人ニ之ヲ爲シ又振出地以外ノ支拂地ナル場合ニ於テハ支拂擔當者アルトキハ支拂擔當者ニ之ヲ爲シ若シ支拂擔當者アラサルトキハ振出人ニ之ヲ爲スヲ要ス

商法第四百九十條ハ他所拂ノ手形ニ付テハ拒絶證書作成ノ免除アリタル場合ト雖モ所持人カ償還請求ヲ爲スニハ之ヲ作成スルヲ要スヘキコトヲ規定シタルニ非スシテ唯該手形ノ呈示及

七拒絶證書ノ作成ハ支拂地ニ於テスルコトヲ要スル旨即チ同法第四百四十二條ノ除外例ヲ示

三五	三六	三六	三六	三五	三五
五	六	七	八	九	一〇
一一	一二	一三	一四	一五	一六
一七	一八	一九	二〇	二一	二二
二三	二四	二五	二六	二七	二八
二九	三〇	三一	三二	三三	三四
三五	三六	三六	三六	三五	三五
三九	四〇	四一	四二	四三	四四
四五	四六	四七	四八	四九	五〇
五二	五三	五四	五五	五六	五七
五九	六〇	六一	六二	六三	六四
六六	六七	六八	六九	七〇	七一
七三	七四	七五	七六	七七	七八
八〇	八一	八二	八三	八四	八五
八七	八八	八九	九〇	九一	九二
九四	九五	九六	九七	九八	九九
一〇〇	一〇一	一〇二	一〇三	一〇四	一〇五
一〇七	一〇八	一〇九	一一〇	一一一	一一二
一一四	一一五	一一六	一一七	一一八	一一九
一二〇	一二一	一二二	一二三	一二四	一二五
一二七	一二八	一二九	一三〇	一三一	一三二
一三四	一三五	一三六	一三七	一三八	一三九
一四〇	一四一	一四二	一四三	一四四	一四五
一四七	一四八	一四九	一五〇	一五一	一五二
一五三	一五四	一五五	一五六	一五七	一五八
一六〇	一六一	一六二	一六三	一六四	一六五
一六七	一六八	一六九	一七〇	一七一	一七二
一七四	一七五	一七六	一七七	一七八	一七九
一八〇	一八一	一八二	一八三	一八四	一八五
一八七	一八八	一八九	一九〇	一九一	一九二
一九四	一九五	一九六	一九七	一九八	一九九
二〇〇	二〇一	二〇二	二〇三	二〇四	二〇五
二〇七	二〇八	二〇九	二一〇	二一一	二一二
二一四	二一五	二一六	二一七	二一八	二一九
二二〇	二二一	二二二	二二三	二二四	二二五
二二七	二二八	二二九	二三〇	二三一	二三二
二三四	二三五	二三六	二三七	二三八	二三九
二四〇	二四一	二四二	二四三	二四四	二四五
二四七	二四八	二四九	二五〇	二五一	二五二
二五三	二五四	二五五	二五六	二五七	二五八
二六〇	二六一	二六二	二六三	二六四	二六五
二六七	二六八	二六九	二七〇	二七一	二七二
二七四	二七五	二七六	二七七	二七八	二七九
二八〇	二八一	二八二	二八三	二八四	二八五
二八七	二八八	二八九	二九〇	二九一	二九二
二九四	二九五	二九六	二九七	二九八	二九九
三〇〇	三〇一	三〇二	三〇三	三〇四	三〇五
三〇七	三〇八	三〇九	三一〇	三一〇	三一〇

拒絶證書ノ作成等支拂ニ關スル行爲ハ其場所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス故ニ同所ニ於テ拒絶證書ヲ作成スルニハ振出人ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス

商法第四百八十四條ハ爲替手形ノ所持人ト支拂人トノ間ニ於ケル支拂ニ付テノ規定ナルヲ以テ同第五百二十九條ニ依リ之ヲ約束手形ニ準用スヘキ場合モ亦其所持人ト振出人トノ間ニ於ケル支拂ノ場合ナラサルヘカラス

約束手形ノ所持人ト其振出人トノ間ノ關係ニ於テハ所持人カ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示シタルモ振出人カ支拂ヲ爲サザリシ事實ヲ證明スル方法ハ拒絶證書ヲ以テスルコトヲ要セザルノミナラス縱令商法第五百十五條ニ列記シタル事項ノ一二チ欠缺シテ適法ノ拒絶證書ト爲ラサルモノト雖モ裁判所ハ之ヲ採リテ其裁判ノ資料ニ供スルコトヲ妨グス

約束手形ノ所持人カ支拂保證人ニ對シテ支拂ヲ請求スルニハ主債務者タル振出人ニ對シ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示スルノ要ナキモノトス

約束手形ノ振出人カ破産宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ手形所持人ハ破産宣告ノ日ヲ以テ滿期日ト爲シ支拂ノ爲メ手形ヲ呈示スルノ權利ヲ取得スルモ之カ爲メニ手形面ノ滿期日ニ至リ其請求ヲ爲スノ權利ヲ失フモノトス

約束手形ノ所持人カ滿期日ニ支拂場所ナル銀行ニ至リ行員ニ對シ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メタルモ之ヲ拒絶セラレシニ因リ拒絶證書ヲ作成セル場合ニ於テハ振出人ニ對シ呈示ヲ爲シタルモノトス非サレハ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フモノトス

約束手形ノ振出人ハ所持人カ正當ノ手形債權者ナルヤ否ヲ調査スルノ權利ヲ有ス從テ振出人カ裏書讓渡ノ事實ヲ否認スル以上ハ所持人ニ於テ其裏書ノ真正ナルコトヲ立證スルニ非サレハ手形金ノ支拂ヲ請求シ得サルモノトス

四一	八九〇
四二	一〇九三
四三	一一〇八
四四	一一二二
四五	一一〇八
四六	一一〇二
四七	一一〇九
四八	一一〇七
四九	一一〇八
五〇	一一〇八

(刑)

約束手形ノ振出人ハ所持人カ手形面ニ記載セラレタル支拂場所ニ於テ手形ヲ呈示セサルモ之カ爲メニ手形金支拂ノ義務ヲ免ルルモノトス

甲者カ乙者ヲ欺罔シテ約束手形ヲ騙取シ之ヲ丙者ニ讓渡シタル場合ニ於テ乙者カ丙者ノ請求ニ因リ示談ノ上手形金額ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其辨濟ハ有效ニシテ手形上ノ債務ヲ消滅セシムルモノトス而シテ乙者ハ丙者ヲ以テ正當ノ所持人ナリト誤信シ之ニ對シテ支拂ヲ爲シタルトスルモ此事實ハ辨濟ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

振出人ニ對シ支拂ヲ請求スル場合ニ於テ手形呈示ノ事實ヲ證明スルニハ必スシモ拒絶證書ヲ以テスルノ要ナキハ勿論拒絶證書ト同様ノ方法ニ從ヒテ作成シタル文書ヲ以テスルコトヲモ要セサルモノトス

手形ノ所持人カ支拂ノ催告ヲ執達更ニ委託シ其代理人ヲシテ之ト同行セシメタル場合ニハ縱令執達吏躬親ラ手形ノ呈示ヲ爲ササルモ右ノ代理人カ呈示ヲ爲ストキハ其催告ハ適法ナルモノトス

約束手形ノ振出人ハ常ニ手形ノ所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人ニ對シテ支拂ノ義務ヲ負フモノトス而シテ此ハ是償還義務者トシテ負フニ非スシテ振出人トシテ之ヲ負フニ外ナラス

約束手形ノ所持人カ滿期日ニ支拂要求ノ爲メ支拂場所ニ到ルモ支拂義務者タル振出人死亡シテ之ニ面會スルコトヲ得サルカ如キ場合ニ所持人其死亡ノ事實ヲ知ラサル以上ハ振出人ヲ拒絶者トシテ拒絶證書ニ其氏名ヲ記載スヘキハ當然ナリ

第四章 小切手

○振出人ト支拂人トノ間ニ交互計算ノ約アリテ小切手ヲ振出シタル場合

商法 手形 小切手

三六	四四二
三七	四四二
三八	四七二
三九	一一四
四〇	八二六
四一	一一三
四二	一一三
四三	一一三
四四	一一三
四五	一一三
四六	一一三
四七	一一三
四八	一一三
四九	一一三
五〇	一一三

○ニ於テハ振出ノ當時振出人カ現實ニ資金ヲ有シタルト否トニ拘ハラズ法律上振出人ハ資金アリテ小切手ヲ振出シタルモノト看做スヘキモノトス

○振出人カ受取人ノ爲メ送金行爲ヲ爲ス目的ニテ小切手ヲ振出シタル場合ニ於テハ兩者ノ關係ハ單純ナル小切手取引ノ關係ヲ以テ率スヘキモノニ非ス縱令振出人ト支拂人トノ間ニ交互計算ノ約アルモ受取人ノ相關セサル所ナレハ支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキハ振出人カ當初受取人ヨリ受取リタル金額ハ即チ之ヲ不當ニ利得シタルモノト云ハサルヘカラス

○當座貸越契約ニ基ク貸借ハ小切手ニ依ラサレハ成立セシムルヲ得サルモノニ非ス從テ小切手ニ依ルニ非サレハ該契約ニ於ケル貸借成立セストノ事實ハ顯著ナル事實ニ非ス

○貸金債權ノ辨濟ヲ確保スル爲メニ小切手ヲ振出シタル場合ニ於テ先ツ手形權利ヲ行使スルト又ハ之ヲ行使セスシテ貸金債權ヲ行使スルトハ債權者ノ任意ニ存シ手形權利ヲ行使シタル後ニ非サレハ貸金債權ヲ行使スルコトヲ得サルモノニ非ス

○如上ノ場合ニ債權者カ其小切手ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ債務者ニ對

(第五百三十條)

シテ更ニ貸金債權ヲ行使スルコトヲ得スト雖モ手形金ノ支拂ハレサル限り債權者ハ償還義務ニ服スヘキヲ以テ讓渡ノ一事ニ因リテ貸金債權カ當然消滅スヘキモノニ非ス

(刑)

○小切手ノ振出日附ハ必スシモ眞ノ振出年月日ニ適合スルコトヲ要セス苟モ手形ノ形式ニ缺クル所ナキ以上ハ實質上瑕疵ヲ生スルモノニ非サルヲ以テ小切手交付後ノ年月日ヲ以テ振出日附ト爲シタルトキハ其小切手ノ振出日附到來ノ時ヨリ振出人トシテ手形ノ文言ニ從ヒ義務ヲ負擔スヘキモノトス

○小切手ニ記載スヘキ振出ノ日ヲ實際振出行爲ヲ爲シタル日ヨリ後ナラシメタル場合ニ於テハ其記載セラレタル振出ノ日ヲ到來シタル以後ニ非サレハ受取人又ハ所持人ハ支拂人ニ對シ支拂ヲ請求スルコトヲ得スト雖モ先キ日附ノ小切手ナルコトヲ知リテ之ヲ受取リタル者ト振出人又ハ前所持人トノ間ニ實際振出行爲アリタル日又ハ小切手ノ授受アリタル日ニ於テ金錢ノ支拂ニ代ヘ其小切手ヲ授受スヘキ旨ヲ約スルトキハ其約束アリタル日ニ於テ直ニ小切手ノ授受ヨリ受者ニ對シ現金ノ交付ヲ爲シタルト同一ノ經濟上ノ利益ヲ與ヘタルモノト云フコトヲ得ル

Table with page numbers and chapter markers (三五, 三七, 三五, 七, 二八六, 一九二, 三四, 二八六) at the bottom of the pages.

第十四條
第十五條
第十六條
第十七條
第十八條
第十九條

○ヘタル損害ニ付テハ船舶所有者ハ航海ノ終ニ於ケル状態ヲ限度ト爲シ海産ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得ルモノトシ以テ所有者ノ責任ノ範圍ヲ限定シタルニ過キスシテ航海ノ終ニ於ケル海産ノ状態ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ常ニ船舶所有者ヲシテ委付權ヲ行フコトヲ得サレシムルノ旨趣ニ非ス

○船舶所有者カ商法第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ爲ス場合ニ於テ其委付スヘキ損害賠償權ノ有無ハ所有者カ自ラ其權利ヲ實行スル意思アルト否トニ因リ之ヲ決スヘキモノニ非スシテ其船舶ニ付キ生シタル損害ノ事實關係如何ニ因リテ定マルヘキモノトス

○委付ヲ許シタル債權ニ付キ支拂ノ猶豫ヲ求メタルコトハ委付ヲ爲スヲ妨ケサルヲ以テ縱令支拂猶豫ヲ求メタルハトテ委付ノ權利ヲ拋棄シタルモノト云フヲ得ス

○商法第五百四十四條第一項ハ船舶所有者ニ過失ナカリシトキト雖モ其責任ヲ免ルルコトヲ得サル旨ヲ規定セルモノナルヲ以テ民法第七百十五條ニ規定セル使用者ノ責任ニ比シ一層重キ責任ヲ船舶所有者ニ負ハシメタルモノニシテ即チ其例外規定ナリトス

○二人各自ノ所有船舶ノ各船長ハ職務上ノ共同過失ニ因リ他人ニ損害ヲ

四〇
四一
四二
四三
四四
四五
四六
四七
四八
四九
五〇

第五百五十九條

○加ヘタル場合ニ於テハ其賠償ニ付キ各船長ノ責任スル債務ハ民法第七百十九條第一項ニ依リ連帶ナルヲ以テ各船舶所有者モ亦連帶債務ヲ負擔スヘキモノトス

第一章 船員

第一節 船長

第五百五十九條

第五百五十九條

○船長ハ平常海員ノ職務執行ニ注意シテ相當ノ監督ヲ怠ラサリシ場合ニ非サレハ休養時間中ニ生シタル海員ノ過失ニ基ク損害ニ付テモ亦其責任ニ任セサルヲ得ス

第五百六十六條

第五百六十六條

○船舶ノ堪航能力ハ固ヨリ航海ニ必須ノ要件ナレハ船舶カ破損シテ堪航能力ノ缺損シタル場合ニ之ヲ補充スルガ爲メニ修繕ヲ施スコトハ商法第五百六十六條ニ所謂航海ニ必要ナル行爲ナリト云ハサルヘカラス

○商法第五百六十六條第一項ニ所謂航海トハ船舶カ船籍港ヲ發シテ船籍港ニ復歸スル迄ノ航海ヲ指稱スルモノニシテ或港ヨリ或港ニ至ル特定ノ運送航海ヲ謂ヘルモノニ非ス從テ船長ハ船籍港ニ復歸スル迄ノ航海

四二
四三
四四
四五
四六
四七
四八
四九
五〇

ノ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモノトス

○船長カ法定權限内ニ於テ爲シタル船舶ノ修繕契約ハ後日船主ニ於テ其修繕費ノ支拂猶豫ヲ求メタル爲メ船長ノ契約タルヲ失フヘキモノニ非ス

(第五百六十八條)

【第五百六十八條】

(參照)

航海ノ繼續ニ必要ナル費用ヲ生シタルトキト雖モ其費用支辨ノ爲メニ借財ヲ爲スコトハ航海ノ繼續ニ之ヲ必要トスル場合ニ在ラサレハ船長ノ權限ニ屬セス

船長カ航海ノ繼續ニ必要ナル費用ノ立替ヲ受ケタル場合ニ於テ更ニ其立替金ヲ以テ消費貸借ノ目的トスルコトヲ約スルコトモ亦同シ

第三章 運送

第一節 物品運送

第一款 總則

○運送契約ニ於テ荷送人カ一身上ノ事故ニ依リ船積ヲ爲ササルトキト雖モ運送賃支拂ノ責ニ任スヘキ旨ノ特約ヲ爲シタル場合ニハ船主ハ其特約ニ因リ運送ノ履行ナキニ拘ハラズ運送賃ヲ請求スルコトヲ得ヘシ
○荷受人ノ運送賃支拂ノ義務ハ荷受人カ運送品ヲ受取リタル時ニ至リ始

三九

一四二五

四二

四六一

四二

四六一

四五

二〇二

四五

二〇二

メテ發生スルノニシテ運送人カ陸上ヲ爲シ得ヘキ狀態ニ到リタル時ニ發生スルモノニ非ス

○商法第六百六條ニ運送品ヲ受取リタルハ假處分ニ依リ假ノ地位ヲ定メタル場合ヲ包含セサルモノトス

○荷受人ハ運送品ヲ受取リタルトキハ船舶所有者トノ間ニ法律關係ヲ生シ船舶所有者ハ再運送契約ノ運送賃ニ付テノミナラス第一運送契約ノ運送賃即チ備船料ニ付テモ商法第六百六條第二項ニ定メタル權利ヲ有シ其金額ノ支拂ト引換ニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス

(第六百十條)

【第六百十條】

○同一ナル物品運送ノ目的ヲ以テ第一ニ船主ト備船者トノ間第二ニ其備船者ト第三者トノ間ニ運送契約成立シタル場合ニ於テ船主カ第一ノ契約ニ從ヒ運送ヲ了シタルモ運送賃ノ支拂ヲ受ケサルニ因リ運送品ノ上ニ留置權ヲ有スルトキハ第三者カ備船者ニ對シ第二ノ契約ニ從ヒテ既ニ運送賃ヲ支拂ヒタルトキト雖モ船主ハ運送賃ノ支拂ヲ受クルマテ其第三者ニ對シテモ留置權ヲ主張シテ運送品ノ引渡ヲ拒ムコトヲ得
○商法第六百十二條ノ規定ハ備船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタル

四二

八五六

七

九〇二

七

九〇二

七

九〇二

トキハ其契約ノ履行カ船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テ船主ヲシテ其
第三者ニ對シ履行ノ責ニ任セシメタルニ止マリ船主カ備船者ト契約シ
タル運送賃ノ支拂ヲ受ケサル爲メ運送品ノ上ニ有スル留置權ノ行使ニ
制限ヲ加ヘタルモノニ非ス

四二

八九六

○同一ノ物品運送ノ目的ヲ以テ第一ニ船舶所有者ト備船者トノ間ニ運送
契約成立シ第二ニ其備船者ト第三者トノ間ニ更ニ運送契約成立シタル
場合ニ於テハ船舶所有者ハ契約ノ當事者タル備船者ニ對シ第一運送契
約即チ備船契約ニ基ク備船料ノ請求權ヲ有スルモノトス

七

九〇二

○如上第一運送契約ハ備船者カ第三者ト爲ス再運送契約ト全然別箇ノモ
ノナリト雖モ商法第六百十二條ノ範圍内ニ限り船舶所有者ト第三者ト
ノ間ニ直接ノ法律關係ヲ生シ船舶所有者ハ履行ノ責ヲ負フ結果トシテ
其反對給付タル再運送契約ノ運送賃ヲ請求スルノ權ヲ有スルモノト謂
ハサルヘカラス

七

九〇二

〔第六百十三條〕

○船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ積荷カ其船舶ト共
ニ不可抗力ニ因リテ沈没シタルトキニ於テ商法第六百十三條第二項ニ
所謂運送品ノ價格ヲ超エサル限度トハ滅失シタル積荷ノ價格ヲ控除シ

三

九〇二

タルモノナラサルヘカラス

三

四八

○船舶所有者ノ割合運送賃請求權ハ運送契約ニ因リ當然生スル權利ニ非
ス立法者カ公平ヲ維持スル見地ヨリ特ニ付與シタル權利ニ外ナラサル
ヲ以テ船舶所有者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ船舶カ沈没シタル場合ハ
商法第六百十三條ノ規定中ニ包含セサルモノトス

二

五八三

○船舶所有者カ商法第六百十三條ニ依リ割合運送賃ノ請求權ヲ有スルハ
船舶所有者ヲ保護スルカ爲メ法律ノ規定ニ依リ付與セラレタルモノナ
ルヲ以テ船舶ノ沈没カ其責ニ歸スヘキ事由ニ基因セサル事實ハ割合運
送賃ノ請求ニ因リ利益ヲ享受スヘキ船舶所有者ニ於テ立證ノ責任アル
モノトス

二

五八三

〔第六百十四條〕

○備船契約ニ基キ貨物運送ノ途中備船者ノ都合ニ依リ積荷ノ一部ヲ他船
ニ積換ヘタル爲メ運送スヘキ貨物カ殘存スル部分ニ減少シタル場合ニ
於テ第三者ノ判決執行ニ因リ其殘存部分ノ占有ヲ喪失シタルトキト雖
モ商法第六百十四條ヲ適用スヘキモノトス

四五

三六

〔第六百十九條〕

○船舶所有者カ自己ノ便宜ノ爲メ其選擇ヲ以テ任意ニ曳船ヲ雇入レ運送

四五

三六

行為ノ補助ヲ爲サシメタルトキハ該曳船ノ船長ハ獨立ノ營業ヲ爲ス者ナレトモ船船所有者カ其運送ノ爲メニ使用シタル者タルコトヲ妨ケス從テ曳船船長ノ過失ニ因リ荷送人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ船船所有者ハ商法第六百十九條第三百三十七條ノ規定ニ從ヒ之カ賠償ノ責任セサルヘカラス

第二款 船荷證券

○船荷證券トシテ無効ナルモノハ他ノ指圖證券トシテ有效ナルヤ否ヤハ當事者ノ意思ノ解釋ニ因テ定マルヘキモノトス

第六百二十條

第六百二十條

○船荷證券ハ荷積前ニ於テ作成授受スルモ違法ニ非ス然レトモ其作成授受ヲ荷積後ニ於テシ其效力モ亦荷積後ニ發生スルヲ以テ通例トス
○運送契約ニ付テハ船長ハ船船所有者ノ代理人ニシテ船荷證券ヲ發行スルコトモ亦其代理權限内ニ在ルモノトス

第六百二十九條

第六百二十九條

○荷物送狀カ指圖式ナル場合ニ於テ流通證券タル性質ヲ有スルトキハ記名式ナル場合ニ於テモ亦裏書ニ依リ轉轉スヘキハ勿論ナリトス

(參照)

運送人カ船荷證券ヲ受取ラスシテ荷爲替附ノ貨物ヲ荷受人ニ交付シタル爲メ該爲替金ヲ償還セル荷送人ハ契約ノ違背者タル運送人ニ對シ其違背ニ因テ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルト代金ヲ支拂ハスシテ物品ヲ受取リタル荷受人ニ對シ其代金ヲ請求スルトヲ自由ニ選擇シ得ルモノトス

第四章 海損

第六百五十條

第六百五十條

○商法第六百五十條ハ船船カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ニ於ケル損害ノ負擔ニ付キ各船主間ノ關係ヲ規定シタルモノニシテ被害荷主ニ對スル關係ヲ規定シタルモノニ非ス

第六百五十一條

第六百五十一條

○商法第六百五十一條ニハ廣ク船船ノ衝突ニ因リテ生シタル債權トアルヲ以テ其前條ノ場合ノ外船船カ一方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ノ債權モ亦之ニ包含スルモノトス

○商法第六百五十一條ノ規定ハ同第五百三十八條ニ依ル船船ノミニ適用スヘキモノニシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セサル法意ナリトス

○商法第六百五十一條第一項ノ規定ハ人ノ生命身體ヲ害シタルニ因リ生

四二	三
三六	一一
三三	七
三五	二
三四	五
三二	一四九
三	八四

三六	八四七
四〇	一三七
四〇	一六
四〇	一三九

シタル債權ニハ其適用ナキモノトス

第五章 海難救助

第六百五十二條ノ二

○乗組員ノ占有ヲ離レタル漂流中ノ船舶又ハ積荷ヲ義務ナクシテ救助シタル行爲ハ海難救助ニ關スル商法第五編第五章ノ制定セラレサリシ時代ノ法規ニ於テハ事務管理ヲ構成シタルモノトス

(參照)

海上ニ於テ遭難船舶ヲ救助シタル者ハ船舶所有主ニ對シテ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第六章 保險

○保險契約ハ經濟上ノ利益ヲ目的トスルモノナレハ委付ニ關スル約款ノ如キモ他ニ特別ノ理由ナキ限り經濟的ノ意義ヲ有スルモノト解釋セサルヘカラス

○委付ニ關スル保險約款中「船舶カ沈没ニ因リ全ク救助救援ノ見込ナキトキ」トアルハ全然物理的ノ意義ヲ有スルモノトシ物理上如何ナル方法ヲ以テスルモ救ヒ得ル望ナキ場合ニ非サルハ委付ヲ爲シ得サル旨趣

ナリト解釋シテ何等特別ノ理由アルコトヲ明示セサル判決ハ經驗上ノ法則ニ違背シテ事實ヲ確定シタル不法ノ裁判ナリ

第六百五十三條、第六百五十四條

○積荷ノミヲ保險ニ付シタル場合ト雖モ其損害ノ填補ハ積荷其物ノ流失滅損等ニノミ制限シタルモノニ非スシテ天災若クハ衝突等ノ爲メ船體損傷シ指定港ニ運漕スル能ハサル如キ不可抗力ニ因リ途中ニ於テ積荷ヲ賣却シ損害ヲ生シタルトキハ保險者ハ其損害ヲ負擔スヘキモノトス

○積荷ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船積方法ニ關スル船長ノ過失ニ因リ航海中損害ヲ生シタルトキハ保險者ハ之ヲ填補スヘキ責任ヲ負フモノトス

○積荷ニ關スル海上保險契約ニ於テ保險者カ總テノ海上危險ニ付キ責任ヲ負擔シタル場合ニ於ケル所謂海上危險トハ商法ニ所謂航海ニ關スル事故ト同一ナル包括的意義ヲ有シ雷ニ風波ノ如キ絶對的自然力ニ出ツル危險ノミナラス相對的人爲ニ出ツル不慮ノ危險ヲモ總テ包含スルヲ普通ノ事例ナリトス

○海上保險契約ニ於テ不可抗力ニ基因セサル損害ヲ除外スル場合ニ所謂不可抗力トハ通常其損害ヲ受クヘキ人ノ方面ヨリ取引ノ通念ヲ以テ觀

五三〇

一〇三九

七五九

一四

一四

一八五

九八一

一〇三六

察シ危險發生ノ場合ニ於ケル事物ノ狀況ニ應シ相當ト認ムヘキ人カヲ以テ其發生及ヒ有害ナル結果ヲ回避防止スルコト能ハサルモノヲ指稱シ其自然力ニ出ツルト將タ人爲ニ出ツルトヲ問ハサルヲ普通ノ事例ナリトス

○保險價額ノ協定カ無効ナルトキハ商法第六百五十六條ニ依リ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル船舶ノ價格ヲ保險價額ト爲スヘキモノナルモ船舶カ修繕不能ト爲リ之ヲ委付スルコトヲ得ルヤ否ハ修繕後ニ有スヘキ實際ノ價額ト修繕費等ノ費用トヲ比照シテ決スヘキ特約アルトキハ之ニ從ヒ定ムヘキモノトス

〔第六百六十四條〕

○保險者カ保險契約締結當時ノ船長ニ信用ヲ置キ該契約ノ效力ヲ其變更ニ繋ラシメ保險者ノ承諾ナクシテ船長ヲ變更シタルトキハ損害填補ノ責ニ任セサルヘキ旨ヲ要約スルカ如キハ毫モ公益ニ反スル所ナケレハ法律上之ヲ無効ト爲スヘキモノニ非ス
○商法第六百六十四條ハ單ニ普通ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ保險者カ保險契約ノ效力ヲ船長ノ更替ニ繋ラシムルコトヲ禁止セルモノニ非ス

〔第六百六十七條〕

○重大ナル過失トハ相當ノ注意ヲ爲スニ及ハスシテ容易ニ違法有害ノ結果ヲ豫見シ回避スルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於テ漫然意ハス之ヲ看過シテ回避防止セザリシカ如キ殆ト故意ニ近似スル注意缺如ノ状態ヲ謂フモノトス

〔第六百七十條〕

○商法第六百七十條ニ所謂航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ單ニ被保險事故ニ因リ絕對ニ其運送ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至レルカ爲メニ賣却ヲ遂ケタルカ如キ場合ノミヲ指シタルニ非スシテ衝突事故ノ爲メ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リ他ノ方法ヲ以テ運送ノ目的ヲ達スルニハ莫大ナル費用ヲ要シ途中ニ於テ賣却シタル場合ニ比スレハ一層多額ノ損失ヲ受ケサルヘカラサルカ如キ場合モ亦之ニ包含セルモノトス

〔第六百七十一條〕

○船舶ノ保險契約ニ關シ其價額ハ之カ標準タルヘキモノナレハ修繕不能ヲ原因トセル委付ニ付テハ格外ニ高ク不實ナル價額ノ協定ハ法律上其效力ヲ生セサルモノトス

二
1036

六
四八

三
五七〇

三
五七〇

二
1036

三
1011

三
八九〇

元
九六九

第七章 船舶債權者

第六百八十條

『第六百八十條』

○商法第六百八十條第二號ノ保存費ニ屬セサル船舶ノ修繕費ト雖モ其修繕ヲ爲スコトカ船長ノ法定權限内ニ屬シ而モ船長ニ於テ之ヲ爲シタル以上其修繕費ノ債權者ハ同條第九號ニ從ヒ先取特權ヲ有スルモノトス

(參照)

商法第六百八十條第五號ニハ救助ノ費用トアリテ其救助カ義務ナクシテ爲サレタルト契約ニ因ルトナ區別セサレハ契約ニ因ル救助ノ費用ナモ包含スルモノト解セサルヘカラス

四五

1011

四五

1011

商法 明治二十三年法律第三十二號

注 本法中第一編第六章第十二章及ヒ第二章第四章(商事會社ニノミ)ハ明治二十六年七月一日ヨリ同三十二年六月十五日マテ第三編ハ同二十六年七月一日ヨリ現時ニ至ル

意 上掲ノ部分ヲ除ク殘部ハ同三十一年七月一日ヨリ同三十二年六月十五日マテ施行セラル

總則

第一條

『第一條』

(參照)

商習慣ハ當事者チシテ證明セシムルカ又ハ裁判所ノ職權ニ依リ調査ヲ爲シタル上ニ非サレハ漫然其存在ヲ認ムルヲ得ス

第一編 商ノ通則

第一章 商事及ヒ商人

(參照)

商法 總則 商ノ通則 商事及ヒ商人

二六

三

1011

店判ハ商業以外ノ權利關係ニ付キ之ヲ使用スヘキモノニ非サルモ商業ニ附隨スル事項ニ付キ義務ヲ負フ場合ニ之ヲ使用シタルハトテ通常一般ノ慣行ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

〔第四條〕

〔第四條〕

(參照)

一ノ取引ニシテ其大體ノ目的商事上ノ取引ヲ爲スニ在ルトキハ縱令其取引ニ係ル物件ノ一部分ヲ他ノ目的ニ使用スルモ相手方ニ對シ商取引タル性質ヲ失ハス
商取引ナルト否ハ其取引ノ目的如何ニ依リ定ムヘク賣買上得ヘキ利益ヲ標準ト爲スヘキモノニ非ス
手形法ハ商法ノ一部ナリ故ニ之ニ基ク手形ノ發行及ヒ流通ニ係ル作業及ヒ取引ハ商法上ノ行爲ニシテ商取引ニ屬スルモノトス

〔第六條〕

〔第六條〕

○明治二十六年舊商法ノ一部施行以來商事ノ行爲ト民事ノ行爲トヲ區別シ商人カ其商業資金融通ノ爲メニ爲ス所ノ契約ハ之ヲ商事ノ行爲ト看做シタルノミナラス明治三十一年舊商法施行後ハ同法第六條ニ該當スルヲ以テ其契約ニ因リテ生シタル債權ハ同法第三百四十九條ニ依リ同法施行ノ日ヨリ時効ノ適用ヲ受ケ尙ホ現行商法及ヒ同商法施行法第三百七條ノ適用ニ依リ時効ニ罹ルモノトス

第三章 商號

〔第二十九條〕

〔第二十九條〕

○當事者間ニ於テ同一ノ商業ヲ營マストノ契約ハ適當ナル期間又ハ區域ニ制限シアル場合ニ於テハ有效ナリトス

第四章 商業帳簿

〔第三十九條〕

〔第三十九條〕

(參照)

商人カ商業上ノ取引ヲ記入セル簿冊ハ單純ナル手控ノ如キモノト異ナリ其商業取引ニ付テハ一應ノ證據力ヲ有スルヲ以テ之カ論争ヲ爲スモノハ相當ノ立證ヲ爲ササルヘカラス

第五章 代務人及ヒ商業使用人

〔第四十五條〕

〔第四十五條〕

(參照)

商家ニ於ケル支配人ノ權限ハ商業主人カ常ニ營ム所ノ業務ノ廣狹ニ伴隨スヘキモノニシテ法律上一定不動ノ限界アルコトナシ

〔第五十一條〕

〔第五十一條〕

○番頭ト稱スル雇人ハ常ニ主人ノ爲メ商行爲ヲ爲スヲ通例トスルカ故ニ其行爲ハ主人ノ代理資格ヲ以テ爲シタルモノト認ムルヲ得ヘシ

商法 商ノ通則 商業帳簿 代務人及ヒ商業使用人

三	二六	二六	三
二	三	三	五
三	二四	二〇二	四

四二	三	二元	二六	三〇
	七	二	三	六
四〇一	三	二九	五	六

第五十四條、第五十五條

第五十四條、第五十五條

○舊商法第五十五條ハ商業使用人カ金錢物品等ノ受渡ヲ爲シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ手形ヲ振出シタルカ如キ場合ニ適用スヘキ規定ハ同法第五十四條ナリ

第六章 商事會社及共算商業組合

商事會社總則

第三十條

○會社ノ無限責任社員ハ該社ノ債務ニ付キ縱令形式上訴訟ニ於テ共同被告ノ地位ニ立タスト雖モ實體上義務共通ノ關係アルモノナレハ該社員ノ一人カ會社ノ債權者ヨリ訴ヲ受クルニ當リ他ノ無限責任社員ニ對シ訴訟參加ノ告知ヲ爲スヲ得ヘシ縱令其告知ヲ爲サスシテ訴訟終了シ未タ債權者ニ對シ其債務ヲ辨濟セサル前ト雖モ尙ホ共同シテ其債務ノ負擔ヲ請求スル權利アリ

第二十五條

○商法實施前ニ於ケル銀行ノ頭取副頭取ハ慣例上訴訟ニ付キ銀行ヲ代表スル權利アルモノトス
○登記ヲ受ケサル會社ノ定款タリトモ會社ト取引シタル者カ其定款ノ存在ヲ知リタル場合ニハ之ヲ適用スルモノ不當ニ非ス

第三十三條

○商法施行前ニ在テハ法人ノ資格ナキ會社ト雖モ其代表者ノ名義ヲ以テ訴ヲ爲シ又ハ訴ヲ受ケ得ルモノト爲シ又其會社解散後ノ殘務委員ハ法人タル會社解散後ノ清算人ト同一ノ任務ヲ有スルモノト爲スハ裁判上一般ノ慣例ナリ

(同義語)

商法實施前ニ解散シタル會社ノ殘務委員ハ商法ニ於ケル法人會社ノ清算人ト同一ノ任務アルモノニ付キ其社團代表ノ權利ハ之ヲ認許セサルヘカラス

○商事會社ト雖モ民法上ノ行爲ニ付キ權利義務ノ主體ト爲ルコトヲ得
○會社ノ代表權ナキ者ニ對シ會社ニ係ル支拂命令及ヒ執行命令ヲ發シ其代表權ナキ者ニ對シ裁判確定スルモノ之ニ干與セサル會社カ之ヲ認メサル以上ハ其效力ニ羈束セラルコトナシ
○民法施行前ニ於テハ民法第四十三條ノ如キ規定ナカリシカ故ニ商事會社ハ其目的タル營業ノ範圍外ニ於ケル民法上ノ法律行爲ト雖モ絶對ニ之ヲ爲スヲ得サルモノニ非ス

(參照)

會社ノ責任ナシテ有限ト爲サンニハ格段ナル條件ヲ要ス否ラサルトキハ他人ニ對シテ有限責任ヲ主張スルコトヲ得ス
地方廳カ與ヘタル「會社條例制定施行迄相對自營」任ストノ指令ハ有限責任ナル會社ノ設立

三五
三
一四七

二六
三
五〇

三
五
一〇三

三
八
一

二九
五
六一

三
五
一四

四
二
共

二五
一
五二

ヲ認可シタルモノトハ論シ難シ

會社解散スルトキハ將來ノ行爲ニ係ル實買取引ハ之ヲ繼續スルノ必要ナキニ依リ其約務ノ消滅ハ當然ノ結果ナルヲ以テ特ニ之ヲ説明ヲ付セサルモ違法ノ裁判ニ非ス
會社ノ約款ニ有限責任タルコトノ規定アルモ其效力ヲ社外人ニ及ホスコトヲ得ス縱令其規約ヲ所轄地方廳ニ届出ツルモ世上一般ニ對シ公示シタルモノト爲スニ足ラス

〔第七十二條〕

○舊商法第七十二條ノ規定ハ訓示的ノモノナレハ會社カ社印ヲ押捺セスシテ交付シタル書類ハ總テ無効ノ制裁アルモノニ非ス

(同主旨)

商法第七十二條ノ社名及ヒ社印ハ官廳ニ宛テタル文書又ハ報告書株券手形及ヒ會社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フヘキ一切ノ書類ニ之ヲ用フトノ規定ハ素ト内外商業上ノ習慣ニ基キ社號及ヒ社印ノ使用ニ關スル通則ヲ示シタルニ止マリ書類ノ效力ニ關スル法律上ノ要件トシテ規定シタルモノニ非ス故ニ社印ナキ書類ハ其書類ノ何タルヲ問ハス法律上無効ナリト云フヲ得ス

〔第七十三條〕

○商法實施以前ニ在テハ特別ノ條例ニ依テ設立セラレタル會社社團ノ外ハ法律上法人ノ資格ヲ有セス故ニ其當時ニ於ケル某會社トハ取モ直サス社員全體ヲ合シテ指稱スル所ノ假名ニ過キス會社即チ社員ニシテ會社ト社員トハ各獨立ノ權利主體タルヘキ者ニ非ス從テ會社ノ解散スルト否トハ社員ノ義務ニ消長ヲ來スノ理ナシ但法人タラサル會社社團ノ

名義ヲ以テ訴ヲ起シ又ハ訴ヲ受ケルコトヲ得タル事例アリト雖モ這ハ

畢竟訴訟手續上ノ簡便ヲ圖リテ之ヲ許ス

〔第七十二條〕

會社法實施以前ニ在テハ特別ノ條例ニ依テ設立セラレタル會社社團ノ外ハ法律上法人ノ資格

ヲ有セサルヲ以テ一般ノ法則トス此法則ニ據テ法人視スヘキモノノ外某會社ト云フモ社員全體ヲ指シテ假稱スルニ過キス其會社ハ即チ社員社員ハ即チ會社ニシテ會社ト社員トハ各獨立ノ權利主體タルヘキ者アルニ非サレハ會社ノ解散セルト否トニ因テ社員ノ義務ニ消長アラサルナリ然ルニ原裁判所カ其會社ヲ以テ會社法實施後ノ商事會社ト同視シ會社ノ現存スルニ拘ハラズ各社員ニ對シテ請求シタルヲ以テ不當ト爲シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノトス

〔第七十二條〕

○商法實施以前ニ於ケル特別條例外ノ會社ハ會社存續中ハ社長又清算中

ハ清算人ニ於テ訴答ヲ爲シ得ルモノトス

○會社法施行以前ニ行政廳ノ聽許ニ依リ設立シタル會社ハ法人ニ非サル

モノヲ團體ナリ故ニ其團體カ其資産ノ限度トシテ債務ヲ起シ債權者カ

之ヲ承諾シタルトキハ其義務ハ團體ノ資産ニ止マリ社員一個人ノ財產

ニ及ハス

○商法實施前ニ於ケル會社社團ハ特別ノ條例ニ依リ設立セラレタルモノ

ノ外法人ト看做ササルヲ以テ一般ノ法則ト爲ス

○法人ノ資格ヲ有セサル會社社團ト雖モ公然會社ト稱スルモノハ其定款

商法 商ノ通則 商事會社及共算商業組合 商事會社總則

二六

二七

二八

二九

三〇

三一

三二

三三

三四

三五

三六

三七

三八

三九

四〇

四一

四二

四三

四四

四五

四六

四七

四八

四九

表示アラサル以上ハ連帶責任ヲ負ハシムルヲ得ス

○株式ノ賣買ニ付テハ株券調製ナキモ合意ノ性質ヲ變セズ

○白紙委任狀ヲ添ヘテ株券ヲ買取リタル者ハ其名義書換ノ手續ヲ爲サス

○白紙委任狀添附ノ儘之ヲ輾轉流通セシムルコトヲ得ルハ我邦現時ノ商

○舊商法ニ於ケル株券ノ賣買ハ株券其物ノ賣買ニ非スシテ株主權タル債

權ノ賣買ニ外ナラサルモノトス

○(同左)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

○(參照)

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

一六九五

一六九六

一六九七

一六九八

一六九九

一七〇〇

一七〇一

一七〇二

一七〇三

一七〇四

一七〇五

一七〇六

一七〇七

一七〇八

一七〇九

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

第百八十條

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

一七一〇

○スル權利ニシテ證據金領收書及ヒ委任狀ノ如キハ右賣買ノ目的タル權利ヲ證明セルモノニ過キス

○舊商法第八十條中「株式」ナル文字ハ株式會社發起ノ時ヨリ其登記ヲ爲スニ至ル間ニ於ケル株式ニ關スル權利ヲ包含スルモノトス

○舊商法第八十條ニ所謂株式トハ申込ヲ爲シタル權利ヲモ包含スルモノト解釋スルヲ相當ナリトス

○舊商法第八十條ハ登記前ニ於ケル株式ハ讓渡ノ目的物ト爲シ得サル旨ヲ規定シタルニ止マリ讓渡行爲自體ヲ禁止シタルモノニ非ス

○舊商法ニ於テハ株式會社登記前ノ株式ノ讓渡ハ其普通ノ賣買タルト公賣タルトヲ間ハス將タ又其任意タルト強制タルトヲ論セス凡テ絶對ニ無効ナリトス

(同主旨)

會社ノ登記以前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ商法第八十條ニ依リ絶對的ニ無効ナリ

會社登記前ノ株式ノ讓渡ハ商法第八十條ニ依リ無効ナリトス

○商法「第八十一條」

○舊商法第八十一條ニ所謂株式ノ讓渡ハ廣ク株式ノ移轉ヲ指稱スル意味ニシテ特ニ相續ノ場合ヲ除外スルモノト解釋スヘキモノニ非ス

三	三	三	三	三	三	三	三
一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一
二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三
二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

○株式ノ移轉ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ如何ナル要件ヲ必要トスルヤハ畢竟移轉ノ效力ニ關スル事項ナルカ故ニ特別ノ法規若クハ事情ノ存セサル限り移轉當時ノ法律ニ遵フヘキモノトス

(參照)

○記名ノ株券ハ普通ノ動産ト同視スヘカラス其名義書換等ノ手續ヲ爲ササルトキハ他人ニ對シ所有移轉ノ效力ヲ有セス

第五款 取締役及ヒ監査役

○株式會社ノ訴訟ニ於テ社長カ訴訟委任ヲ爲スニ當リ其委任狀ニ社印ヲ用ユヘキ規定ナキニ依リ社長ノ實印押捺アル訴訟委任狀ヲ是認セル裁判ハ相當ナリ

○舊商法施行ノ當時株式會社ノ支配人カ會社ノ代表者トシテ締結シタル契約ハ民法第十三條ノ規定ニ依リ本人タル會社ニ於テ之ヲ追認スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノトス

(參照)

銀行ノ頭取及ヒ株主總代兼ノ肩書ヲ附シテ取締役支配人之ニ連署シ銀行ノ印章ヲ押捺シタル證書ハ完全ナル契約書ナリト認メ任ラ之ヲ無効ノ契約ト認定スルニハ確實ナル反證ヲ舉ケルカ又ハ他ニ相當ノ理由ナカルヘカラス然ルニ該銀行ノ考課狀ニ該契約ヲ締結スヘキ議決ノ記載ナキヲ唯一ノ理由トシテ該契約ハ株主總會ノ議決ヲ經サルモノト爲シ該證ノ契約ヲ無効ナ

七	七	七	七	七	七	七	七
三	三	三	三	三	三	三	三
二	二	二	二	二	二	二	二
一	一	一	一	一	一	一	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一
二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三
二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

〔第百八十五條〕

○舊商法ニ於ケル株式會社ノ取締役ハ創業總會ニ於テ選定セラルルモノ
ナレトモ其會社ノ機關トシテ活動スルハ會社設立ノ免許ヲ得而シテ發
起人ヨリ事務ノ引繼ヲ受ケタル時ニ始マルモノナレハ其任期ノ如キモ
亦此時ヨリ起算セサルヘカラス

二六 二 一三六

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

三 三 三

〔第百八十六條〕

○舊商法施行ノ當時甲株式會社カ乙株式會社ノ財産ヲ買受ケタル場合ニ
ハ甲會社ノ取締役ハ縱令其賣買ニ付キ株主總會ノ決議ヲ經タレハトテ
之カ施行ニ付テハ充分目的物ノ有無ヲ調査シ甲會社ニ損害ヲ生セシメ
サルノ責任ヲ負フモノトス從テ乙會社ニ存在セサル財産又存在スルモ
ノトシ之カ對價ヲ支拂ヒタルトキハ該取締役ニ於テ其損害ヲ賠償スヘ
キハ當然ナリ

〔第百八十八條〕

○舊商法施行ノ當時甲株式會社カ乙株式會社ノ財産ヲ買受ケタル場合ニ
ハ甲會社ノ取締役ハ縱令其賣買ニ付キ株主總會ノ決議ヲ經タレハトテ
之カ施行ニ付テハ充分目的物ノ有無ヲ調査シ甲會社ニ損害ヲ生セシメ
サルノ責任ヲ負フモノトス從テ乙會社ニ存在セサル財産又存在スルモ
ノトシ之カ對價ヲ支拂ヒタルトキハ該取締役ニ於テ其損害ヲ賠償スヘ
キハ當然ナリ

第六款 株主總會

○株式會社ノ株主カ他ノ資格ヲ以テ其會社ニ對シ債權ヲ請求スルトキハ
會社ノ議決録ニ拘束セラルルコトナシ

○各株主カ株主總會ノ決議ニ依リ負擔スヘキ義務ハ其所有スル株式ノ金
額ヲ限度トスルモノニシテ之ヲ超過シテ該決議ノ結果ヲ受タルモノニ

○非ス隨テ株主總會カ株券ノ金額ヲ増加シ又ハ新株式ヲ發行シ現在ノ株
主ヲシテ其所有スル株式ニ應シ之ヲ引受ケシムヘキコトヲ決議スルモ

○各株主ハ之ヲ承諾スルニ非サレハ其引受ヲ爲スノ義務ナシ

○株式會社ニ於ケル株主總會ノ決議ハ會社タル法人ノ意思ニシテ法人自
體ノ利害ニ關スル重要ノ事項ヲ定ムルモノタルニ外ナラス而シテ株主

ハ其所有株式ノ金額ヲ限度トシテ總會ヲ組成スル株主ノ法定多數ノ意
思ニ服從スヘキコトヲ豫諾シタルニ過キス

○株主總會ノ決議ニ付キ株主カ服從ノ義務ナキ以上ハ會社カ決議事項ヲ
登記スルモ株主ニ對シテ其效ヲ有セス

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

○株式會社ハ總會ノ決議ニ依リ定款ヲ變更シ株券金額ヲ増シ新株券ヲ發
行スルヲ得ルモ其決議ハ株式會社タル法人ノ意思ニ過キサルハ株金額

主張シ得ルモノトス
○現行商法施行前ニ成立シタル匿名組合ニ於テモ其營業名義人ハ營業上ノ行爲ニ付キ全責任ヲ負フモノトス

第七章 商事契約

(參照)

商業取引上ノ殘額ハ合意ニ因テ不可分ト爲ササル以上ハ其性質可分ナリ

第七節 時効

第三百四十九條

○明治二十六年舊商法ノ一部施行後請負工事ヲ營業トスル商人カ鐵道築堤工事ノ請負ニ付キ他人ト當座組合契約ヲ締結シタルトキハ其契約ハ商事ニ屬スルヲ以テ該組合關係ニ基ク債權ハ商行爲ニ因リテ生シタルモノニ外ナラス故ニ明治三十一年舊商法施行後ハ其第三百四十九條ニ依リ同法施行ノ日ヨリ時効ノ適用ヲ受ケ尙ホ商法施行法第三百三十七條及ヒ現行商法第二百八十五條ニ從ヒテ時効ニ罹ルモノトス

第十一節 指圖證券及ヒ無記名證券

○舊商法ノ規定ニ依レハ記名式ヲ以テ發行シタル寄託物ノ受取證書ハ裏

書讓渡ヲ爲スコトヲ得ルモ之カ爲メニ該證書ヲ目シテ指圖證券トスルヲ得ス從テ其證券ニハ同第三百九十九條乃至第四百一條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

第八章 代辨人、仲立人、仲買人、運送人

取扱人及ヒ運送人

第五節 仲買人

第四百五十六條

○物産ノ委託販賣ヲ目的トスル會社ハ營業トシテ貸金ヲ爲スヲ得スト雖モ其營業外ニ金錢ノ貸借ヲ爲スモ妨ナシ

第六節 運送取扱人

(參照)

運送取扱人ニ對シ荷爲替附ノ荷物引渡ヲ求ムル者ハ爲替金ノ支拂ヲ爲サスシテ荷物ノミノ引取ヲ許ササルハ條理及ヒ商慣習ノ認ムル所ナリトス

第四百八十四條

○舊商法第四百八十四條ニ規定セル運送狀ニ付テハ新商法第三百四十四條ノ如キ明文ナシト雖モ運送狀ハ流通證券ニシテ運送品ヲ代表スルモ

商法 商ノ通則 代辨人、仲立人、仲買人、運送取扱人及ヒ運送人 一〇二七
仲買人 運送取扱人

四二	二三元
五	一〇二
三九	三元
四一	二九三
三	三元
二六	五
二八	一〇六

(第四百五十六條)

(第四百八十四條)

商法 商ノ通則 代辦人、仲立人、仲買人、運送取扱人及ヒ運送人

ノナル以上ハ之ヲ引換ニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ請求シ得サルモノト
解釋セサルヘカラス

第四百八十九條

○荷爲替ナルモノハ荷主カ運送物品ヲ擔保トシテ借入レタル金員ヲ其物
品引換ニ債權者又ハ債權者ノ指名シタル者ニ支拂フヘキ旨ヲ荷受人ニ
對シテ指圖ヲ爲シ若シ其辨濟ヲ爲ササル場合ニ於テハ擔保物ヲ賣却シ
其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充當スル權利ヲ債權者ニ與ヘタル行爲ナリトス
○荷爲替ニ因リテ生スル法律關係ハ其債權者ト荷主タル債務者トノ間ニ
於ケル物品擔保附ノ金錢貸借ナリトス
○荷爲替ノ債權者ハ荷受人カ辨濟ヲ爲ササルトキハ其擔保物タル運送物
品ノ處分ヲ爲サスシテ直ニ荷主タル債務者ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコ
トヲ得ルモノトス

第七節 運送人

○運送營業ニ關スル債務ト雖モ其債務證書ヲ作製シテ第三者ニ交付シ又

ハ金額ヲ借入ルルカ如キ行爲ハ單純ナル運送業務使用人ノ受任權内ニ
屬スヘキモノニ非ス

第四百九十三條

○通常荷爲替ナルモノハ其證文ノ明文ニ依リ債主タル者ノ隨意處分スルヲ得ヘキモノナレハ其
處分上ニ付キ債主ノ承諾ヲ經サルモ荷爲替代金ニ不足ヲ生スル時ハ債主ニ於テ之ヲ償却
スル義務アルモノトス
○荷爲替ナルモノノ性質ハ貸借ト留置權トノ法理ニ基キシモノニテ荷受主カ荷物ヲ拒絕シ爲替
金ヲ支拂ハサル場合ニ於テハ債主ハ荷物ヲ其儘荷主ニ組戻シテ單ニ爲替金ノ返還ヲ請求スル
コトヲ得必スシモ保證物賣却ノ後ヲ俟タズ

第四百九十三條

○甲者乙者ト運送契約ヲ爲シ乙者ニ於テ運送中其貨物ノ喪失シタルニ依リ甲者其價額ノ賠償ヲ
求ムルトキハ乙者ニ過失アルコトヲ證明スルノ責任ナシ而シテ乙者ハ運送ノ責任ヲ負擔シタ
ルモノナレハ貨物ノ喪失カ甲者ノ過失貨物ノ性質又ハ不可抗力ニ基因シタルニ非サル以上ハ
縱令喪失カ第三者ノ所爲ニ係リ乙者ノ自己ノ過失ナキモ甲者ニ對シ賠償ノ責ヲ免ルルコト能
ハス

第五百五條

○運送中貨物ノ喪失ニ付テハ運送營業者ニ於テ自己ノ過失ニ原因セサルコトヲ立證スルニ非サ
レハ貨物引渡ノ義務ヲ免レス

第五百五條

商法 商ノ通則 代辦人、仲立人、仲買人、運送取扱人及ヒ運送人

三	三	二五	二五	二九
五	一	三	一	二
一三六	八	一六	八	一三四

三七

二六

二六

三〇

三三

三三

三三

三三

八六八

持人ノ何人タルヲ問ハス其命令ニ從ヒ支拂ヲ爲スヘシトノ契約ニ外ナラス

○差圖證券ノ債務者ハ其證券ニ記載シタル事項又ハ其證券ヨリ當然生スル抗辯ニ由ルニ非サレハ其債權者ニ對抗スルヲ得ス

○有效ノ手形ハ融通證券ナルヲ以テ當然合法ノ原因ヲ含有スルモノト推定セラレ之ニ署名捺印シタル者ヲシテ其手形上ノ文言ニ從ヒ責任ヲ負ハシムルノ效力アリト雖モ失効ノ手形ニ至リテハ唯其所持人ヲシテ支拂人振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シ此等ノ者カ支拂ハサリシ爲替資金若クハ取戻シタル爲替資金ニ因リ己ヲ利シタル限度ヲ特ニ證明シタル上其限度内ニ於テノミ償還請求ヲ爲スヲ得セシムルコトハ舊商法ノ規定スル所ナリトス

第七百二條

第七百二條

○約束手形成立ノ後別ニ契約ヲ以テ滿期日ヲ定メタルトキハ手形面ノ滿期日ハ外觀ノ爲メニノミ記入シタルモノト爲リ其約束手形ハ商法第七百二條ノ規定ニ依リ其情ヲ知リタル者ニ對シテ手形ト看做スヘキモノニ非ス

第七百五條

第七百五條

○手形ハ要式證券ナルヲ以テ無期限ノ延期手形ト云フ如キ不完全ノモノニハ手形ノ名稱ヲ付與スルコトヲ得ス手形トシテハ手形面ニ記入アル支拂期日ノ延期ヲ許スコトヲ得ス當事者間ノ合意ヲ以テ約束手形面ノ支拂期日ヲ延期セシコトノ事實ヲ認メタル上ハ普通法ニ依テ其合意ヨリ生スル所ノ責任如何ヲ判定セサルヘカラス

○凡ソ手形ハ例外ノ場合ヲ除クノ外ハ縱令契約者間ノ目的如何又ハ權義ノ起因如何ニ拘ハラズ專ラ手形面ニ記載セラレタル文詞ニ依リテ直接ニ其效力ヲ生セシムヘキモノトス從テ償還請求ノ通知モ亦手形上ニ記載セラレタル裏書讓受人タル所持人ニ於テ舊商法第七百八十三條ノ規定ニ基キ之ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ有セサルモノトス

第七百七條

第七百七條

○約束手形ノ但書ニ「本件金額ハ某銀行拙者當座勘定ヨリ支拂可申候也」ト記載セル文言ハ手形所持人ニ一ノ便利ヲ與ヘタルニ過キサレハ商法ニ所謂重要ナラサル附記ト看做スヘキモノトス

第七百十條

第七百十條、第七百十一條

○凡ソ手形ノ占有者ハ其取得ノ方法正當ニシテ且甚シキ怠慢ニ出テサルトキハ商法第七百十一條ニ列舉シタル原由アルモノノ外同法第七百十

二七 一七五

三三 一六二

三三 一六二

三五 一六

三三 一六

三三 一六

三八 一

三三 二〇一

三三 二〇一

三三 二〇一

三三 二〇一

三三 二〇一

三三 二〇一

第七百十四條

條後段ノ場合ニ非サルヨリハ其取得ノ權利ヲ害セラルルコトナシ

第七百十五條

○時効ニ因リ約束手形上ノ請求權ヲ失ヒタル者ハ其爲替權利ヲ失ヒタルニ拘ハラズ振出人カ爲替資金ニ因リ不當ニ己ヲ利シタル限度ニ於テ不當利得ノ取戻ヲ請求シ得ヘキモ振出人ハ常ニ其手形面ノ金圓ヲ利得シタルモノト推定スヘキニ非ス

第七百十六條

○舊商法第七百十六條ハ振出人ノ署名捺印ヲ以テ爲替手形ノ要件ト爲スカ故ニ苟モ振出人ノ氏名ノ記載アリ且其捺印ニシテ真正ナル以上ハ氏名ノ記載ハ振出人自ラ之ヲ爲ササル場合ト雖モ尙ホ其要件ヲ具備スルモノト謂フヘシ

第七百十七條

○舊商法第七百十六條ニ振出ノ場所トアルハ新商法ノ振出地ト同シク市町村ノ如キ行政區畫中獨立シタル最小地域ノ謂ナリ

第七百十八條

○舊商法第七百十六條ニ振出ノ場所トアルハ新商法ノ振出地ト同シク市町村ノ如キ行政區畫中獨立シタル最小地域ノ謂ナリ

第七百十九條

○舊商法第七百十六條ニ振出ノ場所トアルハ新商法ノ振出地ト同シク市町村ノ如キ行政區畫中獨立シタル最小地域ノ謂ナリ

第七百二十條

ト同一ナル明文ナシト雖モ讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡シタル手形ノ所持人ハ自己ヲ被裏書人ト爲スコトヲ得ルノミナラス同種ノ裏書數次アル場合ニ於テハ後ノ裏書人ハ前ノ裏書ニ因リテ手形ヲ讓受ケタルモノト看做スヘキハ當然ナリ

第七百二十三條

○手形ニ裏書讓渡人ノ住所記載ナキトキハ其裏書讓渡人ト裏書讓受人トノ間ニ讓渡ノ効ナキニ止マリ其瑕疵ハ手形ノ效力ニ影響ヲ及ボズモノニ非ス

第七百二十四條

○舊商法ニ依レハ手形ノ裏書ニハ二種アリテ其第一種ハ年月日場所裏書讓渡人ノ署名捺印及ヒ裏書讓受人ノ氏名アルコトヲ要シ第二種ハ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ爲スヘキモノナルカ故ニ單ニ裏書讓渡人ノ署名捺印ノ外ニ裏書讓受人ノ氏名ヲ記載シタル手形ハ第一種ノ裏書トシテ無効ナルノミナラス第二種ノ裏書トシテモ其効ヲ有セス

第七百二十五條

○舊商法第七百二十四條ハ裏書ノ目附ハ裏書讓渡合意ノ日ヨリ前ノ日附ト爲スコトヲ得サル旨ヲ規定シタルモノニシテ必ズシモ手形交付ノ日ヨリ前ノ日附ト爲スコトヲ得スト爲シタルモノニ非ス

第七百二十六條

○舊商法第七百二十四條ハ裏書ノ目附ハ裏書讓渡合意ノ日ヨリ前ノ日附ト爲スコトヲ得サル旨ヲ規定シタルモノニシテ必ズシモ手形交付ノ日ヨリ前ノ日附ト爲スコトヲ得スト爲シタルモノニ非ス

二元 四 九四

三元 五 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

三元 六 二二

第七百二十五條

第七百二十五條

○舊商法第七百二十五條ニ依レハ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミニテ裏書讓渡ヲ爲シタル手形ハ爾後交付ノミヲ以テ轉付スルコトヲ得ヘキモノタリ故ニ此手形ニ付キ再三裏書人ノ署名捺印ノミヲ以テ爲シタル裏書讓渡ヲ有效ト認メタル判決ハ相當ナリ

○舊商法第七百二十五條ノ法意ハ一度讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタル手形ハ特ニ通例ノ裏書若クハ讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テスル裏書ノ方法ニ依ラスシテ交付ノミヲ以テ讓渡スルコトヲ得ヘシトノ旨趣ニシテ讓渡ノ方法ヲ交付ノ一事ニ限定シタルモノニ非ス

第七百二十八條

第七百二十八條

○舊商法ニ於テ手形ノ裏書讓受人ハ支拂期日後ニ其裏書讓渡ヲ爲シタル各人ニ對シ償還請求權ヲ有ス

○舊商法第七百二十八條後段ニ所謂獨立シタル償還請求權ヲ取得ストハ滿期後ニ手形ノ裏書讓渡ヲ受ケタル者ハ滿期後ノ裏書讓渡人ニ對スル關係ニ於テハ其前者ノ權利如何ヲ問ハス法律ノ規定上獨立ノ權利ヲ享有セシムル旨趣ナリトス

第五款 保證

第七百五十一條

第七百五十一條

○手形保證人ヲシテ其債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔セシムルノ規定(商法第七百五十一條)ハ單ニ債權者ニ對シ連帶責任ヲ負ハシメタルニ止マリ主タル債務者ト保證人トノ權利關係ハ毫モ變更ヲ受クヘキモノニ非ス是故ニ保證人名義ヲ純然タル連帶債務者ノ如ク變更シタル所爲ハ手形變換行使罪ヲ構成ス

第六款 支拂

○舊商法ニ依リタル手形ノ滿期日後ニ裏書讓渡ヲ得タル所持人カ其支拂ノ請求ヲ爲サザリシ場合ニ於テハ訴狀送達ノ日ヲ以テ滿期日ト爲スヘキモノナレハ手形債務者ハ其日ヨリノ利息ヲ支拂フヘキモノトス

第八款 償還請求

○手形裏書人ニ對スル償還ノ要求ハ支拂ノ請求ト其場合異ナルヲ以テ拒證書ノ作製ヲ要スル規定モナク隨テ嚴格ナル手續ニ依ラサルモ現ニ本人又ハ本人ノ住所ニ就キ要求ヲ爲シタルコトヲ認ムヘキ確證アレハ其效アルモノトス

第七百七十六條

第七百七十六條

○手形所持人カ裏書讓渡人ニ對シテ償還請求ヲ爲サント欲セハ必ス滿期

商法 商ノ通則 手形及ヒ小切手 爲替手形 支拂 償還請求

三	一〇	二九
三	一六	六五
三	一五	六
四	三	三九七

三〇	八	四
四	四五五	
二六	二	一一三

日ニ支拂ノ爲メ之ヲ支拂人ニ呈示スルヲ要ス若シ其呈示ヲ爲ササルトキハ原因ノ如何ヲ問ハス償還請求ノ權ヲ喪失スルコトハ舊商法ノ法意ナリ

第七百八十一條

手形ノ償還請求ニ付キ爲ス所ノ通知ハ民事訴訟法ニ依リ任命セラレタル特別代理人ニ爲スモ有效ナリトス

裏書讓渡人ニ對シ爲スヘキ償還請求ノ通知ハ權利發生ノ條件ニ過キスシテ請求ノ原因ニ非ス故ニ二箇ノ訴訟カ其償還請求ノ通知ヲ爲シタル日時ニ差異アルモ前訴後訴共ニ其請求ノ原因カ振出入ニ於テ支拂ヲ拒絶シタルニ因リ償還請求ヲ爲スニ在ルトキハ後訴ハ一事不再理ノ原則ニ反スル不當ノ訴訟ナリ

手形所持人カ裏書讓渡人ニ對シ償還請求ヲ爲スニハ支拂拒證書ヲ作りタル日ノ翌日書面ヲ以テ其請求及ヒ拒證書作成ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス又拒證書作成ノ義務免除ノ場合ニ於テハ拒證書ヲ作ルヘキ日ノ翌日書面ヲ以テ償還請求ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

手形ノ償還請求ノ通知ハ拒證書作成通知後何時ニテモ爲スコトヲ得

手形上ノ償還請求ハ所持人ニ在テハ拒證書ヲ作りタル日ノ翌日裏書讓渡人ニ在テハ通知書ヲ受取リタル日ノ翌日其請求及ヒ支拂拒證書作成ノ通知ヲ爲スニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

舊商法第七百八十一條ニ於ケル償還請求通知ノ日カ一般ノ休日ニ當ルモ必ス其日ニ於テ之カ通知ヲ爲ササルヘカラス

第七百八十三條

凡ソ手形ハ例外ノ場合ヲ除クノ外ハ縱令契約者間ノ目的如何又ハ權義ノ起因如何ニ拘ハラズ專ラ手形面ニ記載セラレタル文詞ニ依リテ直接ニ其效力ヲ生セシムヘキモノトス從テ償還請求ノ通知モ亦手形上ニ記載セラレタル裏書讓受人タル所持人ニ於テ舊商法第七百八十三條ノ規定ニ基キ之ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ有セサルモノトス

舊商法ニ於ケル拒證書作成義務ノ免除ハ其作成ニ直接ノ關係ヲ有スル義務ノミヲ免除スルニ過キスシテ之ニ關係ヲ有セサル他ノ手續上ノ義務ヲモ免除スルモノニ非ス

三三	三六	三五	三七
二九	五	四五	七五
五	四	四	七
七	三	四	七
五	四	七	七

三三	三六	三五	三七
二九	五	四五	七五
五	四	四	七
七	三	四	七
五	四	七	七

(參照)

船荷證書ハ裏書ニ依リ自由ニ轉轉シ得ヘキ流通ノ性質ヲ有スルモノナレハ證書所持人ハ何時ニテモ其貨物ノ引渡ヲ求ムル權利ヲ有ス
船主カ船荷證書ト引換ニ渡スヘキコトヲ約シタル貨物ヲ其約ニ背キ他ニ交付シタルトキハ荷主ハ船荷證書ノ所持人ニ對シ未タ貨物ノ引渡ヲ爲ササル地位ニ在ルヲ以テ之カ責任ヲ免ルルヲ得ス從テ其貨物ノ換價格ハ荷主ノ損害ト爲リタルモノト看做スヘキモノトス

第四節 旅客運送

(參照)

汽船ノ乗客カ汽船仲次營業者ノ報知ニ依リ發航日時ヲ信用スルハ普通ノコトナレハ之カ爲メ懈怠ノ責ヲ生ゼス

第六章 海損

(參照)

原裁判カ海損ノ價例ヲ認メテ船主ノ責任無限ナラサルコトヲ判定シタルハ本院カ曩キニ與ヘタル判決「責任ノ有限ナルコトハ條理上當然ナルモノニ非ス」ヲ蹂躪シタリト云フヲ得ス

第八章 保險

第二節 保險者及ヒ被保險者ノ權利義務

○船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ其保險金ハ乗客若クハ荷主ニ對スル

(第九百五十九條)

損害ノ賠償ニ充テシムヘキモノトス

『第九百五十九條』

○海上保險者ハ特約ヲ取結フニ非サレハ航海ニ關スル不測ノ事故ニ因リテ生スル一切ノ損害ヲ填補スルノ責任ヲ負擔スヘキモノトス
○被保險物ノ性質瑕疵若クハ荷造ノ不完全ヨリ生シタル損害ノ如キハ航海ニ關スル不測ノ事故ヨリ生シタル損害ニ非サルヲ以テ海上保險者ノ負擔ニ屬スヘキモノニ非ス

第三編 破産

第一章 破産宣告

○民事訴訟法第四百五十五條ノ規定ハ商法破産ニ關スル訴訟手續ニ準用スヘカラス
○破産事件ニ付テハ商法及ヒ商法施行條例ニ特ニ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキ旨ノ明文アルモノノ外同法ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス
○破産ノ宣告ハ其宣告後ニ在リテ最初破産ノ申立ヲ爲シタル債權者カ其申立ノ取下ヲ爲シタリトモ他ノ債權者ニ對シテ影響ヲ生スルモノニ非ス

商法 破産 破産宣告

一〇四九

三二	三	三	三	三	三
六	二	二	二	二	二
一〇四	二五	二五	二五	二五	二五
二	二	二	二	二	二
一〇六	一六	一六	一六	一六	一六

三〇	三	三	三	三	三
二	二	二	二	二	二
一六	一六	一六	一六	一六	一六
三	三	三	三	三	三
一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三

- 破産裁判所ニ於テ破産事件ノ口頭辯論中ニ言渡シタル證據決定ニ對シテハ抗告スルヲ得ス
- 破産事件ノ抗告裁判所ハ當事者カ特ニ證據トシテ提出シ又ハ援用スルト否トニ關セズ破産事件ニ正當ニ添附シアル記錄ヲ參照シテ裁判ヲ爲スコトヲ得ルモノトス
- 破産ハ各債權ノ額ニ應ジ債務者ノ總財產ヲ以テ其總債權者ニ平等分配ヲ得セシムル爲メノ裁判上ノ手續ニシテ其性質一ノ強制執行方法ニ過キサルモノトス
- 破産ノ目的ハ債務者ヲシテ正實ナル辨濟ヲ爲サシメ且債權者ヲシテ平等分配ヲ得セシムルニ在リテ債務者ノ能力ヲ制限スルニ在ラス
- 破産宣告ハ宣告裁判所所屬國ノ裁判力執行力ヲ有スル地域内ニ限り效力ヲ有スヘキモノニシテ而シテ裁判ハ特別ノ法令若クハ國際條約アルニ非サル以上ハ領域内ニ限り執行力ヲ有スルモノナルヲ以テ甲國ニ於テ宣告シタル破産ハ乙國ニ於テ其效力ヲ有スルモノニ非ス
- 破産裁判所カ書證ニ付キ當事者ノ認否ヲ聽カスシテ之ヲ證據ニ供スルハ違法ニ非ス
- 破産ノ手續ニハ清算ノ目的モ亦包含スルヲ以テ株式會社カ破産シタル

三四	二	九〇
三五	一	三三
三六	六	八五
三七	六	八五
三八	六	八五
三九	六	八五
四〇	六	八五

場合ニ於テハ商法第二百三十四條ニ依リ同第九十二條ノ規定ヲ準用シ得ルモノトス

（同法）

會社ノ破産手續ハ他ノ場合ニ於ケル清算ト多少ノ差異アルモ其實質ハ清算ニ外ナラス從テ株金拂込ニ關スル手續ノ如キ破産法ノ規定セサル事項ニ付テハ商法第二百三十四條ニ依リ同第九十二條ヲ適用スヘキモノトス

○破産宣告アリタル後ニ至リ破産ノ申立ヲ取下クルモ其既ニ爲シタル破産宣告ハ當然消滅スヘキモノニ非ス

（同法）

破産宣告ノアリタル後ニ至リ破産宣告申立ノ取下ヲ爲シタリトテ其既ニ爲シタル破産宣告ヲ取消スヘキモノニ非ス

○破産手續ニハ民事訴訟法ヲ適用スヘク非訟事件手續法ヲ適用スヘキモノニ非ス故ニ抗告裁判所ニ於テ在廷證人ノ取調ヲ爲スモ之ヲ以テ不法ト謂フコトヲ得ス

（同法）

破産手續ハ強制執行ノ範圍ニ屬スルヲ以テ其性質ヨリ之ヲ言フモ非訟事件手續法ノ規定ヲ適用スル若クハ之ヲ準用スルコトヲ得サルモノトス

（第九百七十八條）

○支拂停止ハ破産決定ニ依リ確定シタル事實ナリ

三九	二	一〇一〇
四〇	二	一〇一〇
四一	二	一〇一〇
四二	二	一〇一〇
四三	二	一〇一〇
四四	二	一〇一〇
四五	二	一〇一〇
四六	二	一〇一〇
四七	二	一〇一〇
四八	二	一〇一〇
四九	二	一〇一〇
五〇	二	一〇一〇

○手形ハ單ニ滿期日ニ支拂ヲ拒絕シタルノミヲ以テ支拂停止ト看做スヘキモノニ非ス

○破産決定ノ申請ニ對シ債務者ハ債權者ニ對シテ有スル債權ト相殺センコトヲ求メタルカ爲メ支拂ヲ爲ササリシモノニシテ支拂ヲ停止シタルモノニ非ストノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得

○支拂停止トハ支拂ヲ停ムルノ意義ニシテ單ニ期日ニ支拂ヲ爲ササリシ事實ノミニテハ未タ以テ支拂ヲ停止シタリト爲スヲ得ス

○商法第九百七十八條ノ債權者ニハ總テノ債權者ヲ包含ス從テ債務者ニシテ支拂ヲ停止シタル事實アルニ於テハ之カ債權者タル以上ハ支拂ヲ求メタル者ナルト否トヲ問ハス破産ノ宣告ヲ申請スルコトヲ得

○破産裁判所ハ單ニ債務者カ支拂ヲ停止シタルヤ否ヲ判斷シ得ルニ止マリ債權ノ有無及ヒ其成立原因等ヲ審判スルノ職權ヲ有セス

(同旨)

破産宣告ニ關スル事件ハ其性質非訟事件ナルカ故ニ破産裁判所ハ債務者カ支拂ヲ停止シタルヤ否ヲ審理スルニ止マリ其申請ノ基本タル債權ノ存否ヲ判斷スヘキモノニ非ス

○支拂停止ノ有無ニ付キ裁判ヲ爲ス手續ニ於テ生シタル債權存否ノ爭ニ關スル破産裁判所ノ判斷ハ破産宣告ノ申立ノ目的ニ對スルモノニ非サ

ルヲ以テ確定スヘキモノニ非ス

○支拂停止ナルモノハ債務者ノ無資力ナルト否ト將タ故意ナルト否トヲ問ハス正當ノ理由ナクシテ辨濟期ニ辨濟ヲ爲ササル事實ヲ指スモノトス

○商法第九百七十八條ノ規定ハ支拂停止ト爲リタル債權ハ商行爲ニ基因スルコトヲ要スルノミナラス其債務者ハ支拂停止ノ時ニ於テ商人タル事實アルニ非サレハ之ヲ適用スルヲ得ス

(反對)

商人ニシテ支拂ヲ停止シタルトキハ破産ノ宣告ヲ受クヘキモノトス而シテ其商行爲ナルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス

○破産ノ宣告ハ債務者カ支拂ヲ停止ヲ爲シ其停止ノ狀況存續スル場合ニ限リ之ヲ爲スヘキモノトス故ニ支拂ヲ停止シタル債務カ更改ニ因リ新債務ニ變更セラレタルカ若クハ其債務ノ辨濟ニ付キ債務者ニ於テ更ニ期限ノ利益ヲ取得シタルカ如キ場合ニ在テハ破産ノ宣告ヲ爲スヘキモノニ非ス

○破産宣告申立事件ニ於テ債務ノ存在ニ付キ爭ヲ生シタルトキハ破産裁判所ハ債務者ノ抗辯ノ當否ヲ審査シ之ヲ取捨スルノ權限ヲ有ス

三五 五 六八四

三六 六 六四二

三六 九六〇

三九 五二

三七 三五

三七 二八七

三三 二 一三〇

三三 二 一三〇

三三 二 四

三四 二 三〇

三四 七 六二

三四 四 三六

(同前)

破産宣告ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スルニキ裁判所ハ法律ノ規定ニ其裁判ヲ爲スニ必要ナル債權ヲ
存否ニ關スル申立ノ當否ヲモ調査シ其判斷ヲ爲ス權限ヲ有スルモノトス

○債務者カ辨濟ノ請求ヲ受クルニ當リ其債權ノ存否若クハ多寡ヲ爭フ等
法律上ノ理由ニ依リ支拂ヲ拒絶スルモ之ヲ以テ直ニ支拂ヲ停止シタル
モノト云フヲ得サルモ何等正當ノ理由ナク唯資金缺乏ノ故ヲ以テ其辨
濟ヲ拒絶シタルカ如キ場合ニハ支拂停止ノ事實アリタルモノト看做サ
サルヘカラス

○破産ノ主タル目的ハ破産者ノ總債權者ヲシテ其財産ニ因リ公平ナル辨
濟ヲ得セシメントスルニ在リテ其性質タル一ノ強制執行ニ過キサレハ
破産ノ宣告ハ破産者ノ死亡ニ因リテ消滅スルコトナク又支拂停止ヲ爲
シタル商人ノ死亡ハ其承繼人ニ對シテ破産宣告ヲ爲スノ妨害商爲ルヘ
キモノニ非ス
○支拂ノ停止ハ債務者カ辨濟ヲ爲スヘキ場合ニ於テ債權者ノ請求アルニ
モ拘ハラズ辨濟ヲ爲ササルカ又ハ其請求ヲ避クル爲メ所在ヲ晦マシ其
他自ラ支拂停止ノ意思ヲ表白シタルカ如キ行爲アルトキニ存スルモノ
トス

(同前)

支拂ノ停止ハ債務者カ現ニ債務辨濟ノ請求ヲ受ケタルモノニ應セサルカ若クハ辨濟期後ニ至
リ債權者ノ請求ニ對シ其支拂ヲ避クル爲メ居所ヲ晦マシカ如キ行爲アルトキニ存スルモノト
ス從テ債務ノ辨濟期前債務者カ他ノ債權者ニ對スル債務完済ノ資力ヲ有セサルモノヲ以テ直
ニ支拂ヲ停止シタルモノト爲スヲ得ス

○合資會社ノ社員ハ當然商人ノ資格ヲ有スルモノニ非サレハ縱令支拂停
止ノ事實アルモ直ニ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス
○支拂停止トハ債務者カ債務ヲ履行スヘキ場合ニ於テ資力缺乏ノ爲メ其
履行ヲ爲ササルノ謂ナレハ縱令事實上資力缺乏ヲ告クルモ未タ履行ヲ
要セサル場合ニ履行ヲ爲ササレハトテ直ニ支拂停止ノ状態ニ在リト云
フヲ得ス

○石炭ノ採掘販賣ヲ目的トスル株式會社ニシテ支拂ヲ停止シタルトキハ
縱令商人ニ非サルモ商法施行法第三百三十八條明治二十三年法律第三十
二號商法第九百七十八條ニ依リ破産ヲ宣告セラレヘキモノトス
○破産ノ宣告ハ商人カ正當ノ理由ナク支拂ヲ停止シタルトキハ本人又ハ
債權者ノ申立ニ因リ之ヲ爲スヘキモノニシテ債務者ノ資力ノ有無ハ問
フヘキモノニ非ス

○納稅義務者タル商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ府廳府稅市ハ市稅ノ徵

三五	五	二八
三七	六	一四七
三六	七	二六八
三五	八	六四二
三六	九	五三六

三三	三	一三〇
三六	四	一四七
三六	五	九六八
三三	六	一四六
三三	七	一〇〇三
三三	八	八四三
三四	九	六六三
三四	一〇	六六

收權ニ基キ破産宣告ノ申立ヲ爲シ得ヘキヲ以テ區長ハ委任分掌ノ權限ニ基キ破産宣告ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

○破産宣告ノ申立人カ債權者トシテ申立權ヲ有スルコトハ之ヲ疏明スレハ足り之ヲ證明スルコトヲ要スルモノニ非ス

(同主旨)

破産申立人タル債權者ノ債權ハ之ヲ疏明スルヲ以テ足ルモノニシテ苟モ其疏明アルニ於テハ裁判所ハ進テ眞實債權ノ存スルヤ否ヲ確定シ以テ破産宣告ヲ爲スト否トヲ決スヘキモノニ非ス

○商人トシテ支拂ヲ停止シタル者カ死亡シタルトキハ其承繼人カ先代ノ營業ヲ繼續スルト否ト又相續ノ限定承認ヲ爲シタルト否トヲ問ハス之ニ對シテ破産宣告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

○商法第九百七十八條第二項末段ノ規定ハ破産ノ宣告ナルト申立ノ却下ナルトヲ問ハス汎ク破産宣告ノ申立ニ關スル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ許スノ法意ナリ

(同主旨)

商法第九百七十八條第二項ニ所謂此裁判中ニハ破産宣告ノ申立ヲ却下シタル裁判ナルト破産ヲ宣告シタル裁判ナルトヲ問ハス總テ之ヲ包含スルモノトス

(反對)

破産宣告ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ許スノ規定ナシ

○商法ニハ破産ノ決定ニ付テハ抗告ヲ爲スヲ得ヘキ規定アルモ其辯論中止ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ付テハ商法及ヒ商法施行條例中抗告ヲ許ス規定アルコトナシ

○商法第九百七十八條ハ破産宣告ニ關スル裁判ニ對シテハ口頭辯論ヲ經タルト否トニ拘ハラス即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シタルモノニシテ同條第二項ノ規定ハ單ニ口頭辯論ヲ經スシテ爲シタル裁判ニ限リ該抗告ヲ爲スコトヲ許シタルモノニ非ス

○破産裁判所ハ一旦口頭辯論ヲ開ク爲メニ其期日ヲ定ムルモ後日之カ必要ヲ認メサルニ至ルトキハ口頭辯論ヲ開カスシテ裁判ヲ爲スコトヲ妨ケス

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十八條第二項ノ口頭辯論ハ民事訴訟法ニ謂フ所ト同一意義ニシテ即チ公開スヘキ對審ノ辯論ヲ指稱スルモノトス

○破産宣告ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スノ權利ハ財產ニ關スル一種ノ權利ニシテ相續人ニ移轉スベキモノナレハ抗告申立人カ其申立後ニ死亡セシ事實アル以上ハ其相續人ヲシテ該事件ノ手續ヲ受繼セシムルカ又若シ

三九二

三四二

三六九

三六九

三七七

三六八

三三三

三三三

三五五

三三四

三三三

一三〇

○スコトヲ要ス故ニ會社破産事件ノ管轄裁判所ハ其主タル營業所所在地ノ裁判所ナリトス

○商法第九百七十九條ニハ單ニ營業所又ハ住所トアルノミニシテ破産事件ヲ支拂停止地ノ裁判所ニ專屬セシムル旨趣ノ見ルヘキモノナケレハ該事件ハ債務者ノ營業所又ハ住所所在地ノ裁判所ニ於テ之ヲ管轄スヘキモノトス

第九百八十條

第九百八十條

○破産裁判所カ一タヒ破産ノ申立ヲ受ケタル以上ハ其事實ヲ調査シ職權ヲ以テ支拂停止ノ日時其他商法第九百八十條ニ列記シタル事項ヲ決定スヘキモノニシテ此等ノ事項ヲ判定スルニ付キ毫モ當事者ノ申立ニ羈束セラルヘキモノニ非ス而シテ其破産決定ニ對シ抗告ノ申立アリタル場合ニ抗告裁判所モ亦同一ノ職權ヲ有スヘキハ當然ナリ

○支拂停止ノ日時ハ必スシモ破産宣告ノ當時之ヲ定ムルヲ要セス其宣告ノ後ニ至リ更ニ決定ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得而シテ此決定ハ必スシモ破産宣告ニ對スル抗告ノ裁判前ニ之ヲ爲ササルヘカラサルモノニ非ス

○破産決定又ハ後日ノ決定ヲ以テ定メタル支拂停止ノ日時ハ其決定確定

スルト同時ニ對世的ノ效力ヲ有スヘキモノトス

○破産宣告後ニ爲シタル封印命令ハ破産決定書ノ補充事項トシテ其内容

ノ一部ヲ成スヘキモノナレハ該命令ヲ破産決定書ニ掲ケタル場合ト同

○縦令設立無効ナル會社ト雖モ會社トシテ破産ヲ宣告セラレ破産管財人ノ選定アリタル以上破産決定ハ第三者ニ對シテモ其效力アルノ結果該管財人ハ破産決定ノ取消サレサル限り何人ニ對シテモ其資格ニ於テ會社ノ爲メニ行動スルノ權限ヲ有スルモノトス

第二章 破産ノ效力

○破産者ハ自己又ハ他人ノ訴訟ニ關シ裁判所ノ喚問ニ應シテ供述ヲ爲ス

○コトヲ得而シテ裁判所ハ破産管財人カ訴訟ヲ爲ス場合ト雖モ破産者ヲ訊問スルコトヲ妨ケス

第九百八十五條

○破産宣告ノ後破産者ノ爲シタル賣買契約ハ縦令宣告當時ノ破産財團ニ屬スルモノヲ以テ其目的ト爲ササルモ該財團ニ何等ノ影響ヲ及ボサスト謂フヲ得ス

三五三

九〇七

八〇八

三〇七

一〇八五

一五七

一七二

一四七

一六二

（十五）
第九百八十八條

○約束手形ノ振出人カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ其手形ニ關シ破産財團ニ影響ヲ及ホスヘキ法律行為ヲ爲シ得サルハ勿論ナレトモ其財團ニ何等ノ影響ヲ及ホササル法律行為ハ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ隨テ手形所持人カ償還請求權ヲ保存スルニ必要ナル手形ノ呈示ハ破産者タル振出人ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百八十五條第二項ノ規定ハ破産財團ニ利害關係ヲ及ホスヘキ權利行為ヲ無効ト爲シタルニ過キヌシテ總テノ權利行為ヲ絕對ニ無効トスルモノニ非ス

（同旨）

破産法第九百八十五條第二項ノ規定ハ破産財團ニ影響ヲ及ホスヘキ法律行為ヲ無効ト爲シタルモノニシテ身分權ニ關スル行為ノ如ク右財團ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモノヲモ無効ト爲スモノニ非ス

○破産者カ破産宣告後ニ取得セシ財産ヲ以テ爲シタル支拂其他ノ法律行為ハ商法第九百八十五條第三項ニ依リ無効タルヲ免レス

（聯）

○約束手形ノ振出人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル後ト雖モ其以前ヨリ存スル手形債權ハ裏書讓渡スル日トテ禁スルモノニ非サルヲ以テ宣告後ノ裏書讓渡ハ破産財團ニ對シテ當然其效ヲ有セサルモノニ非ス

（十六）
第九百八十八條

○破産者所有ノ不動産ノ上ニ抵當權ヲ有スル債權者カ破産者ヲ相手方ト爲シ競賣法ニ依ル競賣申立ヲ爲シ裁判所カ該申立ニ基キ競賣ヲ爲シタルトキハ破産管財人ハ其資格ニ於テ右競賣ハ之ヲ許ササルモノトシテ異議又ハ抗告ノ申立ヲ爲シ以テ權利ノ救済ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス

（第九百八十八條）

（聯）

○如上ノ場合ニ於テ縱令競賣申立人カ競賣得金ヨリ受ケタル辨済カ破産財團ニ對スル關係ニ於テ債務ノ辨済トシテ效力ヲ生セサルコトアリトスルモ之カ爲メニ競賣手續其モノヲ無効トシ競落許可決定ニ因ル競落人ノ所有權取得ヲ無効ナラシムルモノニ非ス

『第九百八十八條』

（反對）

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百八十八條第二項ハ現行商法第四百八十條及ヒ第五百二十九條ニ於テ全ク之ト異ナル規定ヲ爲シタルヲ以テ現行商法ノ施行ニ依リ自ラ廢止ニ歸シタルモノト解スルヲ相當トス

商法 破産 破産ノ效力

三七	四五	六	七	七	七
三〇九	五三〇	六八	五九三	五九三	二二三

三七	四五	六	七	七	七
三〇九	五三〇	六八	五九三	五九三	二二三

〔第九百八十九條〕

○抵當權質權其他ノ優先權ヲ以テ擔保セラレタル破産債權ハ其擔保物ノ賣拂代金ヲ以テ破産宣告ニ至ル迄ノ元利金ヲ辨濟シ尙ホ餘剩アルトキハ其餘剩金ニ滿ツル迄ヲ限度トシ破産宣告ノ後ト雖モ利息ヲ生スルモノトス而シテ民法第四百九十一條ノ債務充當ニ關スル規定ハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス

○商法第九百八十九條ノ規定ハ各普通債權者間ノ關係ニ於テ不平等ナル利息ノ配當ヲ受ケシメサル爲メ破産財團ニ對シ破産宣告ノ日ヨリ各普通債權ノ利息ヲ生セサラシムル旨趣ニ過キスシテ各債權者ト破産者トノ關係ニ於テモ亦破産者ヲシテ破産宣告以後ニ生スヘキ利息支拂ノ義務ヲ免レシムル法意ニ非ス

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百八十九條ノ規定ハ破産宣告後ノ利息ハ破産財團ニ對シ之ヲ請求スルコトヲ得サルノ旨趣ニ過キスシテ債務者ニ如上ノ利息ヲ支拂フ義務アルヤ否ヤノ問題ト何等ノ關係ナケレハ債務者ハ破産宣告後ノ利息ト雖モ之ヲ支拂フヘキ義務ヲ負フモノトス

〔第九百九十條〕

○舊商法第九百九十條ニ所謂從來負擔シタル債務トアル中ニハ民法第五百八十八條ノ如キ法律ノ擬制ヲ以テ消費貸借ト看做スヘキモノト雖モ事實從來負擔セル債務ナル以上ハ總テ之ニ包含スルモノトス

○舊商法第九百九十條ノ規定ハ破産ノ場合ニ於ケル特別ノ制裁ニシテ支拂停止後又ハ支拂停止前三十日以内ニ爲シタル行爲ハ受益者カ他ノ債權者ヲ害スル事實ヲ知ルト否トヲ論セス法律上總テ之ヲ知レルモノト看做シ當然無効タルヘキモノト爲シタルナリ

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百九十條ニ該當スル場合ニハ辨濟ノ當時債務カ未タ期限ニ至ラザリシ一事ヲ以テ當然其辨濟ヲ無効ト爲スニ足ルモノトス而シテ其辨濟期カ支拂停止以前ニ在ルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ

○商法第九百九十條ニハ期限ニ至ラサル債務ノ支拂トアルカ故ニ期限ニ至リタル債務ノ支拂ハ其期限ノ豫定セラレタルモノナルト將タ特約ニ基キ或事由ノ發生ニ因リテ臨時到來スヘキモノナルトヲ論セス同條ノ適用ヲ受クルコトナシ

商法 破産ノ效力

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三四 三 八二

三四 三 八二

三八 三 二五三

三九 三 三〇七

ヲ以テ金錢債務ヲ消滅セシムル場合ヲモ包含スルモノトス

○明治二十三年法律第三十二號舊商法破産編第九百九十條ニ所謂期限ニ至ラサル債務ノ支拂トハ破産債權者ノ損害ニ於テ破産財團ノ減少ヲ來スヘキ場合ノミヲ指稱シ破産債權者ノ公平分配ヲ受クヘキ權利ヲ害セサル支拂行為ヲ包含セサルモノトス

○舊商法第九百九十條ニ所謂新ニ供スル擔保トハ從來擔保ナクシテ負擔セシ債務ニ對シ新ニ擔保ヲ供出スルコトヲ謂フモノナレハ債務ノ負擔カ擔保ノ供出ト同時ナル場合ハ勿論債務負擔ニ際シ豫メ擔保ヲ供出スヘキコトヲ約シ其履行トシテ後日現實ノ供與ヲ債權者カ受ケタル場合ハ破産宣告前支拂停止後又ハ支拂停止前三十日內ニ係ルトキト雖モ同條ニ依リ財團ニ對シ當然無効ト爲ルモノニ非ス

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百九十條ニ規定スル行為ハ當事者ノ行為ヲ竣タス財團ニ對シ法律上當然無効ニシテ又同法第九百九十一條ニ掲クル行為ハ當事者ノ異議ヲ述フルコトニ因リ始メテ無効ト爲ルモノナリト雖モ孰レモ財團ニ對シテ初ヨリ無効ト爲ルコトハ同一ナリトス

○如上ノ行為ハ財團ニ對シテ初ヨリ無効ト爲ルモノナレハ其行為ヨリ生

第九百九十一條

シタル效力ハ法律ノ規定ニ依リ當然原狀ニ回復スルモノニシテ先ツ當事者ニ於テ原狀回復ノ義務ヲ負擔シ其義務ノ履行ニ因リ始メテ原狀回復ノ狀態ヲ來スモノニ非ス而シテ右行為ノ效力カ當然原狀ニ回復シタル結果或ハ物權ノ效力トシテ或ハ不當利得不法行為其他ノ原因ニ基キ金品ノ返還請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルモノトス

第九百九十一條

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百九十一條ハ破産ノ場合ニ於テ總債權者ヲシテ公平ノ配當ヲ得セシムル爲メ特ニ規定セラレタルモノニシテ同條ニ於ケル債務ト破産者ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ得セシムルトキハ法律ノ目的ハ全ク破却セラルルニ至ルヲ以テ此債務ハ之ヲ相殺ノ目的ト爲スコトヲ得サルモノト解釋セサルハカラズ其計破産財團ノ計算ノ爲メニ破産手續ヲ遂行スヘキ者ハ財團ノ管理者タル破産管財人ニ限ルモノトス從テ商法第九百九十一條ノ異議ハ獨リ破産管財人ノミ之ヲ主張スルコトヲ得

○舊商法第九百九十一條第一項ニ所謂總テノ支拂トハ債務者ノ任意ノ辨濟ノミナラス強制執行又ハ假差押等ノ方法ニ依リ債權ノ満足ヲ得ルコトヲ指稱スルモノトス

五	一八二
六	二〇一
六	二〇二
七	二〇三
七	二〇四
七	二〇五
七	二〇六
七	二〇七
七	二〇八
七	二〇九
七	二一〇
七	二一一
七	二一二
七	二一三
七	二一四
七	二一五
七	二一六
七	二一七
七	二一八
七	二一九
七	二二〇
七	二二一
七	二二二
七	二二三
七	二二四
七	二二五
七	二二六
七	二二七
七	二二八
七	二二九
七	二三〇
七	二三一
七	二三二
七	二三三
七	二三四
七	二三五
七	二三六
七	二三七
七	二三八
七	二三九
七	二四〇
七	二四一
七	二四二
七	二四三
七	二四四
七	二四五
七	二四六
七	二四七
七	二四八
七	二四九
七	二五〇
七	二五一
七	二五二
七	二五三
七	二五四
七	二五五

○債權ノ差押及ヒ轉付命令ニ基キ債權者カ第三債務者ヨリ轉付債權ノ辨濟ヲ受クルハ畢竟強制執行ニ因リ債務者ノ財産ヲ以テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル一方法ニ外ナラサレハ明治二十三年法律第三十二號商法第九百九十一條ニ所謂債務者ノ支拂ニ包含シ同條所定ノ異議ノ目的ト爲ルモノトス

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百九十一條ニ所謂異議ハ破産財團ヲ害スル行爲ヲ單ニ其財團ノ爲メニスル關係ニ於テ否認シ以テ其行爲以前ノ原狀ニ復セシムルコトヲ目的トスルニ止マリ絶對ニ之ヲ取消シテ全然無効ナラシムルモノニ非ス

○債權ノ差押及ヒ轉付命令ニ基キ債權者カ破産財團ノ損害ニ於テ第三債務者ヨリ轉付債權ノ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於テ商法第九百九十二條ノ異議權ニ依リ之ヲ否認スルトキハ單ニ破産財團ノ爲メニ右辨濟受領者ニ對スル關係ニ於テ之ヲ廢罷シ以テ其財團ヲ原狀ニ復セシムルニ止マリ其關係以外ニ於テハ既ニ生シタル債權轉付ノ效果及ヒ轉付債權ノ辨濟受領ノ當事者間ニ於ケル效力等ニハ消長ヲ來サシムルモノニ非ス

○明治二十三年法律第三十二號商法第九百九十條ニ規定スル行爲ハ當事者ノ行爲ヲ竣タズ財團ニ對シ法律上當然無効ニシテ又同法第九百九十

六 九三
六 九三
六 九三
六 九三
六 九三

第九百九十五條

一條ニ掲クル行爲ハ當事者ノ異議ヲ述ワルコトニ因リ始メテ無効ト爲ルモノナリト雖モ孰レモ財團ニ對シテ初ヨリ無効ト爲ルコトハ同一ナリトス

○破産財團ノ損失ニ於テ不當ニ利得シタル金錢ヲ返還スヘキ債務ヲ負フ者ハ自ラ破産財團ニ對シテ有スル普通債權ト相殺スルコトヲ得サルモノトス

第九百九十六條

○舊商法破産編第九百九十六條ノ否認權ヲ行使スルニハ何等特別ナル方式ヲ要セサルヲ以テ相手方ニ對スル意思表示ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第三章 別除權

第九百九十七條

○先取特權者カ目的物ノ對價ニ對シテ其權利ヲ行ハント欲スレハ其拂渡又ハ引渡前ニ於テ差押ヲ爲スヲ要スルコトハ債務者カ目的物ヲ賣渡シタル場合ト破産管財人カ適法ノ手續ニ依リテ換價ヲ爲シタル場合トニ

七 五二
四 一四七
六 三六六
六 三六六

因リテ消長スルノ理アルヘカラス
 ○破産財團ニ屬スル不動産ノ上ニ抵當權ヲ有スル優先權者ハ當然其目的タル不動産ヨリ破産手續ニ依ラス別除ノ辨濟ヲ求ムルコトヲ得ルモノナレハ其優先權ノ範圍内ニ於テハ他ノ普通債權者ハ抵當權者ノ權利ヲ認容セサルヘカラサルモノトス

○抵當權者カ破産法ニ依リ別除ノ辨濟請求ノ申出ヲ爲サス破産者ヲ相手方トシテ競賣法ニ因ル競賣申立ヲ爲シタリトスルモ是レ單ニ抵當權者タル債權者カ優先權ニ基ク權利ヲ行使スル手續トシテ違法アルニ止マリ實體上他ノ普通債權者ノ破産財團ニ付キ有スル權利ヲ害スル違法ノ結果ヲ來スモノニ非ス

第四章 保全處分

○明治二十三年法律第三十二號第一千二條第二項ニ掲ケタル破産シタル會社ノ無限責任社員カ隱居シタル場合ニ於テ其相續財産ニ對シ被相續人ノ債權者カ單獨ニ強制執行ヲ爲シタルトキハ其執行ノ不當ヲ理由トスル目的物ノ返還請求權ハ破産管財人ヨリ直接ニ執行債權者ニ對シテ之

ヲ行使スヘキモノトス
 ○破産管財人ハ其任務ノ一トシテ破産財團ニ對スル總債權者ニ共通ナル利益ニ付テ之ヲ代表スルコトアルニ過キスシテ各個債權者ノ特殊ナル利益ニ付テ代表スルモノニ非ス

第五章 財團ノ管理及ヒ換價

○破産シタル株式會社ノ破産管財人ハ會社ノ爲メ可動のタルト受動的タルトヲ間ハス總テノ法律行爲ヲ爲スヘキ權限アルヲ以テ苟モ管財人カ詐害行爲ノ事實ヲ知得セル以上ハ會社ノ爲メニ之ヲ知得シタリト認ムヘキハ當然ナリ
 ○別除權ヲ主張スルコトヲ得サル旨ノ消極的確認ノ訴ニ付テノ法律上ノ利益ハ破産債權者ノ爲メニ破産財團ヲ管理處分スル權限ヲ有スル破産管財人之ヲ有スルモノトス

○如上消極的確認ノ訴訟ニ於ケル法律上ノ利益ハ破産管財人ニ對シ主張スルコトヲ得サル別除權ヲ主張スルノ虞アル一事ニ因リテ存在スルモノトス
 ○『第一千九條』

三五

五九三

七

五九三

六

五九三

七

五九三

四

五九三

四

二八九

三

三〇九

五

三〇九

三

一〇三

四〇

八二六

五

一四二

五

一四二

○破産者ノ意見ヲ聽クコトハ破産管財人ノ訴訟提起ノ要件ニ非サルヲ以テ管財人カ破産者ノ意見ヲ聽カスシテ提起シタル訴訟ハ不適法ニ非ス

○破産管財人ニシテ既ニ一タヒ訴訟ヲ爲スニ付キ主任官ノ認可ヲ受ケタル以上ハ第一審ニ於テ訴訟ヲ爲シ得ルハ勿論控訴及ヒ上告審ニ於テモ亦訴訟ヲ爲シ得ルモノトス

(同義)

○商法第十九條第二項ニ「管財人ハ左ニ掲ケル行爲ニ付テハ破産主任官ノ認可ヲ受ケヘシ第一訴訟ヲ爲スコトト記載アルノミニ付キ管財人カ最初訴訟提起スルニ當リ破産主任官ノ認可ヲ受ケルヲ以テ足り上訴ヲ爲シ又ハ其相手人ト爲ル場合ニハ再ヒ其認可ヲ求ムルノ必要ナキモノトス

○破産管財人ハ公ノ機關トシテ破産財團ニ屬スル破産者ノ貸方ヲ取立テ破産者ノ權利ヲ主張シ且之ヲ保全スヘキ權能及ヒ責任ヲ有ス從テ管財人自ラ當事者トシテ訴訟ヲ爲スヘキハ當然ナリ

○商法第十九條第二項第八號ニ所謂權利トハ財産ニ關スル權利ヲ指稱シ訴訟行爲ニ關スル責問權ノ如キハ之ニ包含セス

(第一千二百二條)

○破産主任官ハ破産ノ原由事情其他ノ事項ニ付キ破産者ハ勿論其他ノ人ヲ何時ニテモ訊問スルノ權ヲ有スルコトハ商法第一千二十二條ニ規定ス

ル所ナリ既ニ其權ヲ有スル以上ハ其權内ニ於テ其調書ヲ作ルヲ得ルハ論ヲ竣タス

○破産主任官ハ支拂停止ノ日時ニ付キ破産者ノ債權者ヲ訊問スルコトヲ得

第六章 債權者

第一節 債權ノ届出及ヒ確定

○一覽拂ノ約束手形ハ原則トシテ所持人カ支拂要求ノ呈示ヲ爲シタル日ヲ以テ滿期日ト爲スヘシト雖モ破産手續ニ於テ其手形ニ基キ債權ノ届出ヲ爲シタルトキハ届出ノ日ヲ以テ滿期日ト爲スヘキモノトス

第一千二十六條

○破産者ニ對スル債權確定ノ請求ハ訴ノ形式ヲ以テスヘキ旨ノ規定ナケレハ申請ニ依リ之ヲ求ムルモ違法ニ非ス

(第一千二十七條)

○債權調査會ニ於テ破産管財人ヨリ申立テタル異議ニ關シ破産裁判所カ其當否ヲ裁判スル如キハ商事非訟事件ニ屬ス

(第一千二十八條)

第二節 特種ノ債權者

商法 破産 債權者 債權ノ届出及ヒ確定 特種ノ債權者

三六	三六	三九	三九	三九	三九
二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二
一四二	一四二	一四二	一四二	一四二	一四二
一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三
八六	八六	八六	八六	八六	八六
二六	二六	二六	二六	二六	二六
三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七	三〇七
四六七	四六七	四六七	四六七	四六七	四六七
二六	二六	二六	二六	二六	二六

二六	二六	二六	二六	二六	二六
四二	四二	四二	四二	四二	四二
七四	七四	七四	七四	七四	七四
三五	三五	三五	三五	三五	三五
二六三	二六三	二六三	二六三	二六三	二六三
一六三	一六三	一六三	一六三	一六三	一六三
五三	五三	五三	五三	五三	五三

民事訴訟法

○民事訴訟法第九條第二項ノ場合ニ於テ區裁判所ノ移送ノ判決確定シタルトキ其訴訟ハ當然所屬地方裁判所ニ繫屬スルモノニシテ更ニ訴訟ヲ提起スヘキモノニ非ス又準備書面ヲ提出スルノ要ナキモノトス

○裁判管轄ヲ定ムヘキ事實カ請求ヲ理由アラシムル事實ト符合スル場合ニ於テハ原告ハ特ニ其管轄ヲ定ムヘキ事實ノ存在ヲ證明スルヲ要セス

第十四條

第十四條

○民事訴訟法第十四條第一項ニ所謂國トハ帝國ノ國庫ヲ指シタルモノトス從テ判決ニ國ナル名稱ヲ以テ帝國ノ國庫ヲ表示スルハ違法ニ非ス

○日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ニ付テハ民事訴訟法第十四條第二項ニ依リ該支店ノ所在地ヲ以テ普通裁判籍ト爲スヘキモノトス

○會社ノ本店ニシテ日本ニ存在スル以上ハ外國會社ナルト將タ外國人カ日本ニ於テ立シタル會社ナルト又何レノ國ノ法律ニ據リテ成立シタル會社ナルトヲ問ハス其會社ニ對スル訴ハ民事訴訟法第十四條第二項ノ規定ニ依リ本店所在地ノ裁判所之ヲ管轄ス

第十六條

○民事訴訟法第十六條ハ特別ノ裁判籍ヲ規定シタルニ止マリ猶豫期間ニ關スル規定ニハ關係ナシ

第十八條

○民事訴訟法第十八條ハ被告ノ普通裁判籍カ内國ニ在ルト否トヲ問ハス又權利關係カ内國ニ於テ生シタルト否トヲ論セス同條所定ノ事項ニ付テハ其訴訟ニ係ル義務ヲ履行スヘキ地ノ裁判所ニ起訴スルコトヲ得セシムルノ法意ナリトス

○民事訴訟法第十八條ニ所謂其訴訟ニ係ル義務ヲ履行スヘキ地トハ契約不履行ニ關スル損害賠償ノ訴ヲ爲ス場合ニ於テハ其契約上ノ義務ヲ履行スヘキ地ヲ指シ賣買ノ代金支拂ノ債務不履行ノ原因トシテ損害賠償ノ訴ヲ爲ス場合ニ於テハ目的物ヲ引渡スヘキ地ニ非スシテ代金ヲ支拂フヘキ地ヲ指示スル法意ナリトス

○民事訴訟法第十八條ノ契約解除ノ訴ニハ契約ヲ解除シタル結果原狀ニ回復スルコトヲ請求スル訴訟ヲモ包含シ契約上ノ義務ヲ履行スヘキ地

六 七三

三四 九 七三

四二 七六

三 二二

五 二二

三六 一七四六

四 一七六一

三九 六二七

三八 一七五

四〇 二二四

ノ裁判所ニ提起スルコトヲ得ルモノニシテ其原狀ニ回復スルコトヲ請
求スル者ノ解除權者タルト將タ其相手方タルトヲ問ハサルモ其
同旨

民事訴訟法第十八條ニ所謂契約解除ノ訴トハ單ニ契約ノ解除ヲ求ムル訴ノミナ謂フニ非スシ
テ契約ヲ解除シタル結果原狀ニ回復スルコトヲ求ムル訴ヲモ包含スルモノトス
契約ヲ解除シタル結果原狀ニ回復スルコトヲ請求スル訴訟ハ民事訴訟法第十八條ニ依リ解除
セラレタル契約上ノ義務ヲ履行スヘキ地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス

第十九條

○民事訴訟法第十九條ニ所謂會社其他ノ社團ヨリ社員ニ對シ社員タル資
格ニ基ク請求ノ訴ノ中ニハ嘗テ社員タリシ者ニ對シ以前其社員タリシ
資格ニ基キ負擔シタル義務ノ履行請求ノ訴ヲモ包含スルモノトス

第二十條

○民事訴訟法第二十條ニ所謂不正ノ損害ノ訴トハ單ニ金錢ヲ以テ賠償セ
シメントスル損害賠償ノ訴ノミヲ指稱スルニ非スシテ汎ク不法行為ニ
原由セル訴ヲ包含スルモノトス

第二十二條

○官有地借地加名願書ニ調印ヲ請求スルハ行為ノ履行ヲ求ムル人權ノ訴
ニシテ民事訴訟法第二十二條ニ所謂不動産上ノ訴ニ非ス

○民事訴訟法第二十二條ニ所謂不動産上ノ訴トハ不動産ノ上ニ存スル物

權ニ關スル訴訟ノ謂ニシテ土地收用法ニ基キ收用セラレタル土地ノ補
償金ヲ求ムル訴ノ如キハ之ヲ包含セサルモノトス

○一番抵當權者甲カ抵當權ノ目的タル建物ニ變更アルニ因リ債務者ニシ
テ所有者タル乙ニ代位シ變更登記ヲ爲スニ當リ不動産登記法第九十三
條同第八十一條ニ依リ二番抵當權ノ登記名義人タル丙ノ承諾ヲ求ムル
爲メニ提起シタル訴ハ物權ニ關スル訴訟ニ非ス

第二十三條

○伐採木材ノ運搬ヲ差留メ其運搬ニ因リ更ニ受クヘキ損害ヲ防止セント
スル訴ハ不動産上ノ裁判籍ニ提起スヘキモノトス

○起業者カ收用ニ係ル土地ノ所有權ヲ取得シタル後被收用者ニ對シテ收
用補償價格ノ減却ヲ請求スル訴ハ民事訴訟法第二十三條第二項ノ規定
ニ該當セス

○民事訴訟法第二十三條第二項ニ所謂不動産ノ所有者ニ對スル人權ノ訴
トハ不動産ノ所有者ヲ其資格ニ於テ被告ト爲シ之ニ對シテ提起スル債
權ノ訴ヲ指稱ス從テ收用審査會ノ補償額決定ニ不服アル者カ起業者ノ
承繼人ニ對シ起業者タル資格ニ於テ自己ノ主張スル補償額ヲ承認セシ
メ且其辨濟ヲ求メントスル訴ノ如キハ之ニ該當セサルモノトス

五	一八七三
三	一九
三六	七七五
四	一八六六
三七	七三六
二九	一一六

三六	一一二五
六	一五七〇
二八	一〇六
三九	二九五
四一	二二三

○土地收用ニ因ル損失補償ノ訴ハ民事訴訟法第二十三條第二項ニ所謂不動産ニ加ヘタル損害ノ訴中ニ包含セラルモノトス

○土地收用補償金請求ノ訴ハ民事訴訟法第二十三條第二項所定ノ不動産ニ加ヘタル損害ノ訴ノ内ニ包含セラルモノトス

〔第二十四條〕

○民法第九百五十一條ノ規定ニ依ル訴ハ縱令其親族會ノ決議ノ目的タル事項カ相續人ノ選定ナルトキト雖モ民事訴訟法第二十四條ニ所謂相續權遺贈其他死亡ニ因リテ效果ヲ生スル處分ニ基ク請求ノ訴ニ屬セサルヲ以テ被相續人死亡ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ裁判所ニ提起スルコトヲ得サルモノトス

〔第二十九條〕

○民事訴訟法第二十九條ハ主トシテ内國裁判所ノ第一審ニ關シ合意シタル場合ノ規定ニシテ當事者カ外國ノ第一審裁判所ニ付キ合意シタル場合ニ於テ其合意ノ有效ナリヤ否ハ國際私法ニ於テ決セラルヘキ問題ナルヲ以テ同條ハ之ヲ許容セサル旨趣ヲ包含セサルノミナラス該規定ヨリ援テ外國裁判所ニ付テモ合意管轄ヲ許容スルモノト論決スヘク當事

者カ斯ル合意ニ依リ内國裁判所ノ管轄ヲ離脱セント欲スルモ我民事訴訟法ハ之ヲ禁止スル法意ニ非サルモノトス

〔第三十條〕

○原告カ強制執行處分取消並ニ物件ノ返還ヲ請求シタル場合ニ於テ其物件返還ノ請求ニ付テハ第一審裁判所ノ管轄權ヲ有セサルモ被告ヨリ管轄違ノ申立ヲ爲サスシテ本案ノ口頭辯論ヲ爲シタルトキハ受訴裁判所ハ此二箇ノ請求ヲ一箇ノ訴ニ併合シ得ルモノトス

○支拂命令ヲ發シタル區裁判所ニ土地ノ管轄違アル場合ト雖モ適法ナル債務者ノ異議申立アルトキハ督促手續ハ之ニ依リ終了スルモノナレハ其後ノ通常訴訟ノ管轄ニ付テハ民事訴訟法第三百八十三條第二項ノ適用ヲ受クヘキモノニ非スシテ同法第三十條第二十九條ノ適用アルモノトス

第五節 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避

〔第三十一條〕

○基本タル口頭辯論ニ臨席セス且前審ニ於テ其事件ニ付キ裁判長トシテ判決ヲ爲シタル判事ノ干與セル判決ハ違法ナリ

民事訴訟法 總則 裁判所 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避

一〇八一

四	八九〇
七	八二六
六	一三四九
五	一九二六
三	九七一
二	九三〇
一	二五〇

〔第三十三條〕

○裁判官ノ命令指揮ニ過失アリトシ之ニ對シテ異議ヲ申立テ其判事自ラ之ヲ判斷スルトキハ勢ヒ其行爲ヲ過失トハ認メサルヘク其結果ハ民事訴訟法ノ所謂偏頗ノ裁判ニ歸著スルノ恐アルカ故ニ之ヲ忌避スルヲ得ト論告スルハ甚タ其當ヲ得ス抑同法ノ「偏頗ノ忌避ハ判事ノ不公平ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ルヘキ事情アルトキ」トハ判事カ當事者ノ一方ニ親密ナルカ又ハ怨アルカ其訴訟ノ勝敗ニ因リ利害ノ關係アル場合等ヲ指シタルモノナリ

○判事カ刑事又ハ民事ニ關スル他事件ヲ判決スルニ當リ採用シ若クハ排斥シタル證據ヲ當事者ヨリ提出シタル場合ト雖モ他ニ特別ノ事情ナキ以上ハ其判事ニ於テ不公平ナル判決ヲ爲スノ恐アリト云フヲ得ス
○偏頗ノ忌避ハ判事カ不公平ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ルヘキ事情アルヲ要スルモノナルヲ以テ單ニ申出テタル證據調ヲ許容セザリシ一事ハ忌避ノ理由トスルニ足ラス

〔同三十三條〕

裁判所カ當事者ノ申立テタル唯一ノ證據方法ヲ排斥シタル場合ト雖モ他ニ事情ノ見ルヘキモノナクハ單ニ此一事ヲ以テ偏頗ノ裁判ヲ爲スヘキ疑アルモノト云フヲ得ス
裁判所カ當事者ノ證據調申請ヲ却下シ又ハ辯論續行ノ申請ヲ容レシテ辯論ヲ終結スルモ之

ヲ以テ直ニ不公平ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足レリト云フヲ得ス

〔第三十八條〕

○忌避ノ申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ不變期間ハ七日ナリトス

〔第四十一條〕

○裁判所書記カ前審ニ於テ書記トシテ不服ノ申立アル訴訟ニ干與シタル場合ハ除斥ノ原因ヲ生スルコトナシ

第六節 檢事ノ立會

〔第四十二條〕

○民事訴訟法第四十二條ハ同條ニ列記セル訴訟ニ付キ其口頭辯論ニ檢事ノ立會フヘキコトヲ規定シタルニ過キスシテ檢事ノ立會アルニ非サルハ辯論及ヒ裁判ヲ爲スヘカラサルコトヲ規定シタルモノニ非ス
○檢事ノ立會ハ民事訴訟ニ於ケル裁判所ノ構成ニ缺クヘカラサル要件ニ非サレハ原裁判所カ檢事ノ立會ヲ求メスシテ判決シタリトスルモ破毀ノ理由ト爲ラサルモノトス

〔同三十三條〕

民事訴訟法第四十二條ノ場合ニ於テ檢事ノ立會ナキモ單ニ之ノミヲ以テ上告適法ノ理由ト爲

三九 一〇四三

三五 四一

三三 四一

三〇 五四三

三三 五四三

二六 二八九

二六 二八九

二六 二八九

二六 二八九

二六 二八九

二七 一〇

三七 一五〇二

二二 八一

三七 一〇二二

スロ下ヲ得ス四十二條ノ場合ニ於テ檢事ノ立會ナキモ裁判所ノ構成上ニ影響ナキニ付
民事訴訟法第四十二條第八號ノ場合ニ於テ檢事ノ立會ナキモ裁判所ノ構成上ニ影響ナキニ付
キ其裁判ヲ破毀スル理由ト爲スニ足ラス

民事訴訟法第四十二條ハ檢事ノ立會ナケレハトテ判決ノ效力ニ影響ナシ

民事訴訟法第四十二條ハ檢事ノ立會ヲ要スヘキ規定ニ非ス偶々其立會ナカリシトテ判決ヲ無
效ナラシムヘキモノニ非サレハ上告適法ノ理由ト爲スヲ得ス

民事訴訟法第四十二條(無能力者ニ關スル訴訟ニ檢事カ立會ヲ要ス)ヲ規定ハ裁判所ノ構成
ニ關係ナキヲ以テ原院ノ口頭辯論ニ於テ檢事ノ立會ナキモ之カ爲メ原裁判ヲ不法ト云フヲ得
ス

檢事ノ立會ハ裁判所ノ構成ニ關係ナシ故ニ其立會ナキモ判決破毀ノ理由ト爲ラス
婚姻事件養子縁組事件ニ檢事カ立會フヘシトノ規定ハ義務的ノモノニ非ス隨テ其立會ヲ爲サ
サル判決ハ不法ニ非ス

民事訴訟ニ檢事ノ出席ナキモ裁判所ノ構成ニ關係ナク又裁判ノ曲直ニ影響ナキヲ以テ上告ノ
理由ト爲スニ足ラス

民事訴訟ニ於ケル檢事ノ立會ハ裁判所ノ構成ニ欠クヘカラサル要件ニ非ス又裁判ノ公平ヲ保
障スル所以ノモノニモ非ス故ニ口頭辯論ニ檢事ノ立會ナキトハ其判決ノ效力ニ何等ノ影響
ナ及ホスモノニ非ス

檢事ノ立會ハ民事訴訟ニ於ケル裁判所ノ構成ニ關係ナク又裁判ノ曲直ニ影響ナキヲ以テ上告ノ
離婚ノ訴訟ニ付キ檢事ノ立會ハ裁判所構成ノ要件ニ非ス

檢事カ民事訴訟法第四十二條ニ依リ民事訴訟ニ立會フヘキ場合ハ人事訴訟ノ或場合ニ其立會

ヲ必要トスル規定ト異ナリ其立會ナクシテ裁判ヲ爲スモ之ヲ以テ破毀ノ原因トスルヲ得ス

○民事訴訟法第四十二條第八號ニ所謂「證書ノ偽造若クハ變造ノ訴訟」ト
ハ同法第三百五十一條ニ依リ證書ノ眞否ヲ確定センコトノ申立ヲ爲シ
中間判決ヲ爲スヘキ場合ニ適用スヘキモノニシテ單ニ變造ノ抗辯ヲ主
張スル場合ニ該當セス

第一章 當事者

○英國法ニ依リハ各組合員ハ其組合事業ノ目的ヲ爲メ組合及ヒ他ノ組合
員ノ代理人タル資格ヲ有シ其行爲ヨリ生ズル訴訟行爲ニ付テモ亦當然
組合ヲ代表シ得ヘキモノトス

第四十三條

第四十三條

○辯護士會ハ法人ニ非サルモノノ社團ナルヲ以テ其會則中會長ヲシテ代
表セシムヘキ條項存スルニ於テハ辯護士會ノ名義ニテ訴答ヲ爲スコト
ヲ得ヘシ

○村長ノ管理セル部落ノ持地ニ對スル訴訟ハ村長ニ係リ訴フヘク管理權
ナキ村民ヲ對手ト爲スヘキモノニ非ス

三九	三六	三三	三〇	二七	二四	二一	一八	一五	一二	九	六	三	〇
一〇一	九八	九五	九二	八九	八六	八三	八〇	七七	七四	七一	六八	六五	六二

二五	二二	一九	一六	一三	一〇	〇七	〇四	〇一	三	六	九	一二	一五
一〇一	九八	九五	九二	八九	八六	八三	八〇	七七	七四	七一	六八	六五	六二

(第四十三)

- 法律上代理人カ未丁年者ノ爲メニ訴ヲ提起シ其訴訟繫屬中本人カ丁年ニ達シタル場合ニ於テハ本人自ラ訴訟ヲ進行シ得ヘキモノニシテ別ニ訴訟ノ中斷ヲ爲シ若クハ通知ノ手續ヲ爲スヲ要セス
- 郡長ハ民事上國ノ代表者トシテ訴訟ヲ爲スノ資格ヲ有スルモノニ非ス故ニ國ヲシテ賠償ノ責任ヲ負ハシメントスル訴訟ヲ郡長ニ對シ提起シタルハ不當ナリ
- 各人民カ使用スヘキ用水路ニ板堰ヲ設ケラレ各其使用ヲ妨害セララルヲ以テ之カ取拂ヲ請求スルハ各個人ノ權利ニ屬シ從テ訴訟能力ノ有無ニハ何等ノ關係ナシ故ニ裁判所カ職權ヲ以テ町村長ノ起訴スヘキモノニ非ストシ原告ニ訴訟能力ナシト判定セルハ不法ナリ
- 寺ノ代表ハ住職之ヲ爲スモノタリ故ニ寺ノ代表者トシテ住職ト共ニ檀家總代ヲ相手取りタル訴訟ハ不當ナリ

(同三三)

寺院ノ權利伸暢ニ關スル行爲ノ代表ニ付テハ法律上反對ノ規定ナキヲ以テ住職ヲ以テ寺院ノ代表者ト爲スヲ相當トス(同一判例二八年三卷一三七頁)

寺院ハ訴訟上住職ニ依リ代表セララルヘキモノニシテ檀家總代ニハ代表ノ資格ナシ

寺院ノ訴訟ハ其住職ヲ以テ代表者ト爲スヘキモノニシテ檀中ハ寺院ヲ代表スルノ能力ナシ

寺院ノ權利伸暢スルヲ以テ目的トセル訴訟ハ住職ニ於テ之ヲ代表スヘキモノニシテ檀家又

三〇	二八	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇
三〇	二八	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇
三〇	二八	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇

- 檀徒カ自己ノ名義ヲ以テ寺院ノ利益ノ爲メニ訴訟ヲ提起スルコトヲ許サレタル法律ノ規定ナク亦其慣習モ存在セス
- 寺院カ訴訟ヲ爲スニ當リ檀家總代ハ寺院ヲ代表スルノ權ナシ明治十四年内務省乙第三十三號達ハ寺院カ行政官廳ニ對シ願届等ヲ爲ス場合ノ規定ニ過キス

(同三三)

檀家總代ハ寺ヲ代表スル權利ナキモノトス

- 社掌ハ社司ノ缺ケタル場合ニハ神社ヲ代表シ訴訟ノ對手ト爲ルノ權アリ隨テ其訴訟行爲ハ訴訟審理中ニ任命セラレタル社司ニ對シテ效アリ
- 信徒總代ハ神社ヲ代表スルノ權ナシ
- 未成年者ニ對シテ法律上代理ノ資格ナキ者ハ未成年者ヲ代表シテ上告ヲ爲スノ權ナキモノトス
- 未成年者ノ法律上代理人ニシテ適法ノ資格ヲ有セサル者カ提起シタル訴訟ト雖モ其資格ノ欠缺ハ之ヲ補正シ得ヘキ性質ノモノナルカ故ニ其訴訟提起ハ絶對ニ無効ノモノニ非ス
- 夫ノ妻ニ於ケル授權ニ關シテハ訴訟代理人ニ付キ審級毎ニ書面委任ヲ

三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇
三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇
三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇

- 要スルカ如キ規定ナキヲ以テ第一審ニ於テ其夫ノ許可ヲ受ケタル上ハ其訴訟事件ニ付テハ上級審ニ至ルモ更ニ其許可ヲ要セスシテ訴訟行爲ヲ有數ニ爲シ得ルモノトス
- 民法施行前組合ノ解散ニ際シ組合員ノ爲メニ選定セラレタル職務取扱人ナルモノハ民法其他ノ法規上別ニ其資格ヲ認メラレサルヲ以テ民法施行後ニ在テハ自ラ訴訟ヲ爲シ又ハ訴訟代理人ヲシテ之ヲ爲サシムルノ能力ヲ有セサルモノトス
- 寺院ノ住職ヲ兼務セル者ハ單ニ住職兼務ノ事實ヲ縣廳ニ届出テサルノ故ヲ以テ其寺ノ住職ニ非スト云フヲ得ス從テ右住職ハ寺院ヲ代表シテ訴訟ヲ爲ス資格アルモノトス
- 明治十一年太政官布告第十七號郡區町村編制法ノ適用ヲ受タル村ノ總代人ハ村ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲スノ權限ナキモノトス
- 醫師會ノ如ク特定ノ法規ニ準據シテ組織セララルル社團ニ在リテハ縱令○法人ト認ムル規定存セサルトモ其會則ニ特ニ會長ヲ以テ會ヲ代表セシムヘキ旨ヲ規定セルトキハ會長ハ會長ノ名ヲ以テ會ヲ代表シ裁判上又ハ裁判外ニ於テ會ノ事務ヲ執行スル權限ヲ有スルモノトス
- 醫師會カ其會則ニ基キ爲シタル決議ノ執行ニシテ其會則ニ依リ會長ニ

三五	二〇
三六	四九
三七	二〇
三八	二〇
三九	二〇
四〇	二〇
四一	二〇
四二	二〇
四三	二〇
四四	二〇
四五	二〇
四六	二〇
四七	二〇
四八	二〇
四九	二〇
五〇	二〇
五一	二〇
五二	二〇
五三	二〇
五四	二〇
五五	二〇
五六	二〇
五七	二〇
五八	二〇
五九	二〇
六〇	二〇
六一	二〇
六二	二〇
六三	二〇
六四	二〇
六五	二〇
六六	二〇
六七	二〇
六八	二〇
六九	二〇
七〇	二〇
七一	二〇
七二	二〇
七三	二〇
七四	二〇
七五	二〇
七六	二〇
七七	二〇
七八	二〇
七九	二〇
八〇	二〇
八一	二〇
八二	二〇
八三	二〇
八四	二〇
八五	二〇
八六	二〇
八七	二〇
八八	二〇
八九	二〇
九〇	二〇
九一	二〇
九二	二〇
九三	二〇
九四	二〇
九五	二〇
九六	二〇
九七	二〇
九八	二〇
九九	二〇
一〇〇	二〇

屬セシメタルモノニ付テハ某會員ヲ過怠金ニ處スル決議ノ如キモノ之ヲ執行スルカ爲メ會長ハ其資格ニ於テ會ヲ代表シ裁判上ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノトス

○明治十七年太政官第十九號布達ニ依リ所屬官廳ノ認可ヲ經テ制定シタル宗規ニ基キ適式ニ任命セラレタル寺務管理者ハ寺院ノ住職欠缺中其職務ヲ攝理スルノ權限ヲ有スルヲ以テ該寺院ヲ代表シ訴訟行爲ヲ爲ス資格アルモノトス

(同主旨)

寺院ノ代表者ニ付テハ法律ノ明文上何等ノ規定ナキヲ以テ住職ノ欠缺シタル場合ニ於テ住職ノ職務ヲ攝理スル權限ヲ有スル者アルトキハ訴訟上ニ於テモ住職ト同シク寺院ヲ代表スル資格アルモノト認ムルヲ當然トス

○町村大字カ縣廳ノ許可ヲ得テ木樋ニ依ル水路ヲ設置シタルトキハ該用水路ハ其所屬地籍ノ如何ヲ問ハス又之ニ依リ便益ヲ受クル者ノ大字自體ナルト其住民ナルトヲ論セス大字ノ營造物トシテ町村長ノ管理ニ屬スルモノトス從テ町村長カ同大字ヲ代表シ該木樋ニ依ル引水權確認ノ訴ヲ提起シタルハ適法ナリ

○明治十七年農商務省達第三十七號同業組合準則ニハ同業組合ヲ法人ト爲ス旨ノ規定ナケレハ同業組合ハ權利義務ノ主體ト爲リ其名ニ於テ訴

四	一五八
五	一五七
六	一五七
七	一五七
八	一五七
九	一五七
一〇	一五七
一一	一五七
一二	一五七
一三	一五七
一四	一五七
一五	一五七
一六	一五七
一七	一五七
一八	一五七
一九	一五七
二〇	一五七
二一	一五七
二二	一五七
二三	一五七
二四	一五七
二五	一五七
二六	一五七
二七	一五七
二八	一五七
二九	一五七
三〇	一五七
三一	一五七
三二	一五七
三三	一五七
三四	一五七
三五	一五七
三六	一五七
三七	一五七
三八	一五七
三九	一五七
四〇	一五七
四一	一五七
四二	一五七
四三	一五七
四四	一五七
四五	一五七
四六	一五七
四七	一五七
四八	一五七
四九	一五七
五〇	一五七
五一	一五七
五二	一五七
五三	一五七
五四	一五七
五五	一五七
五六	一五七
五七	一五七
五八	一五七
五九	一五七
六〇	一五七
六一	一五七
六二	一五七
六三	一五七
六四	一五七
六五	一五七
六六	一五七
六七	一五七
六八	一五七
六九	一五七
七〇	一五七
七一	一五七
七二	一五七
七三	一五七
七四	一五七
七五	一五七
七六	一五七
七七	一五七
七八	一五七
七九	一五七
八〇	一五七
八一	一五七
八二	一五七
八三	一五七
八四	一五七
八五	一五七
八六	一五七
八七	一五七
八八	一五七
八九	一五七
九〇	一五七
九一	一五七
九二	一五七
九三	一五七
九四	一五七
九五	一五七
九六	一五七
九七	一五七
九八	一五七
九九	一五七
一〇〇	一五七

○ 認す爲ス資格ナキモノトス
妻ハ民法第十七條ニ規定スル場合ノ外ハ訴訟行爲ヲ爲スニ付キ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノナレハ其許可ナクシテ爲シタル上告ハ訴訟能力ヲ有セサル者ノ提起ニ係ルヲ以テ不適法ナリトス

(參照)

民事訴訟法第四十三條ハ民法ノ施行セラレサル間ハ實施スルコトヲ得サル法條ニシテ現今ノ例規ニ於テハ後見人ナキ一般未丁年者ハ自ラ私權ヲ行使スルヲ禁セサルモノトス
未成年者ノ後見ハ未成年者カ成年ニ達スルト同時ニ終了シ後見人ハ其資格ナク隨テ被後見者ヲ代表スル所ノ訴訟能力ヲ有セサルコト論テ候タス

私立銀行ハ一ノ組合ニシテ組合解散後ハ組合員全體ノ外訴訟ヲ爲スノ資格ナシト論告スルモ殘務委員ナルモノハ殘務ニ關スル事務ヲ處理スベキ責任ヲ有スルモノナレハ殘務ニ關係アル訴訟ニ付キ解散シタル銀行ヲ代表スベキ權アルハ論テ候タス

上告人ハ明治十八年中ニ其所有ノ共立商社株式ヲ悉皆他ニ賣渡シタルモノナレハ十九年中該社ニ係リタル訴訟ニ對シテハ社長カ當然上告人ヲモ代表シタルモノナリト云フヲ得ヌ本訴ハ被上告人カ同社ニ預ケ金ヲ爲シタル當時即チ明治十七年中上告人ハ株主タリシト云フ理由ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニ付キ彼是同一ノ當事者ナリト云フヲ得ヌ則チ一事再訴ニ非サルナリ

法律ノ結果ニ依リ官廳カ得タル權利ハ其廳ノ存在スル間ハ良シヤ所屬上班官廳ニ變更アルモ爲メニ消滅スルモノニ非ス本件控訴ヲ提起シタル明治二十六年五月二十二日ニ在テハ尙ホ鐵道廳存在セシナリ以テ同廳長官ハ訴訟ニ關シ國代表スル權ヲ有スルコト明治二十五年內務省令第四號ニ於テ明カナリ然ルニ原院ハ控訴提起ノ當時ハ既ニ鐵道廳長官ノ國代表スル權利

六	七	二五	二七	二六	二六
七三	七三	四五	三九七	二四四	二六四

委任消滅シタルモノトシテ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリ
未丁年者丁年ニ達スレハ後見ハ當然止ミ訴訟能力ヲ有スルモノナルヲ以テ控令起訴ノ當時後見人ヲ有シタルモ訴訟進行中丁年ニ達スレハ其後ハ訴訟行爲ハ自ラ爲ササレハ何等ノ效果ヲ生セシムヘキモノニ非ス
未丁年者ニシテ後見人ナキモノニ付テハ裁判所ニ於テ調査ヲ爲シ普通智識アルモノト認ムルトキハ訴訟能力者トシテ其訴訟ヲ進行スルコトヲ得

本家ニシテ且親族タル關係ヲ有スル者ハ分家ノ秩序ニ關スル事務ニ付キ容喙ノ權ヲ有スルカ故ニ分家ニ於テ跡相續ヲ爲スヘキ者ノ順位ニ付キ不當ノ處置アリト認ムル場合ハ其相當順位ニ在ル者ヲ保護スル爲メ分家ニ對シ訴訟ヲ起スコトヲ得

幼者ハ訴訟當事者タル能力ヲ有スルヲ以テ之ヲ對手トシテ起訴スルハ不法ニ非ス
法人ニ非サル團體ニシテ其名義ヲ以テ訴訟行爲ヲ爲スハ特例ニ屬ス故ニ舊來裁判上公認セラレタル團體ノ外ハ此能力ナシ

賴母子議會ハ訴訟上其役員ニ依リ代表セラルルハ裁判上一般ノ慣例ナリ
幼者ノ親族ハ其幼者ニ自然ノ後見人アル場合之ヲ擱キ幼者ノ爲メ自ラ訴訟ヲ提起スル權能ナシ

普通水利組合ノ管理者ハ外部ニ對シ其組合ヲ代表スルノ權アリ而シテ外部ニ對シ訴訟ヲ爲スニ付テハ別ニ授權ヲ受クルコトヲ要スヘキ法文ナク唯組合會ノ決議ヲ爲スヘキ事項中ニ其授權ヲ包含スルモノト看做ス慣例アリト雖モ斯ル決議ノ如キハ其訴訟カ控訴審ニ繫屬スルトキニ至リ之ヲ爲スモ遡テ以前ノ行爲ヲ追認シタルモノト推定スヘキモノトス

町村内ノ區カ財產ヲ所有シテ區會ノ設ナキ場合ニ於テ町村長カ區有財產ニ關スル訴訟ニ付キ

三	三〇	三〇	二九	二六	二六
六	二	一〇	五五	三	三
八二	五六	六一	二〇	一四七	四〇六

○シ之ヲ追完セシメタルトキハ其追完ハ有效ナリトス
 ○法律上代理人タル資格ニ欠缺アル者カ提起シタル訴訟ト雖モ絶對ニ無効ノモノニ非スシテ其資格ノ欠缺ハ追完ニ依リテ之ヲ補正シ有效ノ訴訟タラシムルコトヲ得ルモノトス

〔同主旨〕

法律上代理人タル資格ナキ者ニ於テ提起シタル不合法ノ訴訟ト雖モ其本人若クハ正當ナル法律上代理人カ之ヲ追認シ其訴訟ヲ受繼スル以上ハ既往ノ欠缺ハ之カ爲メ自ラ補正セラルルモノトス

法定代理人タル資格ナキ者カ爲シタル訴訟行爲ト雖モ本人又ハ正當ノ法定代理人之ヲ追認シタルトキハ代理ノ欠缺ハ補正セラレ其訴訟行爲ハ適法ト爲ルモノトス

○適法ノ法定代理人ニ非サル者カ代理人トシテ第一審ノ訴訟行爲ヲ爲シタル場合ト雖モ第二審ニ至リ本人又ハ適法ノ法定代理人カ訴訟手續ヲ受繼キ追認シタルトキハ代理ノ欠缺ハ補正セラレ第一審ノ訴訟行爲モ有效ト爲ルモノトス

〔同主旨〕

適法ノ後見人ニ非サル者カ未成年者ノ代理人トシテ第一審ノ訴訟行爲ヲ擔任シタル場合ト雖モ第二審ニ至リ適法ノ後見人其訴訟手續ヲ受繼シタルトキハ前審ノ訴訟行爲ヲ追認セルモノニ外ナラサレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スナ得ス

〔同主旨〕

未丁年者カ第一審以來爲シ來レル訴訟行爲ヲ第二審ニ於テ後見人カ是認シ其訴訟ノ續行ヲ希望スル旨ノ意思ヲ表示シタル場合ハ第一審以來ノ總テノ訴訟行爲ハ有效ナリトス
 未丁年者カ訴訟能力ヲ有スルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニシテ裁判所カ職權上調査スヘキ事項ナリ故ニ其調査ヲ爲サスシテ反證ナキヲ以テ能力ナシト裁判セルハ不法ナリ
 大字ノ屬スル各村ノ村會ニ於テ第一審以來大字代表者ノ爲シタル訴訟行爲ヲ追認シ且上告審ニ於ケル應訴ノ決議ヲ爲シタル以上ハ縱令控訴審ニ於ケル應訴ノ村會決議カ不完全ナル爲メ右代表者ニ對スル授權ニ欠缺アリトスルモ其欠缺ハ追認ノ爲メニ補正セラレ代表者ノ行爲ハ總テ有效ナリトス

〔第四十六條〕

○民事訴訟法第四十六條ハ不分明ナル相續人ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於ケル規定ナレハ訴訟ノ繫屬中當事者ノ死亡スル者アリテ相續人ノ未定ナル場合ニ適用スルヲ得ス

〔同主旨〕

民事訴訟法第四十六條ハ訴訟無能力者ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ特別代理人選任ノ申請ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シタルモノニシテ訴訟ノ進行中ニ當事者ノ一方カ訴訟無能力者ト爲リタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第四十六條第一項ニ依リ受訴裁判所ノ裁判長カ選任シタル特別代理人ハ訴訟行爲ニ付キ法律上代理人ノ權利及ヒ義務ヲ有スルモ

三	三	三	三	三	三	三	三
六	九	二	二	二	二	二	二
五二	一七	八二	一〇二	一一二	一二二	一三二	一四二
一六九二	一四九二	一六二	九〇	五九六	二八八	八二七	

三	三	三	三	三	三	三	三
六	九	二	二	二	二	二	二
五二	一七	八二	一〇二	一一二	一二二	一三二	一四二
一六九二	一四九二	一六二	九〇	五九六	二八八	八二七	

ル判決ノ結果如何ヲ願ミルコトナク賣渡人ニ付テハ其抹消登記ノ義務者タラサル理由ヲ以テ請求ヲ却下スルヲ當然トス

四二 一〇五

○共有權ノ確認ヲ求ムル部分カ權利關係ノ合一ニノミ確定スヘキモノナルトキハ該權利移轉ノ登記手續ヲ求ムル部分ニ付テモ其登記義務アルヤ否ヤハ專ラ右共有權確認請求ノ當否ニ繫ルモノナルヲ以テ此部分モ亦權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノトス

二 六六一

○共有者ノ一部カ他ノ共有者ニ對シ其各自ニ有スル一定ノ持分ニ於ケル共有權ノ確認及ヒ登記ヲ求ムル訴ニ在リテハ其判決ハ單ニ當事者間ニノミ效力ヲ有スルニ止マルモノナルヲ以テ訴ニ干與セサル他ノ共有者ト訴ノ當事者トノ間ニ於テ權利關係カ合一ニ確定セラルヘキモノト云フヲ得ス

三 七五

○甲地ト乙地トノ經界線ニ紛亂ヲ生シタルトキハ甲地ノ所有者其他ノ物權者ハ乙地ノ所有者其他ノ物權者ニ對シ經界ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘク縱令兩地ト一點ニ接觸スル丙地アリテ其一點ノ所在カ甲乙兩地ノ所有者等間ニ爭アル場合ト雖モ此一事ニ依リ丙地ノ所有者其他ノ物權者ヲ共同被告トシテ訴フルコトヲ要セス

三 一七二

ルモノニシテ其關係ハ契約當事者間ニ合一ニノミ確定スヘキモノナレハ該訴訟ニ於テハ抵當權者ハ貸貸人及ヒ賃借人ヲ共同被告ト爲スヘキモノトス

四 一五九六

○土地所有者カ共同地上權者ニ對シ地代増額ノ請求ヲ爲スニ當テハ縱令權利關係カ合一ニ確定スヘキ場合ト雖モ其請求ヲ肯セサル者ニ對シ裁判上ノ請求ヲ爲スヲ以テ足り必スシモ共同地上權者全員ヲ被告ト爲スコトヲ要セサルモノトス

五 七六五

○民事訴訟法第五十一條第一項ニ依ル主參加訴訟ハ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノナルトキニ限リ同法第五十條ニ規定セル必要的共同訴訟ニ屬スルモノトス

六 一〇一一

○民事訴訟法第五十條第一項ニ所謂權利關係カ合一ニノミ確定スヘキトキトハ數人共同シテ訴訟ヲ爲スニ非サレハ訴カ適法ト爲ラサルトキハ勿論一旦數人カ共同訴訟人ト爲リタル以上ハ係爭權利關係カ原告ノ主張ニ從ヘハ其性質上該共同訴訟人ニ對シ別箇ニ確定スルコトヲ許ササルトキヲ指示スルニ他ナラサレハ原告カ數人ノ被告ニ對シ所有權ノ確認ヲ求ムル訴訟ノ如キハ同條ノ必要的共同訴訟ニ屬スルモノトス

六 一〇一一

(同主旨)

民事訴訟法第五十條ニ所謂權利關係カ合一ニノミ確定スヘキトキトアルハ訴テ適法ナラシムル必要上共同シテ訴訟ヲ爲ス場合ハ勿論然ラサル場合ト雖モ係爭權利關係カ共同訴訟人ニ對シテ別箇ニ確定スルコトヲ許ササルトキヲ謂フモノトス

○主參加ノ訴カ本訴訟ノ當事者雙方ニ對シ所有權ノ確認ヲ求ムルニ在ルトキハ民事訴訟法第五十條ニ規定セル必要共同訴訟ニ屬スルモノトス

○係爭權利關係カ總テノ共同訴訟人ニ對シ合一ニノミ確定スヘキ案件ニ付テハ辯論ヲ分離シテ裁判ヲ爲スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第五十條ニ所謂權利關係カ合一ニノミ確定スヘキトキトアルハ訴テ適法ナラシムル必要上共同シテ訴訟ヲ爲ス場合ノミナラス係爭權利關係カ其性質上各共同訴訟人ニ對シ同一旨趣ノ判決ヲ爲スニ非サルハ訴訟ノ目的ヲ達スルコトヲ得サル場合ヲモ包含スルモノトス

○必要共同訴訟ニ屬セサル共同訴訟人ノ一人ニ對スル上告ノ取下アリタル場合ニ在リテハ其者ニ關スル原審ノ訴訟手續ノ違法ハ他ノ共同訴訟人ニ對スル上告ノ理由ト爲スニ足ラサルモノトス

○普通共同訴訟ニ付テハ上訴者ノ利害關係ヲ他ニ及ボサスト雖モ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ共同訴訟ニ付テハ其受ケタル判決ノ效力

ハ他ノ上訴セサル者ニ及フヘキモノトス

○總テノ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ場合ト雖モ共同訴訟人中ノ或者ニ於テ訴訟ヲ進行スル權利ヲ拋棄スルトキハ其者ヲ除キ他ノ共同訴訟人ノミニテ其訴訟ヲ進行スルコトヲ得隨テ共同訴訟人ノ一名ノ資格ニ不法ノ點アリテ判決ノ一部ヲ破毀スルモ他ノ共同訴訟人ノ訴訟行為ニ影響ヲ及ボサス

○同音言

權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ訴訟ニ於テ其當事者中ノ一人若クハ數人ニ關シテ訴訟關係消滅スルコトアルモ爲メニ同事件ニ於ケル他ノ當事者間ノ訴訟關係ヲ消滅セシムルモノニ非ス

○權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ事件ニ在リテハ其判決カ共同訴訟人ノ一人ニ對シ不法ナルトキト雖モ其全部ヲ破毀スヘキモノトス

○二人以上ノ者カ共同シテ同一債權ノ履行ヲ求ムル訴ニ於テハ實體上之ヲ分割シ得ヘントスルモ共同訴訟トシテ裁判所ニ繫屬シタル以上其結果ハ合一ニノミ確定スヘキモノナレハ其一人ニ關スル訴訟手續ノ違法ハ他ノ者ノ利害ニ於テ其效ヲ生スヘキモノトス
○債權者カ債務者及ヒ受益者ニ對シ詐害行為ノ取消ヲ請求シタル場合ニ

二六

四

八

三

八

三

三〇

一

一

三

五

七

二

二

五

二

一

五

二

二六八

六

一〇一一

六

二三五七

六

二〇七〇

七

九二五

○於テ受益者カ争ヒタル事實ニ付キ爲シタル債務者ノ自白ニ依リ心證ヲ形成シ以テ其詐害事實ヲ認メ受益者ニ於テモ亦債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知リタルモノト推定シタル判決ハ不法ナリ

四二 二七三

○共同訴訟人ニ對シ權利關係カ合一ニノミ確定スルモノト認ムヘキ案件ニ於テ被告人中ノ或人カ原告人申立通ノ判決ヲ求メ上告論旨ニ同意シタルトキハ民事訴訟法第五十條第三項ヲ適用スヘキモノトス

四三 二七九

○連署者タルノ故ヲ以テ共同被告タルモ其權利關係カ合一ニ確定スヘキモノニ非サルトキハ該被告中第一審ノ口頭辯論ニ闕席シタルモノアルモ他ノ出席者ニ代理ヲ任シタルモノト看做サス故ニ其闕席判決ニ基因セル故障申立ニ對スル判決ノ控訴ヲ受理スルモ違法ニ非ス

四四 二二六

○權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ共同訴訟ナルトキハ共同訴訟人タル者カ適法ノ委任ヲ爲ササリシカ爲メ期日ニ出頭セサルモノトスルモ民事訴訟法第五十條第四項ノ規定ニ依リ他ノ共同訴訟人ニ代理ヲ任シタルモノト看做スカ故ニ其判決ハ此等ノ者ニ對シテ效力ヲ有ス

四五 二八九

(同主旨)
共同訴訟ニシテ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキトキニ於テ法律上共同訴訟人中ノ或人カ期日ヲ懈怠シタルモ其懈怠セサル者ニ代理ヲ委任シタルモノト看做スヘキハ法律ノ規定スル所ナルヲ以テ共同訴訟人中ノ一人ニ代理委任ヲ爲スコトニ於テ欠缺アルモ全ク訴ノ提起ナキ場

四六 二八九

合ト同一ニ論スルヲ得ス

四七 二八九

○民事訴訟法第五十條第四項ハ期日ヲ懈怠セサル者カ自身出廷セルト代理人ヲ出廷セシメタルトヲ區別セス孰レノ場合ニモ適用スヘキモノナリ且同條ニ依ル代理ニ付テハ民事訴訟法第六十五條ノ訴訟委任ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

四八 二八五

○共同訴訟ニ付テハ裁判所ハ先ツ民事訴訟法第四十九條ノ一般規定ヲ適用スヘキ事件ナルヤ將タ第五十條ノ特別規定ヲ適用スヘキ事件ナルヤヲ定メ第五十條ノ規定ヲ適用スヘキモノタルニ於テハ其數名カ一箇ノ判決ヲ以テ言渡ヲ受クルモノニ對シ或人ノミカ上訴若クハ故障ヲ提起セハ殘餘ノ當事者ニ付テモ亦上訴若クハ故障期間ノ中斷ト看做シ其總員ヲ呼出シ辯論ヲ爲サシムヘキモノトス

四九 二八二

(同主旨)
必要的共同訴訟ニ付キ數人中一人ノミ上訴シ他ノ者ハ上訴セサル場合又ハ上訴ノ際一人ヲ相手ト爲シ他ノ者ヲ相手ト爲ササル場合ニ於テモ裁判所ハ當然上訴セサル者又ハ上訴ノ際相手トセラレサル者ヲ呼出シ審理判決ヲ爲ササルヘカラス

五〇 二八〇

○權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ共同訴訟ニ於テ控訴期間ニ付キ民事訴訟法第五十條第四項ノ規定ヲ適用スルニハ總テノ共同訴訟人ニ對シ第一審判決ノ送達アリタルロトヲ必要トス

五一 二八〇

民事訴訟法 總則 當事者 共同訴訟人

五二 二八〇

民事訴訟法 總則 當事者 共同訴訟人

五三 二八〇